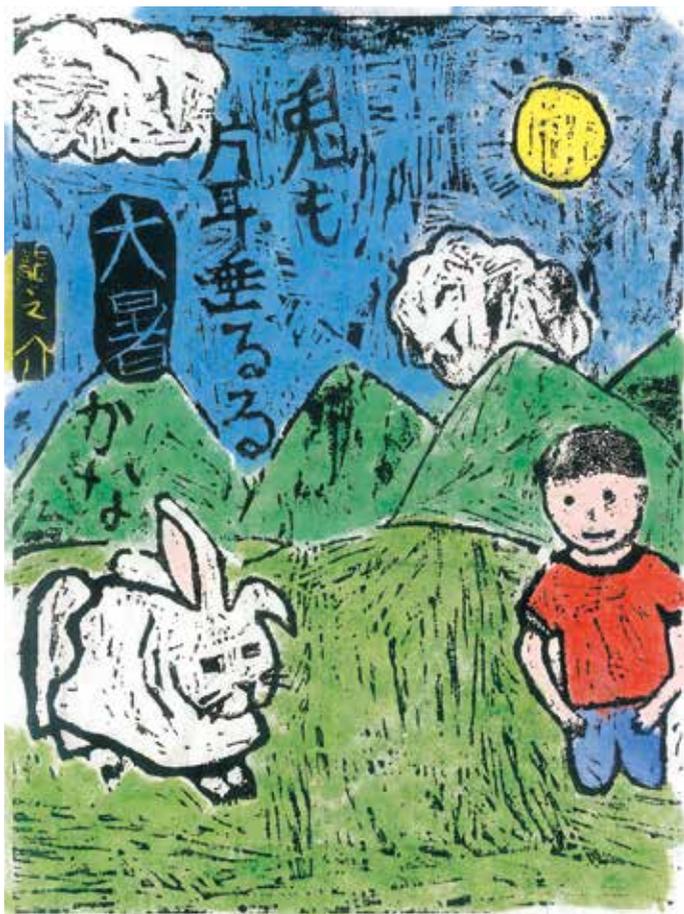


金光学園

やっなみ

2013. 7





高校入学式

中学入学式



中学ゆずり葉の会



平成二四年度の「中学ゆずり葉の会」は、例年通り中三から中一・中二への生徒会活動の引き継ぎの場として、義務教育修了式後、ほつま体育館で行われました。

一年生は、きれいな歌声と寸劇、呼びかけて三年生への感謝の思いを伝えました。

次に二年生は、三年生との思い出を振り返ると寸劇で、思わず笑いや拍手の起こる場面もありました。また、三線の演奏と歌でこれから旅立つ三年生への深い感謝を伝えました。

三年生は、中学最後の行事です。準備期間は短かったものの、そのなかで実行委員が中心になり企画・練習を行い、自分たちが培った三年間の自主活動・文化活動の総まとめを全員が一致団結して行いました。出し物のテーマは「Only One」199人199色。中三の仲間、誰一人欠けても、今の私たちは存在しません。この三年間で出逢い、お世話になったすべての人に「ありがとう」の気持ちを込めて、私たちの笑顔を届けることが最大の目的でした。

今までお世話になった人々たちへの感謝の気持ちや三年間で学んだ多くのことを伝える呼びかけを軸に出し物が構成されました。全員で行ったハンドクラップ。それぞれが違うタイミングにも関わらず、一人一人が自分の役割をきちんと行うことで、一九九人リズムが合ったハンドクラップで観客を惹きつけました。合唱曲は、「栄光の架け橋」「旅立ちの日に」「道」。今までの自分、これからの自分の架け橋の意味を重ねながら、三年間の思いを胸に、全員で熱唱しました。また、全員でひな壇に作ったスミイによる演出やブラックライトでのパフォーマンスは、「199人199色」のテーマをはっきりと表現したのもとなり、before & afterではこの三年間の成長をスライドを通して表現するとともに、今まで伝えることができなかった想いを伝えました。朗読の「道」では、これからの自分たちへの言葉を変えて表現しました。

たった三十分の舞台でしたが、中学三年間の集大成であり、さらに高校へのスタートラインに立つにふさわしい出し物となりました。

日々積み重ね

先日、サッカー日本代表（男子）が2014年ワールドカップ、ブラジル大会への出場権を獲得しました、これで5大会連続での出場となります。

今回の代表選手インタビューでは、「目標はワールドカップでの優勝です。」という頼もしい言葉も聞かれました。

しかし、過去をみると、1998年のフランス大会に初出場を決めるまで、日本代表は何度も何度もアジア地区予選という壁に跳ね返され続けました。

あと数十秒のところまで得点を許し、出場権を逃した1993年の「ドーハの悲劇」は有名ですが、その他の大会でも多くの選手や数えきれないほどの関係者が、それぞれ歯を食いしばって頑張っても約半世紀の間、日本代表はワールドカップ本大会に出場することができなかったのです。

その日本代表が、今日のような成長を遂げ得たのは、大きな目標に向かって課題とその対応策を持ち、国内プロリーグ（Jリーグ）を設立し、ジュニア世代からの育成など土台を築き、結果が出ない時も弛まぬ努力を日々続けてきたからに他ありません。

サッカー界に限らず、今私達が生活しているステージ各々も長年の積み重ねによって創造されてきたものでありますし、私達自身が毎日その歴史を更新しているのです。

言い換えれば、現存するもの全てが先人の尽力の結晶であり、未来をどの様なものにするかは、私達の現在の行動次第で決まってくるのです。

来年、金光学園は創立120周年を迎えます。

119年間の歴史と伝統に思いを馳せ感謝と尊敬の念を抱きながら、120年目の新たな、そして素晴らしいページを共に記していきたい。

そんな気持ちで一人ひとりが大きな目標を掲げて、それを達成するために日々邁進して頂く事を切に願っております。

（金光学園やつなみ保護者会 副会長）

往田啓介

目次

巻頭言.....	2
金光学園 中学・高等学校入学式道(7).....	10
学園生の故郷.....	12
活躍する卒業生.....	14
やつなみ保護者会のページ.....	16
自画像.....	18
やつなみ保護者会地区会.....	21
学園随想例.....	22
活躍おめでとう.....	24
平成25年度大学入試結果.....	29
イギリス短期語学研修.....	30
高一学習合宿.....	33
中学生になって.....	36
新入生歓迎会.....	38
中一入校時合宿.....	41
中三修学旅行.....	44
中二教育キャンプ.....	48
探究授業報告.....	54
ある日のホールルーム.....	56
中一音楽発表会.....	58
芸術鑑賞会.....	62
高三人権講演.....	65
生徒会活動.....	66
会報.....	77
会長就任挨拶.....	78
友愛セーブルご協力のお祝い.....	79
法人決算の概要.....	80
保護者会決算・予算.....	81
一日入学のお知らせ.....	84
学園だより.....	86
教室の窓から.....	90
編集後記.....	

金光学園 中学・高等学校 入学式

四月八日、入学式が挙行された。中学は午前九時から百八十七名が、高校は午後一時三十分から二百三十五名（留学生一名含む）が、多数の来賓・保護者・教職員の祝福を受けて新たな出発をした。

校長式辞の後、中学は渡邊俊介君が、高校は梶尾桃花さんがそれぞれ「願いの言葉」を力強く述べた。続いて学校法人理事長の挨拶、来賓を代表して中学は金光教務総長、高校は金光教務部長の祝辞があり、次に、保護者を代表して中学は土肥三郎氏、高校は荒島恵美子氏の挨拶があった。

終わりに、中学は生徒会事務局と音楽部による学園歌紹介、高校は学園歌斉唱で式の最後が締めくくられた。



三月の日曜日の二日間をスクーリングと名づけて登校してもらいました。そして、英語や国語や数学など実際の授業を受けてもらいました。また、中一になるにあ

式辞

校長 金光 道晴



ご来賓の皆様には公私ともご多用のところ、ことに金光教関係の皆様には、ご大祭の期間中を、またやつなみ保護者会の皆様には年度初めの大変お忙しい中を、お練り合わせ、ご臨席を賜りまして誠に有り難うございます。

保護者の皆様には本日は誠にとおめでとうございます。大切なお子様をこの金光

学園に入学させていただきましたことを、心から御礼申し上げます。保護者の皆様には後ほどの説明会の時間に改めてご挨拶申し上げたいと存じます。

さて百八十七名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。私たちは、希望に燃え、きらきら輝いている元気一杯の皆さんをこうしてお迎えして、今日から皆さんと一緒に学園生活を送ることができるとを、大変嬉しく有り難く、心から喜ばしてもらっています。

今日は、皆さんの学園生活の第一日目でありますが、こうしてここから皆さんの姿を見てみると、例年の新入生より、落ち着いてこの入学式に臨んでいるように感じられます。

というのも皆さんには、入学する前に少しでも、学園生になるための準備をしてもらいたいということで、今回初めて、

たつて、入学前に取り組んで欲しいことや、これからの学園生活で取り組んで欲しいことなどを聞いてもらい、宿題なども出し、提出してもらいました。

この入学前のスクーリングは、皆さんに早く学園生活に慣れ、少しでも不安や心配が少なく、新入生としてのいいスタートを切っていただきたいという願いから今年あらたに設けたのであります。

したがって、皆さんの中のほとんどの人は、今日までに最低でも五、六回は学園に来ていると思いますし、オープンスクールや模擬試験も含めると、もう何時間も学園の教室で勉強してきていると思います。

だから、今日の入学式も大きな不安や心配も少なく、迎えることができたのではないかと思っっていますが、どうだったでしょうか。

さて、皆さんはこれまでに学園の合言葉である「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」という言葉を見たり聞いたりしたことがあると思っ

ます。この言葉は正門の石碑にも刻まれていますし、全ての教室にも掲げられています。これからも卒業まで何回となく聞

くことになると思います。

金光学園では、生徒も保護者も教職員も、そして卒業生にいたるまで最も大切にしての言葉なのですが、「校訓」と言わずに「合言葉」と呼んでいます。

なぜ合言葉というのでしょうか。そもそも合言葉とはなんでしょうか。合言葉の一つの意味は、前もって問いと答えを打ち合わせておく合図の言葉で、戦場などで敵と味方の区別がつきにくい時などに、例えば「山」と言えば「川」と答えるなどの約束事を決めておき、お互いが仲間であることを示し合うのが合言葉であります。

もう一つは仲間同士の主張を端的に表わす標語という意味があります。学園の合言葉の意味は、あとの方に近いものです。合言葉は、仲間同士の生き方や考え方を短い言葉で明確に表したもので、仲間全員の目標になるものなのです。したがって、生徒の皆さんにだけ、守ってもらおうというものではありません。生徒も保護者も私たち教職員も卒業生も全て金光学園に関係する人達、つまり仲間が行動の目標や目当てとするモットーで、みんな努力しあっているという願い



の言葉なのであります。
どうぞこの学園生活の中で、人・自分を大切に出来る人、合言葉を実践できる人になっていただきたいと願っております。

じることが出来るのであります。改めてそのことにも心から感謝したいと思いません。
明日の九日の日めくりは、「人の身が大事かわが身が大事か人もわが身もみな人」という言葉です。みんなが、人を自分と同じ人間として大事にすることができれば、そして「人をたいせつに」自分をたいせつに、物をたいせつに」という合言葉を忘れずに、実践できれば、昨年大きな問題となった「いじめ」や「体罰」など問題は決して起こることはないと思えます。
どうぞ皆さんも改めて、これらの言葉をしっかりと胸に刻んで、これから毎日一生懸命努力していったきたいと思えます。勉強はもちろん、生徒会行事、部活動などいろいろな活動に全力を尽くし、心身を鍛え、豊かな人間関係を養い、友達と仲良くして立派な金光学園の生徒として成長していくようお祈りして式辞といたします。
「人をたいせつに 自分をたいせつに物をたいせつに」

ところで、今日この後のHRで皆さんには、このような金光教の教祖様のみ教えが書かれている日めくりを記念としてお渡ししますが、昨日の七日の日めくりには「木の切り株に腰を下ろして休んでも立つ時には礼を言う心持になれよ」という言葉が書いてあります。普通では何の役にも立たない木の切り株でも、腰をおろして休んだら、お世話になった御礼を申す心になろうと教えられているのです。感謝する心を持つことこそ人として大切なことであることを教えてくださっているものであります。

今日の八日の日めくりには「食物はみな人の命のために天地の神がつくりあたえ給うものぞ」という言葉が書いてあります。
これには続きがあつて「何を飲むにも食べるにも有り難くいただく心を忘れなよ」という言葉がさらに続き、食前訓と書いて金光学園では食事の前に唱える言葉でもあります。

あたりまえにおいしくおなか一杯に食事がいただけることや水などが飲めることにも感謝の気持ちを忘れてはいけなさと教えられています。

今世界の人口は七十億人を超えましたが、そのうち十二%にあたる八億七千万人の人は飢えに苦しんでいると言われています。地球上では一分間に十七人の人が飢えで亡くなっています。一分間で十七人ですから、こうしてみなさんの喜びに満ちた一時間ほどの入学式の間だけでも千人を超える人々が飢えで亡くなっているのです。

毎日おいしい食事がただで、暖かい布団でぐっすり眠れ、元気で生活できていることは決して当たり前のことではなく、心からの感謝の気持ちを持たなければならぬと思います。

例えば、皆さんは今日どうやって学校に来たでしょうか。お父さんやお母さんと一緒に家から来た人もあるでしょう。JRの電車やバスを利用した人もあるでしょう。しかし、もし車がなかったら、ガソリンがなかったらどうでしょう。電車が走っていないか、食べるものや着るものがなかったりしたらこの入学式に出席することすらできません。

そして何より、お父さんお母さんを通して、天地からいただいた元氣な命があるからこそ入学ができ、今日の喜びを感じる

法人理事長挨拶

佐藤 乃武雄



春雨とともに春爛漫のご時節をお迎えし、本日の金光学園高等学校入学式に当たり、ご来賓の皆様方には、公私共にご多用の中、お練り合せご臨席を賜り、誠にありがとうございます。今日まで頂いており、温かいご支援とご声援を、厚く厚く御礼申し上げます。

さて、このたび、金光学園高等学校入学を目指し、見事合格を果たされました生徒の皆様には、中学校時代より日夜不断的の努力と成果があらわれ、無事今日の日を迎えられましたことに、心よりおめでとうとお慶びを申し上げます。

また、中高一貫教育のもと、金光学園中学校入学時より高等学校入学に至る、



今日までの成長をひたすらに見守り、立派に育てられました校長先生をはじめ教職員の皆様方、更には保護者の皆様方にもご同様に、さぞ、ご安心のことと心よりご祝福を申し上げます。

さて、全国各地校前線豊に到来し、金

光町桜並木も、入学式を称えるように満開となりました。同時に、新緑の芽が吹き出る絶好のご時節到来となり、皆様も新しい生命が宿る絶好の季節の中に、第一学年を迎えることとなります。

先の金光教教主・金光鑑太郎様は、「父母も子供と共に生まれ育たねばならぬ子も父母も」と詠われました。

ただ今からは、親も子も共に高校一年生として入学し、共に育ち合い、祈り合う間柄として出発し、学園教育が稔りあるものとなり、また、交通事故に遭遇することのないよう、家庭生活が平穩無事健やかに維持され、大願とある大学進学の念願が実現されますよう切に御祈念申し上げます。

私たちの願い

中学新入生代表 渡邊 俊介

やわらかな春の風に生まれ、今日、私達新入生百八十七名は、金光学園中学校の入学式を迎えることが出来ました。憧れであった伝統ある金光学園に入学できたことをとても嬉しく、また誇りに思っ

ています。

私達も今日から金光学園の歴史を一緒に創っていきます。これから始まる学校生活は、期待と不安でいっぱいですが、目にする経験すること全てが新しく、時には迷うこともあると思いますが、自分たちの目標を見失うことなく夢をかなえる為に、金光学園の合言葉「人をたいせつに」をいつも心にとめ、勉強や部活動に全力で取り組みます。

たくさんの方と協力し、この歴史と伝統のある金光学園の名に恥じぬよう精一杯がんばり充実した学校生活を送りたいと思います。

本日は、私達新入生のためにこのような素晴らしい式を行っていただき、本当にありがとうございます。

最後になりましたが、校長先生をはじめ多くの先生方、そして先輩の皆様、慣れぬ私達ですが、温かい目で見守りご指導して下さいますようどうぞよろしくお願い致します。

中一保護者代表挨拶

土肥 三郎氏



新入生の保護者を代表致しまして高い所からではございますが、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は子供達の為に、この様な厳粛かつ盛大な入学式を執り行って頂き誠に有難うございます。また法人理事長、校長先生をはじめ、ご来賓の岡成教務総長様にはお心こもったご祝辞を頂き子供達はもとより保護者一同大変嬉しく、おかけを頂きました事厚く御礼申し上げます。

本日新たな環境に期待・希望を胸に入學する子供達を見ておりますと、この学園生活でどの様に成長するのか楽しみで有ると共に、自分自身も親としてまだまだ頑張らなければならない、また、成長



しなければならぬと思う次第です。

私事で恐縮ですが三十年前に私もこの金光学園に入学して六年間を過ごしました。そして色々な事を学ぶ事が出来たのですが、その中でも今一番感じる事は人間力を学んだ事だと思えます。

金光学園には「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」と言う合言葉がありますが、このとても深い言葉を今でも心に秘めております。当たり前にある毎日が如何に恵まれているか、にちにちを天地の恵みを受け、生かされている、この感謝の気持ちを忘れず生活しております。

学力も当然必要な事ではございますが、何よりこの様な教えを学び、理解して人間力を高める事が社会に出た時に本当に必要な事だと思います。この様な教えを学べる金光学園に通わせる事が出来る環境である事をおかげを頂くことができたこと、心から感謝し子供と共に学び成長し学園生活がよりよいものとなるように精進してまいります。

さて新入生の皆さん、これからの六年間、この学園で色々な経験をし学んでいく訳ですが先輩として一つだけ皆さんにお願いがあります。

この六年間をしっかりと友達と共に楽しんで下さい。そして一生の思い出になる様にして下さい。私もこの学園で六年間生活した事は今でも宝物だと思っています。今の私があるのもここでの経験、



そして色々な教えを頂いたからであり、共に生活した友達がいたからこそです。今でも学園の友達、また先輩と会う事が声掛けにより集まり、色々な年代の先輩、後輩と楽しく交流し学園生活の思い出話をしました。人間一人では生きていきません。友達を作る事が先程の合言葉

である「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」と言う言葉に通じ、その意味を理解して身につける事が出来ます。

一期一会の出会いを大切にこの六年間が人生の糧になるようにしっかりと学んで人間力を身につけて、社会のお役に立てる人間になって下さい。

最後になりましたが、ご来賓の皆様お忙しい中、ご出席下さいまして誠に有難うございました。これをもちまして保護者代表の挨拶とさせていただきます。本日は誠に有難うございました。

願いの言葉

高校新入生代表

梶尾 桃花

あたたかな春の光に誘われて、桜の花も満開となりました。私たち新入生二百三十五名は晴れて金光学園高等学校の入学式を迎えられることを心から感謝いたします。中学校から共に学んできた友達に加え、三十九名の新しい仲間と一緒に三年間の高校生活を送れることをとても楽しみにしています。

私たち新入生は、しっかりと将来の目

標を立て、その夢に向かって一生懸命努力します。勉強や部活動に積極的に取り組み、あらゆる場面で全力を尽くし、高校生活を有意義なものにしていきたいと思っています。

私は中学校生活を通して、「仲間の大切さ」を学びました。困ったとき、悩んだときには励まし合ったり、助け合ったりすることで、多くの高い壁を乗り越え、嬉しいときには共に喜びを分かち合ってきました。これからも更に「仲間との絆」を深め、一人ひとりがかけがえのない存在として、充実した高校生活を過ごしていきます。そして三年後、自信を持って次のステージへ進むことができるよう努力します。

「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」の学園の合言葉を胸に刻み、一日一日を無駄に過ごすことなく日々邁進していこうと思います。

最後になりましたが、校長先生をはじめ諸先生方、お父さん、お母さんには、これからも厳しく、あたたかく私たちをご指導くださいますようお願い申し上げます。願いの言葉とさせていただきます。

高一保護者代表挨拶

荒島 恵美子氏



新入生の保護者として、高いところからではありますが、一言ご挨拶させていただきます。

本日は、子どもたちのために、このような厳肅なる入学式を催していただきありがとうございます。

先程は、校長先生、理事長先生をはじめ、ご来賓の先生には温かなお祝いのお言葉・励ましのお言葉を頂き、子どもたちと共に、保護者一同、心よりお礼申し上げます。

子どもたちは、ご縁をいただいて、この金光学園高等学校に入学することができました。金光学園には合言葉「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたい

せつに」があります。私自身、金光学園在学中から、この言葉をいつも胸に抱き、折に触れては繰り返し唱えておりました。そのおかげで、私自身の人生にとっても、とても大切な言葉となっております。この言葉には、両親があつて自分が生まれ、今日があることへの感謝、先生や友達や多くの方々にお世話になっていることへの感謝、教室・校庭・学習用具など限りなく多くの物への感謝を持ち続けることを意味していると思います。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。高等学校では中学校での先生からの教えを生かし、親から自立し社会で生きていくために必要となる能力を身につけ人間としての在り方・生き方を考え、模索することができます。その過程では、さまざまな問題が生じるかもしれませんが、その時には先生方・家族・友達を通して心豊かな人間としての基本的姿勢を身につけ、将来について具体的な進路を考え、責任を持って判断・行動していく能力を身につけ、その問題を解決してください。問題に対してすぐに答えを出せなくても、焦らず周りの人々へ感謝・



思いやりの心を大切にしながら、さまざまな経験を通して自分を磨き、心を強くしていくことで必ず答えを導き出せる時が来ます。安心して前を向いて進んでください。また、金光様の教えにありますように「ちはははも 子供とともに生まれたり 育たねばならぬ 子もちはははも」の精神で私たち保護者もあらゆることへ感謝し子どもたちと一緒に成長していきたいと願っております。子どもたちがより有意義な学校生活を送ることが出来るよう先生方と連携を取り、協力しながら日々精一杯の努力をさせていただきます所存でございます。

最後になりましたが、校長先生をはじめ、諸先生方、これからの三年間、親子ともどもご指導を賜り、お育てをいただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。簡単ではございますが、これで挨拶に代えさせていただきます。本日は本当に有難うございました。



道

(7)

金光 道晴

「国際化教育と外向き志向」

人は十人十色と言われるが、それぞれ生まれ持った気質や育ってきた環境によって形成された性格がある。外向き志向の人かもしれないが内向き志向の人もある。物事を楽天的に考える人と悲観的に考える人、積極的な人と消極的な人、明るい性格の人とそうでない人、プラス志向とマイナス志向など様々な性格がある。我々の遠い祖先も「清き明き心」善とし、「暗き心」を否定的に考えてきた。それはそれぞれの人の個性であるので、必ずしもどちらが良くてどちらが悪いとは言えないが、私たちはおおむね前述したものである。しかし、それぞれ先にあげた方を良いと考える傾向にある。しかし、人の性格や言動は、当然白か黒か、善か悪かにはっきり分けられるものではないし、一人の人間も同時に両面を持っているものであり、同じ人でも自分が得意なことでは積極的でも、苦手なことには消極的になってしまうのも当たり前のことである。

今、日本の若者が内向きになっていて、国際社会や外国に出ていこうとする人が少なくなっていると言われている。実際に韓国や中国の若者と比べてもその傾向ははっきりしている。例えば、日本の学生の海外留学生数は韓国や中国に比べるると半分にも満たなくなっているという。この傾向はグロー

バル化が進む国際化社会の中で、少し心配すべき問題かもしれない。そんな中で最近では国や文部科学省も、学校教育でのグローバル人材の育成に向けての取り組みを強く求め始めている。小・中・高での英語教育の推進、スーパーグローバルハイスクールの新たなプラン、海外留学のための支援など様々である。

金光学園では随分以前から国際化の取り組みが行われてきたが、ここ数年はこれまで以上に一層推進するようになってきている。たとえば、昨年からは海外での英語研修として、春休みにはロンドンへの二週間の、夏休みには韓国や中国の研修だけでも五十数人の生徒が参加した。高校の修学旅行では今年国内は北海道コース、海外はオーストラリアコースとシンガポール・マレーシアコースの三コースから選択して参加したが、海外の二コースはいずれも現地でのホームステイをメインにして実施した。これらを全て合わせるのとこの一年間だけでも、全生徒の約十五%の二百名近くの生徒が海外での生活を体験したことになる。

また海外に出ていくだけではなく、外国からの長期短期の留学生を積極的に受け入れることによって、校内にあって国際理解や国際教育を一層推進したいと考えている。韓国春川女子高校とのペンバル交流や隔年ごとの相互訪問も国際理解には大いに役立っている。三月には高校で探究Ⅱの理系課題研究会を開催し、全ての発表をオンラインでシユで行い、二十人を超える大学の先生などの助言者に加え、三十名余りの外国人留学生やALTの方々などにも参加して

いただき、英語での質問やアドバイスに英語で答えるという本校としてはハードルの高い研究発表に取り組んだ。

そんなことを通して、生徒たちには広い視野に立って、外国の世界に目を向けてもらいたいと考えている。もちろん外国に行ったり、外国人と交流を持つたりして英語を使うことができるようになることだけで、考え方が外向きになるわけではないが、少なくとも視野を広げる良い機会になると思う。先にも高校の修学旅行のことを述べたが、実はシンガポール・マレーシアコースは今年新たに始めたコースで、それに参加した二人の生徒の感想文の一部を以下に紹介しようと思う。

「私がこの旅行で強く感じたのは『英語を使えるようになりたい』ということだった。シンガポール・マレーシアで、私は初めて日本語が通じない環境を体験した。私は将来海外で働いたり、暮らしたりする必要はないと思っていたが、英語を使うことができれば確実に視野が広がることを実感した。．．．中略．．．今度外国の人々と交流する時は、もつと英語を使えるようになっていきたい。そして日本の歴史や文化についてももつと勉強し、英語で伝えられるようになりたいと思う。」

「今回の修学旅行で日本の外から日本をよく見て、よく考えることができたように思う。．．．中略．．．次にどこか外国を訪れる時は、日本の良い所を話し伝えることができるようにしたい。」

など、海外に出て初めて日本のことを考えるようになったり、

自分自身を見つめなおす機会になったりしたという。

海外に出ることや英語を話すことだけが国際化ではないこととは言うまでもないが、少なくとも、小さく狭い世界にとどまるのではなく、広く外の世界を見たり、研修したり、交流したりすることによって大きく視野を広げ、そのことが自分を見つめなおす機会にもなることは間違いない。国際化だけではなく、現在学園が進めているスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取り組みでも同じことが言える。全国のSSH学校と交流したり、研修会や発表会に参加したりすることによって、生徒も教職員も少なくとも小さな狭い世界にとどまらず、より広い視野に立って物事を考えることができるようになってきており、そのことはとても大切だと思わせてもらっているところである。



イギリス語学研修の授業風景

「ここから通っています」 学園生の故郷

宮城県石巻市

はじめに、去る平成二十三年三月十一日の東日本大震災にあたりましては、日本全国、世界中の皆様から様々な形で真心の支援を賜り、真にありがとうございました。本当然の復興への前途は容易ではありませんが、皆様のおかげで今日ここまで着実に復興の歩みを進めています。一市民として、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

それでは本題に。某インターネット百科事典では「石巻市（いしのまき）」は、宮城県東部に位置する、県内第二の人口を擁



する市」と始まり、以降ありとあらゆる情報が掲載されています。また、市の公式HPをご覧頂けると、尚おわかりになると思います。そのような中、どうすれば皆様にもっと身近に石巻市を知って頂けるかと、いろいろと思いを巡らせた結果、次のような紹介となりました。

まず、金光町からどれほど離れているかと言いますと、陸路で高速道路を最大利用して一〇〇km、平均速度休憩なしで十三時間。石巻駅から金光駅まで、JR在来線・新幹線を上手に乗り継いで約八時間。飛行機（直通はありません）を利用すればいくらか時間は短くはなります。気候の違いを言いますと、今日（執筆当日5/31）の石巻市の最高気温20℃、最低気温13℃と夏場は涼しくとても過ごしやすく、冬場は、「東北」↓「豪雪」というイメージとは裏腹に、降雪積雪は少ない地域で、いわゆる「雪かき」はほとんどすることはありません。けれども、沿岸地だけにとても風の強い街で、10m近い風が常に吹いています。風速1m/sにつき、体感温度は1℃下がるといふことです。気温に比べ、かなり寒さが身に凍みます。天候の違いとして、今日



の日の出は四時頃、日の入は六時半頃。お日様が朝早く登り、夕方早く沈みます。冬場は夕方四時ごろには暗くなります。

スポーツの面では、いくつものメジャーなプロスポーツチームがあります。野球では東北楽天イーグルス、サッカーではベガルタ仙台・ベガルタ仙台レディース、バスケットボールでは仙台89ersなど。本拠地の仙台市は近いので、プロスポーツに接する機会は豊富です。

紙面に限りがありますのでこの辺で。多少とも身近に感じて頂けたでしょうか。この度、息子がご縁あって金光学園高校に入学させて頂きました。学園生活を通じて、すばらしい「合言葉」のままに、いろんな事を経験し、挑戦しながら、自ら将来の目標を定め、広く大きく世のお役に立つ人になる実力を培って欲しいと願っています。

高一の父 井上 直文

岡山市高松

岡山市高松地区は岡山駅から国道180号を西へ約10km余り、総社市に隣接し、中央に平野部、北は竜王山、東は吉備の中山が鎮座し、西には足守川が流れるという地形で、山、川、平野という自然の表情を持っています。近年、ベッドタウン化が進みつつありますが、今なお広がる野山の風景は、どこか懐かしく郷愁を誘います。



また、この辺りは吉備路と呼ばれ、多数の古刹、古墳などの遺跡が町並みに溶け込む様子が点在します。

例をあげれば、『温羅（鬼）』を退治し、昔話、『桃太郎』のモデルになった大吉備津彦命を主祭神とする吉備津神社。その本殿は全国唯一の比翼入母屋造りで、拝殿とともに国宝に認定されています。また、五世紀前半の吉備の大王の墓といわれ、全国四番目の規模を誇る前方後円墳で、墳丘への立ち入り可能な古墳の中

では全国一の大きさの造山古墳。羽柴秀吉の奇策「水攻め」で落城した備中高松城跡などです。

また、日本三大稲荷、高松最上稲荷があります。約千二百年前の報恩大師の創建で、正式名称「最上稲荷山妙教寺」。明治時代、神仏分離令の際、「神仏習合」の祭祀形態を許され、法華経でおまつりされた貴重なお稲荷様。そんな歴史を紐解いてみるのも良いかもしれません。寺院建築ながら、正面に長さ12m、総重量15tもある巨大な注連縄が掛かる本殿は、神仏習合の名残りが感じられる独特の特徴を示し、圧倒されます。また、最上様が降臨されたという八畳岩の眼下には、高さ約28mの大鳥居や高松城跡などの景色が広がり、先人達の長い歴史の跡を感じられます。名物のゆずせんべいは自家製で、各店で味が違うので、試食してお気に入りの味をみつけてみてはいかがでしょうか？



さて、この地にあった備中高松城は、天然の地形を利用した要塞で、百戦錬磨の秀吉も攻めあぐね

たといえます。その攻略中に起こった本能寺の変。これにより秀吉の、中国大返しが始まります。一方、高松城主清水宗治は、裏切りや寝返りがよく見られた戦国時代、主家への忠義心を貫いた勇将で、城兵の士気も高かったといいますが、信長死没の報により帰京を急ぐ秀吉によって、信長の死を秘されたまま、「主家である毛利の安泰と部下五千人の命が助かるならば」と自ら切腹による死を選びました。今、ここに城は無く、宗治の辞世の句碑や首塚、近年の復元により地中に眠っていた蓮が偶然蘇った宗治蓮池などがある公園となっています。

他にも、まだ沢山の史跡とここに書ききれなかった歴史……。のどかな風景に包まれ、歴史探訪が出来るこの町に私達家族が在住してまだ日は浅いのですが、ここをとても気に入っています。家族が健康でいられるようお願いしつつ、これからもここでの生活を満喫していきたいです。娘には、日々、努力を忘れずに笑顔溢れる学園生活を送ってほしいと思っています。娘の笑顔は私達の宝物です。

中一の母 梅村 道子

「鳥瞰図と私」

鳥瞰図、余り聞き慣れない言葉かも知れませんが。それは鳥の眼になって地上を描いた絵図のことです。

鳥瞰図との出会い

最初に手にとった鳥瞰図はバリ市街図でした。白黒による線描に水の部分(川・運河・池)のみライトブルーで表現された品のあるものです。画学生にとって、この図はとても役立ちました。記号化さ



岡本 直樹 (高20回)

れた一般の地図に比べ、建物等が具象的に描かれているため現地のイメージが捉え易いのです。おかげでスケッチプランが立てやすく、随分重宝した覚えがあります。このように私にとって鳥瞰図は便利なツールの一つでした。

鳥瞰図を自分で描くようになる

話は一挙に数十年跳びます。横浜在住の頃、コマーシャルアートをやりつつ油絵を制作していた時期です。ある依頼が広告代理店より入りました。東京の清瀬市駅周辺の鳥瞰図を描いて欲しいというものでした。

大手不動産屋が駅近辺にマンションを作るにあたって、その界隈の雰囲気を作り易く伝える手段として鳥瞰図を制作して欲しいという依頼です。

代理店より航空写真と地図の提供を受け、当初はそれで充分とタカをくくって

制作に入りました。しかし、描くにつれ不明点が噴出。現場の取材がどれ程、重要かということが判りました。鳥の眼と、虫の眼、両方が必要なのです。

故郷、倉敷の変貌振り

二十五年の横浜生活を切り上げ、生まれ故郷の倉敷に戻って来ました。変化のない街だと勝手に思い込んでいた倉敷も住んでみると意外に、変貌しつつある生きた街であることに気付きました。見覚えのある家々が次々となくなり、駐車場やマンションに姿を変えてゆきます。これは現状だけでも記録に残そうと思いましたが。そこで頭に浮んだのが鳥瞰図です。清瀬でのパノラマチックなものではなく、方位、距離、建物の寸法でのアクソメ図法(axonometric drawing method)にて描くことにしました。

縮尺は50分の1、範囲は倉敷中心部の1km四方。作品の仕上がり寸法2m×2m。50分の1は10mが2cmの世界です。この縮尺だとなんとか人物も描写できるため生活感が出ると考えました。

技法的な話はこの位にします。最初のトライアウト、取材、作画だけで結局

4年半掛かりました。市内の画廊にて2005年版「倉敷鳥瞰絵図」を発表しました。思った以上の反響に本人が一番ビックリ、多数の来場者に恵まれました。その中に備中町(現高梁市)平川のお年寄り達もいたのです。

昭和30年代の風景の再現

後日、平川の七人の老人は拙宅を訪れ、平川が一番元気があった頃、昭和30年代の様子を鳥瞰図にしてくれ、という申し出がありました。初めは知らない土地の、それも昔のことを描くのは無理だと断わるつもりでした。しかし、余りの熱心さと迫力に押されて依頼を受けてしまいました。結論から言うとこれもなんとか完成し、平川の人々に大変喜ばれました。この時、資料さえあれば過去の鳥瞰図もできると確信しました。

50年前の倉敷に挑戦

平川郷の出来に調子づいた私は、50年前の倉敷(昭和38年/1963)を描く、などと知人・友人に発表してしまいい、以後、四年の苦闘が又、始まりました。50年前、私自身中学生であったため、

主な建物の外観やら、何よりもその時代の空気みたいなものを体で覚えていました。しかしディテールとなると膨大な資料集めと読み込みが必要でした。

作業の間、感じたことは記録の大切さです。歴史を遡る、それもビジュアルでの探究となると結構、資料が散逸しています。特に「チョット昔」のことが思った程、残されていないことに気付きました。

そして今年の四月、倉敷物語館でのお披露目にこぎつけました。2005年版と1963年版、新旧2点観てもらいました。なつかしい、あの頃は……大勢の方々が絵の前で熱く語っている姿を見ることができたのは絵描き冥利につきました。どうしても少し気取った雰囲気になる絵画の個展等と比べ、数倍楽しい展覧会になりました。

次は金光学園

倉敷展の準備に追われていた昨秋、同級生であり、学園副校長の佐藤正俊氏より「金光学園の鳥瞰図を」という話が舞い込んで来ました。学園設立120年を記念して、私達高20回生で何か残るものを

という主旨で私の鳥瞰図に白羽の矢が当たりました。

今回は金光駅から学園までの南北850m東西650mの現在の姿を描くことにしました。そしてもう一点、1960年代、木造校舎の頃の姿も再現することになりました。どちらも縮尺はやはり50分の1です。

取材を始めたばかりです。季節の設定は？ 学園生活はごく普通の日が良いのか？ いや、動きのある体育会か？ 色々楽しい悩みで一杯です。尚、完成予定は来年(2014年)の6月頃です。



やつなみ保護者会のページ

今回は、指導部・教養部・庶務部の代表の方に、それぞれの部の活動内容を紹介していただきました。

指導部

部長 平谷 由美子

指導部は今年度8名で活動していきま
す。主な活動としては、やつなみ保護者
地区会の開催に関わる事と岡山県広域特
別補導への協力参加となります。部全体
として全員で活動することは残念ながら
ありません。

地区会は今年度も例年通り7月中の開
催を予定しています。同じ地区の保護者
同士、学年の枠をこえて日頃感じている
こと、心配事など担当の先生方にも相談
にのっていただけたり、通学における問
題点など情報交換できる貴重な会となっ
ておりますので、ぜひ皆様の出席をお願
い致します。

広域補導の協力としては、各回、部か
ら一名ずつ担当の先生と共に、下校時の
電車に乗車しマナーの指導を行ったり、
金光駅前及び周辺での指導、補導にあ
たっていきます。

今年度一年よろしくお願ひ致します。

教養部

部長 安原 芳里

教養部は今年度9名で活動します。
なにやら、評議員の中でも大きな疑問
があるようですので、疑問を解きましよ
う。

Q1 教養部って、やつなみの冊子を作
るの???

A

冊子全部は担当しませんよ。年間
3冊発行の中の私たちの担当は、
各号の「やつなみ保護者会のペー
ジ」を担当します。2〜3ページ
ほどでしょうか。

輝かしい子供たちの活躍と共に邁
進して参りたいやつなみ保護者会
です。行事に伴って、もしも原稿
依頼が舞い込んできたら……
作家気分分で書いてくださいね。
(笑)

Q2

研修旅行の企画???

ほつま祭を一丸となって乗り越え
た達成感と共に、各部を超え、ま
た学年の枠も超え、会話が弾む非
常に楽しい企画が研修旅行です。
モチロン、研修ですから、いろん
なことを学んできますよ。

昨年度は、大阪吉本新喜劇の鑑賞
研修会でガハハとお腹から笑う勉
強でした。それはそれは楽しい研
修となりました。

毎年、ほつま祭までの手作り会で
顔見知りになり、当日商売人にな
り、そして研修旅行でガッチリ楽

しむ。この構図が学園を楽しむコ
ツ???でしょうか。

という具合です。
一年間、楽しかったね。と、そんな
教養部になるように活動してまいりま
す。さあて。研修旅行……どこにし
ようかしら???

応援よろしくお願ひします。

庶務部

部長 川崎 裕子

庶務部は、来たる9月15日のほつま祭
友愛セールに向けて、27名で活動をス
タートしました。

今年度も手作り会を開催、庶務部員の
他に保護者の方々が集まって、金光ベア
・マカロンなどを楽しく作っています。

特に人気の金光ベアですが、今年はお
る場所にワンポイント加え、さらに可愛
さupしています。お楽しみに♪

また、裁縫だけでなく革細工、エコク
ラフト、カルトナージュなど様々なジャ
ンルの物を作成し、品揃えを充実させて
いこうと取り組んでいます。

これらの活動をより多くの保護者の
方々にお知らせし参加のきっかけにし
ていただくため、今年度初の試みとして手
作り会のブログを開設しました。当日の
作業風景や完成した作品などを、写真を
交えて紹介しています。また、次回のご
案内として、日時や場所だけでなく作業
予定も具体的に記載することで、新しく
参加していただける方を随時募集したい
と思っています。★「これなら私にもで





山本 早紀



今年度より金
光学園に勤務さ
せていただくこ
とになりました
山本早紀と申し
ます。教科は英語で、高校一年団に所属
しており、部活動は音楽部吹奏楽団を担
当させていただいております。

私自身、金光学園の卒業生です。今振
り返つてみると、金光学園で過ごした六
年間は、さまざまな友人、いつも私たち
をサポートしてくださった先生方との素
晴らしい出会いがありました。そうした
出会いを通して、私自身を広げていった
ように思います。この四月からは、生徒
のみなさんが、落ち着いて勉強に臨んだ
り、部活動や学校行事に真剣に取り組ん
だりするお手伝いをさせていただくと同
時に、みなさんの心を広げる一人になれ

るよう私自身も努力していきたいと思
います。この出会いを大切にすると共に、
学園の合言葉「ひとを大切に 自分を大
切に ものを大切に」の精神を常に心に
留めて、がんばっていききたいと思いま
す。どうぞよろしくお願いたします。

池田 里奈



今年度より金
光学園に勤務さ
せていただく
おります、池田
里奈と申します。

教科は音楽で、中学一年と三年を担当
しております。中学一年団に所属しており
一年五組の副担任をさせていただいてお
ります。部活動は音楽部コーラスを担当
しております。

私自身、この金光学園に六年間通つて
いた「生徒」でありましたが、その時に
先生から教えてもらったことを今は
私が「先生」として教える立場となりま
した。この金光学園で過ごした六年間は
とても充実しており、共に過ごした友人
は今でもとても大切な存在です。卒業し

てバラバラになってもそれぞれが口にす
るのは、「学園時代が楽しかった」「学園
生に会うと安心感がある」という言葉で
した。みなさんにもそんな充実した楽し
い学園生活を送っていただきたいと思っ
ています。

そして、音楽の授業では、音楽を本気
で楽しめるような授業を目指していきたい
と思います。

母校で勤務させていただき幸せをかみ
しめながら、生徒一人一人としっかり向
き合って日々成長していこうと思いま
すので、どうぞよろしくお願いたします。

田中 鈴香



今年度より金
光学園に勤務さ
せていただくこ
とになりました
田中鈴香と申し

ます。教科は理科で中学三年生の学年団
に所属しております。三年生以外にも、
中学二年生の一部のクラスでも理科を担
当させていただいております。部活動は
科学部と生物部を担当させていただいて

おります。

昨年からSSHの授業のティーチング
アシスタントや理科の非常勤講師として
勤務させていただいております。その
中で、金光学園の校風や生徒たちの快活
さや素直さを感じ、ぜひこの金光学園で
教員として勤務したいと思っております
なので、今年度から働かせていただくこ
ととなり、とても光栄に感じております。
私は大学生生活のうち三年間を、研究を
して過ごしました。忙しい毎日でしたが、
研究生生活を通して、科学的奥深さと面白
さを学ぶことができました。この経験を
活かし、探究授業や理科の授業を通して
生徒の「なぜ？」という気持ちや「やっ
てみたい」という気持ちを大事にし、一
つのことを追い求める楽しさを知ってほ
らいたいと思います。また、生徒が全力
でこの学校生活を楽しくめるように、生徒
の一番のサポーターとして精一杯手助け
していきたいと考えています。

教員一年目でまだまだ至らない点があ
ると思いますが、誠心誠意、努力して参
りたいと思います。どうぞよろしくお願
いたします。



石田 亜矢子

三年前、金光
学園を去り、教
職から離れて生
活をしております
したが、この度

再びご縁をいただき、金光学園に数学の
非常勤講師として勤務させていただくこ
とになりました。石田亜矢子と申します。
退職してから、街で制服姿の学生を見
る度、金光学園の生徒はどうしているだ
ろうか、と思う日々を過ごしております
た。

私にとつての金光学園とは生徒一人ひ
とりが主役になれる場所だと思つており
ます。二〇〇六年より四年間勤務した中
で、一人ひとりの個性が普段の生活や、
部活動、行事で存分に生かされ、皆がそ
れぞれに輝ける場所だと感じました。と
同時に、(学園出身でない)私は、学生
時代を金光学園で過ごしていたらどんな
に楽しかっただろう、と思いました。

またこうして再び生徒の成長を近くで
見られるのは光栄であり、生徒の生き生
きとした姿を見られるのは私の活力でも



有岡 達生

四十二年ぶり
に母校に戻つて
きました。校舎
は鉄筋になり、

あります。
多感な時期を過ごすこの学園で、生徒
の青春の一ページのお手伝いが出来れば、
と思っております。
どうぞよろしくお願致します。

メタセコイアも数は減りましたが随分大
きくなっていました。初出勤の日、懸命
にボールを追いかける部活の生徒の姿を
見たとき、ふと遠い昔の記憶が蘇りまし
た。中二の夏、親父がやっていた工場が
倒産したため野球部を辞めざるをえなく
なり、「練習用に使って下さい」と試合
用のユニフォームを顧問に渡し、その上
に自分で洗濯し何度もアイロンがけをし
た背番号「6」を置いて帰りました。帰
り道、普段通りに練習している仲間の声
を背中であきながら、悲しみとは異質の
涙が止まりませんでした。やりたいこと
が出来ると言うことは、当たり前のこと

平成25年度 やつなみ保護者会 地区会

No.	地区	日時	会場	出席教員
1	岡山以东	7/13 (土) 14:30~	岡山県生涯教育センター (美術教室)	小畑 堤 小林 岡崎
2	倉敷第1	7/13 (土) 18:30~20:30	ライフパーク倉敷 (第3会議室)	内田 妹尾 榊平 亀山
3	倉敷第2	7/13 (土) 14:00~16:00	倉敷市民会館第4会議室	岡辺男 長谷川 天野 内村
4	倉敷第3	7/13 (土) 14:00~16:00	倉敷市民会館第1会議室	岡辺子 垣内 守分 吉森
5	玉島東	7/7 (日) 10:00~	柏島東憩いの家	宰相裕 平田 佐藤径 土井
6	玉島西 黒崎	7/7 (日) 10:00~	柏島東憩いの家	原田 道廣 友田 久保田
7	富田長尾 船穂 真備	7/6 (土) 19:00~21:00	マービーふれあいセンター	服部 平川 池田
8	竹 八重 占見 占見新田 地頭下	7/13 (土) 13:30~	ほつま記念ホール (中ホール)	小野 有馬 鳥越
9	大 谷	7/8 (月) 19:00~21:00	大谷消防機庫 2F	山下真 鈴木
10	須恵 佐方	6/29 (土) 18:30~20:30	佐方コミュニティーハウス	定金 園田
11	鴨 方	6/26 (水) 19:00~	浅口市中央公民館1F大会議室	山本澄 高田 久野
12	六条院	7/12 (金) 19:00~	浅口市中央公民館第3和室	山本幸 水野
13	寄 島	7/24 (水) 19:00~21:00	ふれあい交流館サンパレア (交流サロン)	中村 藤原
14	里 庄	7/20 (土) 17:00~	里庄町立図書館2階視聴覚室	宰相夕 佐藤洋 高司
15	笠岡東	7/13 (土) 19:00~21:00	笠岡市民会館第3会議室	水岡 滝澤
16	笠岡西	7/12 (金) 19:00~21:00	笠岡中央ふれあい会館集会所	田中 平岡
17	笠岡北	7/16 (火) 19:00~	北川公民館	石丸 西山秋 平賀
18	井 原	7/6 (土) 19:00~	アクティブライフ井原	森谷 石井 久繁
19	福山第一	7/19 (金) 19:00~	福山市生涯学習プラザ (ローズコム内)	坂口 籠崎 山本早
20	福山第二	7/13 (土) 19:00~	福山市市民参画センター5階会議室	谷野 中井 塚田 戸田
21	福山第三	7/20 (土) 19:00~	福山市人権交流センター	藤井 石田 土谷
22	福山第四A	7/7 (日) 10:00~	緑丘公民館	岡田 三宅 大西 田中鈴
23	福山第四B	7/7 (日) 10:00~	伊勢丘クラブ	西山龍 小橋 成田
24	福山第五	7/14 (日) 14:00~16:00	福山北部市民センター (第1学習室)	安田 松田 亀田
25	松 永	6/30 (日) 14:00~	松永公民館	山路 岩本
26	尾道・三原以西	7/17 (水) 19:00~	テアトロ・シェルネ	中島 細川
27	止 宿	アンケートにより個別に相談	個別に相談	新谷 高司 井上

ではなく「生かされている自分」に気づき、自分を支えてくれて多くの人々に対する「感謝の心」を忘れてはなりません。

ところで、皆さんは十年後、二十年後の自分を考えたことがありますか？ いったい、何処でどんな生き方をしているのでしょうか。高校は卒業することが目標ではありません。近い将来、自立したまっとうな社会人として生き抜くためにはこの三年間に何を考え、何をやり遂げ、どんな力を育てたかこそが重要です。君たちが平均寿命まで生きるとすると、卒業後六十年以上もあります。この長い人生を全員が悔いのない生き方をしてもらいたい。たった一度だけの人生をどう生きるか、そのためには何を考え、何をすべきか、を一人ひとりが真剣に考え、自分だけの「人生の設計図」を描く時期が必ずです。それはいつか……今でしょう！

学園の教職員は一生懸命な子には一生懸命応えます。共に頑張りましょう。

心が変われば 行動が変わる
 行動が変われば 習慣が変わる
 習慣が変われば 人格が変わる
 人格が変われば 運命が変わる

山崎 充子
 今年度六月から半年間、金光学園図書室に勤務させて頂くことになりました、山崎充子と申します。

私は大学卒業後、八年間京都で保育士として働いておりました。地元に戻り、ご縁をいただき、金光学園の職員となる日が来るとは思ってもみないことでした。しかし、今こうして母校に通うようになり、懐かしい空気に触れ、中高で過ごした日々の事を思い返しながら、ここで学んで、楽しんで、時には悔し涙を流し、たくさん仲間と感動を共にした日々の大切さを、改めて実感し、感謝の思いを抱いております。

正直に言うと、学生時代の私にとって、図書室という空間は、身近なものではありませんでした。そんな私が図書室に通うようになり、本を心待ちにする生徒の顔を見ると、何だかもう一つの大事な世界を楽しんでいるように見えて、私は目



を睦る想いがしました。今は、そんな素敵な世界を教えてくださいました生徒たちに、私なりに何かできることはないかな？と考えている真つ最中です。自分一人が読める本の数は限られていても、「もうこんなに読んだの！」「今回の本はどうだった？」「一緒に探そっか！」と生徒のみなさんと一緒に読んだ本を話をしたり、探したりしながら、共感しあったり、感動を分かち合えたらいいな……と願っています。短い期間ですが、何卒よろしくお願い申し上げます。

探究授業推進委員会 委員長総括

三宅 美緒

探究授業が始まり今年で八年目、探究が探求と間違われる機会も減りました。今回はそれを陰ながら支えるスタッフの仕事、および昨年度まで務めていた委員長の仕事について振り返ってみたいと思います。

一、探究とは

学園では探究力を「自ら課題を発見し、実験や調査で実証・考察し、その結果を論文や口頭で表現できる力」と定義し、その力をつける授業カリキュラムを組んでいます。そのカリキュラム（中三〜高二の時間割に入っている授業）がうまく進むようにお手伝いするのが探究授業推進委員会（以下委員会）の仕事です。その二期目の委員長を昨年度まで三年間務めました。

二、委員会

委員会は十名弱の年齢層がやや若めの教員で構成されています。尚、授業では二十名を超える先生の協力をいただいています。毎年少しずつ入れ替わりながらも毎年お世話になる固定メンバーも少なくありません。週一回の定例会議では、情報交換やその時期に必要な議題について話します。この会議では、先生方から色々な考えをいただけるので、自分一人で悩み決断できない問題点が、あっさり解決することも多々ありました。

三、仕事内容

委員長を引き受けた当時の主な仕事は、探究授業運営と校外研修企画でした。探究授業運営とは、生徒につけたい力に合わせた授業内容を考え、実際に進めていくことです。具体的には、授業企画、必要な物品購入、論文の集約と発注、ブログや通信の作成や発行、写真記録や報告書作成、講師やTAとの交渉や謝礼の手配、校外発表会への申込や引率、時間割や教室変更の段取りなどです。何よりも授業の主役である生徒が困らないよう、担任や担当の先生と連絡を取り、場合に

よっては直接教室に行き、説明することもあります。行事や学期ごとの大きな区切りで総括を行い、次に向けての改善点や工夫点を探ります。

事前に計画を十分練り、準備して動く、そしてまた考える、生徒の探究活動と似たことを教員もやっている訳です。合わせて、授業の企画を考える段階では、そのために参考となる本を何冊も借りたり、他校の同様の授業を調査して学園の授業に活かせないかも考えます。現在、校内発表会の運営に関しては、研究大会実行委員会という他の委員会の先生方と協力して行っています。

校外研修では、大学の研究室などに生徒とお邪魔して見学や実験・実習、大学院生との交流、宿泊や移動手段の段取りから引率までを行います。大学の先生は個性的で人間的な魅力もあり、中にはTVでお見かけする先生もいらっしやいます。そのような方



から話を伺うことで、生徒以上に教員も大きな刺激を受けます。また、現地で学園の卒業生と会い、近状を聞くのも嬉しい事です。現在、この仕事はSSH委員会に引き継がれ、今夏も大学訪問が企画されています。

四、委員長

委員長を務めている間で大きく変化したことと言えば、中学三年生での探究授業開始や、SSH指定に伴う諸々でしょう。SSHは学校が行う研究活動に対しての助成ですから、複数の委員会のボス先生が集まる部会が新設され、週一時間の会議がもう一つ増えました。物事を見る時には、蟻と鷹、両方の視点が必要だと聞きます。それまでどちらかと言えば蟻寄り、つまり目の前の仕事をこなす事が多かったのですが、鷹の視点、学園の理念である、世のお役に立つひとを育てるとはどういうこ

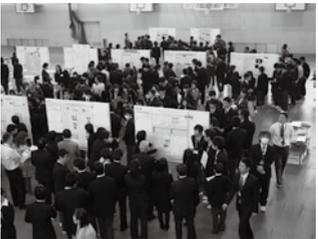


とか、などについて議論を交わすことは、大変ながらも貴重な経験でした。結果的に、委員会ではスムーズに研究活動するために高校生の授業カリキュラムを見直し、同時に、授業以外の業務は複数の委員会で協力して行う態勢になりました。また、普及活動として探究授業を担当されていない先生や保護者の方に探究についての現状を理解していただくための発表や、外部の有識者に助言を頂くための資料をパワーポイントで作成し発表しました。これらも生徒が行う探究活動と同様、発表や質疑応答に向けて、毎回緊張感をもって入念に準備をし、臨みました。

長とはその担当の責任者ですから、担当に関わる最終決定をし、責任を持つこととなります。忙しい時期は、目の前に降りかかる火の粉を払うようなペースで毎日の仕事に追われました。そのため、即座に考え決断しなければならぬこともたくさんありました。その判断基準として、学校の方針に合うか、生徒の役に立つかを基に、最後は自分が楽しいと思えるかどうかを大切にして判断していた気がします。

五、まとめ

振り返ってみると、委員長としての仕事は、大変ながらも様々な分野の仕事を行えた良い機会となりました。同時に、生徒と同じ経験をする中で、言うところとは大違い、生徒には簡単に助言できても、自分で行うとなると何倍もの労力が必要だと言うことも、身を持って実感しました。



また、立場が人を作ると言われますが、この仕事を通して確かに自分にも探究力が付いたのではないかと思います。この関係の文書や資料を積み上げるとなかなかの高さになり、その高さの分だけ得るものも多かった気がします。ともかく今回の随想で委員長としての仕事を締めくくりたいと思います。みなさまお世話になりました。

活躍おめでとう

第16回全国高等学校

少林寺拳法選抜大会に出場して

高三 阿部 聖彦

僕たちは3月23・24日に、香川県多度津町で行われた全国選抜大会に組演武の部県代表として、原田博史君と丸山聖君と出場しました。



僕たちにとっては、昨年に続き二回目の出場でしたが、一回目の大会は僕のミスで予選敗退という結果に終わり悔しい思いをしました。今回は、大きな失敗もなくお互い日々の練習の成果を出し切ることができましたが、残念ながら決勝進出は叶いませんでした。今大会を最後に僕たちは引退

しましたが、少林寺拳法部に入学して過ごした6年間の日々は僕にとって大学受験や様々な困難に立ち向かう時の支えになると確信しています。

いよいよ来年より少林寺拳法もインターハイ正式種目に追加されます。後輩達のインターハイでの活躍を期待します。



中国大会に参加して

高三 丸山 聖

中国大会当日の僕の心境は不安だらけでした。他校の選手は僕より練習をしているだろうなという雰囲気があったからです。練習量的に決勝戦は無理だろうと開き直って単独演武をしてみた結果、決勝戦に出ることができました。自分が出

られるとは思っていませんでした。涙が出そうになりました。

むかえた決勝戦では、大きなミスはしませんでした。得点が低く、六位の結果に終わりました。得点が低い理由を考えてみた所、突きやけりの時の腰のはいり具合が甘かったり、力んでふらついたりしたなどがうかがえました。



『感謝の気持ちを「トライ」に』

高三 原 和真

私達ラグビー部は、第五十六回中国高

等学校ラグビーフットボール大会に四十年振りに出場することができました。

昨年度の私の目標は先輩達と中国大会に出場することでしたが、中国大会進出をかけた試合で敗れ、私は悔しくて涙が止まりませんでした。それから一年間、私はラグビー部主将として仲間や後輩、マネージャーと一緒に目標に向かって、昼休みにはミーティングを重ね、放課後には練習に励んで、中国大会出場を果たすことができました。

山口県長門市で開催された中国大会では十二チームが出場し、その中には全国屈指の強豪校も出場していました。金光学園ラグビー部は、Cブロック一回戦で広島県代表の美鈴が丘高校と戦い、十二・四十四で敗れました。大会初戦ということもあり、前半は緊張して受け身になっていましたが、後半は練習で培った展開ラグビーでは互角に戦い、二ト



ライを取ることでできました。翌日の三位決定戦では鳥取県代表の米子合同と戦い、二十一・十九という僅差で勝利することができました。私も含め試合で負傷したチームメイトが多くいた中で、チームで気持ちを一つにして戦い抜くことができました。



今回の大会を通して感じたことは、全国の壁は高いということです。一生懸命練習に励んできたつもりでしたが、この壁を超えるためには今まで通りの練習では不十分です。練習時間は限られているので、全国レベルの試合を意識して練習に取り組むことが大切であると思いました。

私達はこの大会で合計六トライを取ることでできました。この六トライは、指導して下さいる顧問の先生、毎回遠方まで応援に来て下さる保護者の方々、学校を出発する前に激励して下さいた校長先生をはじめ多くの先生方、そして、

金光学園ラグビー部をいつも応援して下さいる全ての方々へ感謝の気持ちを表すトライになったと思っています。

第四十九回全国高校将棋選手権

岡山予選優勝 高二 羽仁 豊

今回、僕は第四十九回全国高校将棋選手権岡山予選で優勝し、連覇を果たすことができました。大会に出場する数日前から体調も将棋の調子も両方ともよかったので、去年に続いて優勝を！と意気込んでいました。大会当日も順調に決勝まで勝ち上がることができ、ほっとしました。そして決勝も相手のミスに助けられ幸いにも優勝することができました。去年の夏の大会では、緊張と実力不足で勝ち上がることが出来ませんでした。冬の全国大会では決勝トーナメントまで進み、ベスト16まで進みました。

今回の全国大会は、「優勝



をする」というのが第一、と緊張せず、内容の充実した将棋を指そうと思っております。

また、全国大会に参加できたのは、母や顧問の先生などお世話になつての方々がいるからでもあります。そのことを忘れずに感謝の気持ちを持って全国大会に臨みたいと思います。

全国高校選抜卓球大会に出場して

高二 西岡 舜

僕は昨年12月23日に行われた全国高等学校選抜卓球大会シングルス二部岡山県予選会において優勝し、3月24、26日に北海道で行われた全国高校選抜卓球大会に出場しました。僕にとって初めての全国大会だったので不安もありました。練習の成果を試合で出し、貴重な経験ができる大切な試合として集中して試合に臨みました。

結果は予選リーグで1勝2敗と残念ながら決勝トーナ



メントへ進出することはできませんでしたが、多くのことを学ぶことができました。技術面では上手な人のプレーを見て自分と比較して自分に足りていない部分を見つめることができました。技術面以外では普段の試合では気付くことができない大切なものを感じることもできました。それはチームメイトが応援してくれる影響の大きさです。僕は全国大会に行く前までは卓球は個人競技で、プレーをしている時は他の人が応援してくれていても感謝してしていると感じることはありませんでした。しかし、全国の舞台という応援をしてくださる方が少ない状況で試合をして、自分の納得のいく試合をできるのは様々な方の応援のおかげだということに気付くことができました。

今後は応援してくださる方々に対して感謝の気持ちを忘れずに試合に臨みたいと思います。最後に、ご指導くださった先生方や共に練習してきたチームメイトに感謝し、全国大会で得た経験を生かして日頃の練習に取り組んでいきたいと思っています。

中国大会に出場して

高二 藤澤 諒多

僕は、6月14、16日に山口県スポーツ文化センターで行われた第60回中国高等学校卓球選手権大会のダブルスの部、団体戦の部に出場しました。高校での中国大会出場は初めてだったので、県外の高校生と試合ができることがとても楽しみでした。

一日目は開会式とダブルスの試合がありました。試合会場に着くと、県内の強豪校やインターハイでも上位に入賞する学校が練習していました。それを見た時、やっと中国大会に来たという実感が湧いてきました。ダブルスは一回戦でフルセットで惜敗しました。初戦から自分のプレーができる集中力を養う必要があると反省しました。

二日目は団体



戦がありました。一回戦は3-0で勝ったので嬉しかったです。2回戦は島根県1位の強豪校に惜敗しましたが、全国レベルの選手と試合ができたことはとても良い経験になりました。1試合しただけで、ボールの触り方や打球の速さなど様々な技術を学ぶことができました。

三日目は個人戦がありました。チームメイトを応援した後は、インターハイに出場する選手を観て、フットワークやフォームなどの動きを中心に学びました。この三日間で感じたことや学んだことを活かし、全国大会や中国大会でも通用するプレーができるように努力したいと思います。

中国高等学校卓球選手権に出場して

高二 遠藤 睦子

去る6月14、16日の間、山口県スポーツ文化センターにおいて、第60回中国高等学校卓球選手権大会が開催された。私達女子卓球部は男子卓球部と共にアベック出場を果たすことができた。伝統ある卓球部であるが、中国大会への出場は三年ぶりの快挙である。

女子卓球部は、三年生はおらず、部員

が少ない為、昨年はほとんど団体戦には出場することができなかった。そういう私も、昨年の二学期より縁があつて金光学園に編入させていただき、卓球部に入部したのだ。当初、岡山県予選を勝ち抜くのは厳しいと思っていたが、先生の指導のもと、中国大会出場を目標にメンバーが結束したことにより、見事にベスト8に進出し、中国大会出場の最後の一枚の切符を手に入れることができた。

岡山県予選が終わる中国大会まであまり時間がない上に、修学旅行も重なり、13日に旅行を終えた次の日に山口へ出発するハードスケジュールだった。団体戦は初日にあり、初戦の相手は島根県の古豪松江商業であった。ハイレベルの相手に対し、チャレンジャー精神で挑み、勝つことができなかったが1対3と接戦を演じることができた。

中国大会に出場して、技術面だけでなく精神面も大きく成長できたと感じている。また私の兄と姉も金光学園卓球部として中国大会に出場したので、私自身も追いつくことができ嬉しく思う。これからもっともっと練習して今以上の成績が残せるよう、部員一丸となって頑張つて

いきたい。こんな私を支えて下さった先生と励まし合いながら一緒に戦ってくれたチームの仲間に対し、感謝の気持ちでいっぱいである。そしてこれからもよろしくお願ひします。

『中国大会に出場して』

高三 瀬尾 光正

私は、六月九日に広島で行われた中国大会に出場しました。中国大会では残念なことや嬉しいことがたくさんありました。まず残念なことですがそれは試合です。私は普段は攻める気持ちで試合に挑むのですが、この試合では弱気になってしまいました。相手に攻められっぱなしで延長戦の末に判定で負けてしまいました。初戦敗退という結果よりも、試合の内容が悪く、悔しいです。この悔しさを忘れず、もっと強くなつて、より強い相手に勝てるようにならうと思います。

そして、嬉しかったことは両親や妹、祖父母、柔道部員が応援に来てくれたことです。後輩の一人にはずっとアップの相手をしてもらい、同級生はテストの合間に広島まで来てくれ、申し訳なくも思いましたが、とても嬉しかったです。

応援してくださった方々、本当にありがとうございます。



そして、僕がこころで部活を続けられたのも、両親の支えと、部をさぼりがちだった中学生のころも根気強く指導してくださった先生方、日々に練習した柔道部員のおかげだと思います。

最後にまだ中学一年生で部活に入らず迷っている人がいたら、柔道部への入部を考えてみてください。

岡山県高校総体3位になって

高三 加藤 佳祐

五月三十一日から六月二日にかけて岡山県高校総体が開催された。僕は初日のハンマー投げに出場し47m09cmで第3位になり中国大会出場を決めました。

今まで、試合になるとガチガチに緊張して上手く投げられないこともあったのですが、今回はあまり緊張せずに、早く投げたいという気持ちが強かったです。そ

して試合が始まり、一投目で自己記録を更新し三投目では47m09cmまで記録を伸ばすことに成功し第三位に入賞しました。

初めての表彰台は気持ちがよく、思わず笑みがこぼれてしまいました。しかし、自己記録を投げながら優勝できなかった悔しさは消えませんでした。中国大会へ向け更に気を引き締め、課題を克服して望みたいと思います。

中国大会では、惜しくも負けてしまった仲間たちの悔しさをハンマーに乗せ、インターハイ出場へ挑戦したいと思います。

中国大会・県総体を通して

高二 徳原 真奈美

五月三十一日～六月二日に県総体、六月二十一日～二十三日には中国大会が、どちらとも岡山県で開催されました。中国大会の予選となる県総体で、400mと400mハードルを無事通過し、この二つの種目で中国大会に出場しました。

中国大会を勝ち抜くと、その上には大分インターハイという私の目標にしていた試合の出場権が得られます。しかし、中国五県の強豪が集まる中国大会。県総体以上によりタイムを出さなければなら

ないこの試合で、私は400mと400mハードルどちらとも自己ベストを更新できず、県総体よりも悪いタイムで走り、結果はどちらも準決勝落ちでした。

ルどちらとも自己ベストを更新できず、県総体よりも悪いタイムで走り、結果はどちらも準決勝落ちでした。

私が中国大会で感じたことは、自分の力のなさ、気持ちの弱さです。親やまわりの人に走り終わってから「よく頑張ったね」と言われたけど、自己ベストを出せず、インターハイの出場権も獲得できなかったもので、全然頑張ったとは言えません。400mHでは私が県総体では勝っていた人が、中国大会では3位に入っていたので、自分も行かなければならなかったはず。それなのに準決勝で落ちたという事は、自分の力のなさ、気持ちの弱さ以外の何ものでもありません。インターハイに行くんだという気持ち弱く、自分は県で一番なんだというおごりもあったと思います。

来年は、常にインターハイで入賞する、という気持ちを持って毎日の練習に励み、もっともっと速くなって、まわりのライバルに勝ち、インターハイに出場します。応援ありがとうございます。それと同時に、こんな情けない結果になり、申し訳ありませんでした。来年は絶対、絶対インターハイに出場します。

平成25年度 大学入試合格者数一覧

国立大学……………合計35

- 東京海洋 (1) 横浜国立 (1)
- 京都 (2) 大阪 (4)
- 神戸 (2) 和歌山 (1)
- 鳥取 (1) 島根 (2)
- 岡山 (6) 広島 (1)
- 徳島 (1) 香川 (3)
- 愛媛 (2) 高知 (5)
- 九州 (1) 大分 (1)
- 鹿児島 (1)

公立大学……………合計 9

- 福島県立医科 (1) 都留文科 (1)
- 京都府立 (1) 大阪府立 (1)
- 兵庫県立 (1) 奈良県立 (1)
- 福山市立 (1) 北九州市立 (2)

私立大学……………合計 257

- 獨協 (1) 青山学院 (1)
- 北里 (1) 工学院 (1)

- 國學院 (3) 駒澤 (1) 近畿 (9) 関西学院 (11)
- 芝浦工業 (1) 順天堂 (1) 甲南 (3) 神戸学院 (2)
- 上智 (2) 専修 (1) 神戸女学院 (2) 神戸薬科 (5) 大阪コミュニケーション (1)
- 大東文化 (3) 中央 (9) 神戸親和女子 (1) 姫路獨協 (1) 大原医療秘書福祉 (1)
- 帝京 (4) 東京理科 (3) 武庫川女子 (2) 関西福祉 (1) 辻調理師 (1)
- 日本 (2) 武蔵野 (3) 関西国際 (1) 岡山商科 (1) 倉敷中央看護 (1)
- 武蔵野美術 (1) 明治学院 (3) 目白 (1) 岡山理科 (12) 川崎医療福祉 (6) 玉野総合医療 (1)
- 立教 (3) 早稲田 (5) 倉敷芸術科学 (1) くらし作陽 (7) 岡山ビューティモード (1)
- 金沢工業 (1) 朝日 (1) 山陽学園 (2) 就実 (5) 尾道准看護学院 (1)
- 岐阜聖徳学園 (1) 金城学院 (1) イトヤ淳孝 (13) 泉奈字篤義 (1) 大分大学保健衛生 (1)
- 名古屋外国語 (1) 名古屋学芸 (2) 広島経済 (1) 広島工業 (6) 大阪医療 (1)
- 名古屋商科 (2) 皇學館 (5) 広島国際 (2) 広島修道 (2) 大阪コミュニケーション (1)
- 大谷 (1) 京都外国語 (1) 広島女学院 (2) 福山 (1) 倉敷中央看護 (1)
- 京都学園 (1) 京都産業 (2) 福山平成 (2) 安田女子 (1) 大原医療秘書福祉 (1)
- 京都女子 (3) 京都薬科 (2) 徳島文理 (4) 久留米工業 (1) 辻調理師 (1)
- 同志社 (16) 同志社女子 (5) 徳島文理 (4) 久留米工業 (1) 倉敷中央看護 (1)
- 藤田 (1) 龍谷 (6) 岡山短大 (2) 川崎医療短大 (1) 岡山ビューティモード (1)
- 立命館 (11) 龍谷 (6) 岡山短大 (2) 川崎医療短大 (1) 尾道准看護学院 (1)
- 藍野 (1) 追手門学院 (1) 就実短大 (2) 中国短大 (2) 尾道准看護学院 (1)
- 大阪芸術 (1) 大阪薬科 (2) 就実短大 (2) 中国短大 (2) 尾道准看護学院 (1)
- 関西 (15) 関西医療 (1) 専修・専門学校等…合計 10
- 関西外国語 (2) 関西看護医療 (1) 文化服装学院 (1)

32名の学園生が、16日間の英語武者修行に

金光学園中学高等学校 第27回イギリス短期語学研修

2013.3.20~4.4
ロンドン郊外にて
(Broxbourne / Enfield)

イギリス短期語学研修

高一 太田 鈴

私は、春休みのイギリス短期語学研修に参加した。最初はただ「イギリス行ってみたいな」という軽い気持ちだったが、事前学習などを受け、イギリスの有名な場所や食べ物について知った時から、ただ単純に「行きたい」という気持ちではなくなった。イギリスでのホームステイや観光を通して、日本と違ったライフスタイルで生活したり、写真でしか見たことのないような所へ行ったりして、自分がないものを吸収していきたくて思った。最初に私がイギリスについて思ったことは、人がみんな親切だということだ。何となく外国の人たちは、自分勝手に物事を進めているんじゃないかという固定

観念が私の中にあっただが、実際は、私たちが道を渡ろうとすれば、信号が赤になっただけでもないのにハザードをたいて、私たちに渡っていいよと言ってくれた。私はとても驚いた。そして、私の考え方は間違っていたんだと気づいた。

次に思ったのは、ホストファミリーがとても私たちに優しくしてくれるな、ということだ。私のホストファミリーは、シャーロンとアンディ、ジャック、ローラの4人家族だった。ローラは同い年だと思えないくらい大人っぽくて、とてもきれいだった。シャーロンはショートヘアのかっこいいお母さん。アンディはすごく面白くて、よく私たちを笑顔にしてくれた。ジャックはあんまり家になかったけど、すごくかっこよかった。私



はこの2週間で、ホストファミリーとたくさん写真を撮った。最終日は、ホストファミリーが私たちにプレゼントをプレゼントしてくれた。とても嬉しかった。私も一緒にホームステイしていた山口さんと作ったメッセージカードを渡した。ホストファミリーはすごく喜んでくれていたので、また嬉しくなった。

2週間という短い期間だったが、たくさんのいい思い出ができ、お別れするのはすごくさびしかったけど、また機会があれば参加したい。I had a very good time for two weeks!

イギリス研修

高一 坂本 夏帆

私は今回の研修で初めて海外に行った。行く前は、楽しみな気持ちと不安な気持ち両方あった。出発が近づくとつれて



英語でちゃんと話せるか、ホストファミリーと仲良くできるかなど、不安になってきた。

飛行機に乗って、改めて日本とイギリスは遠いんだなと思っ

た。イギリスに着いて、建物や景色が日本と全然違っていて驚いた。

ホストファミリーは、マザーとファザーと女の子2人だった。最初会ったときは緊張したけど、マザーもファザーも優しく話しかけてくれるし、アリアとシエナも明るくて、よく話しかけてくれたので安心した。

私はイギリスでホストファミリーと過ごしたことが印象に残っている。休みの日は買い物に連れて行ってくれた。イギリスのいろんな景色が見れてよかったです。シエナとアリアはとても遊ぶのが好きで、休みの日や学校から帰った後は、部屋で鬼ごっこをした。2人とすぐに仲良くなれてうれしかったし、2人のおかげでマ

ザーやファザーともコミュニケーションがとりやすくよかったです。イースターの日は2人と、同じホームステイ先だった真以ちゃんと4人で、顔に絵を描いた。日本ではあまりしないので楽しかった。4人でたくさん写真を撮った。

ロンドンに行ったことも印象に残っている。建物がとてもきれいで感動した。ロンドンの有名な建物を近くで見れてよかった。

私は今回のイギリス研修でたくさんのお話を学んだ。一番思ったことは、英語は大切だということだ。英語がしゃべれないと何も伝わらないし、言っていることも分からなくて大変だ。もっと英語がペラペラで行ったら、もっと楽しく過ごせていたと思う。だからこれからは本気で英語を勉強しようと思った。今回の研修で学んだことを勉強に活かしていきたい。

イギリス語学研修

高一 上田 華子

私は2週間のイギリス語学研修に参加して、たくさんのお話を学んだ。そして、英語力のなさを改めて感じた。

初めてホストファミリーと会ったとき、一気に不安が広がった。あいさつはできたものの、車の中で話しかけられてもほとんど自分が何を言われているのかわからず、一緒にホームステイをするもう一人の友達と何を言っていたかわかる?と話し合ったりした。家の中へは靴が入った分かってはいたけれど、いざとなると違和感があった。床に寝転がりたり座ったりできないのもキツかった。ご飯は意外と野菜の量が多く、ヘルシーだった。イギリスのご飯はおいしくないと言われたので覚悟していたが、普通においしかった。

最初の1週間はいろんなことが初めてで、新鮮だった。バスに乗ったり、私がホームステイしたエンフィールドはお店がたくさんあったので、買い物をしたりして楽しかった。マックに行ったりときポテトの味が薄かったのがびっくりだった。私のイメージでは、イギリス人は濃い



味が好きそうだったが、私がついて行ったせいも、ソルトソルトと言われて、あまり塩とかは好きではないのかなと思った。

イギリスに行つてたくさんの方が親切だと思った。ドアをずっと開けておいてくれたり、道を譲ってくれたりする人もいた。初めてバスに乗ったときは、料金の払い方が分からなくて困っていたら、運転手さんが教えてくれてタダで乗せてくれたりもした。

日本に帰ったときには、トイレの便座が温かいとかシャワーの湯が温かいとかちよつとしたこと一つひとつに感動して日本は豊かだなど思った。それに、家族の大切さも感じた。ホストファミリーとはいえ、家にいるときは何かと気を遣うし、無言は気まずい感じがしたりした。しかし、家族は楽だ。

私にとって初の海外で、移動や時差ボケも疲れたが、とても良い経験になった。この研修を勧めてくれた親、先生、お世



話になったホストファミリーに感謝したい。

イギリス研修から学んだこと

高一 山口華代子

私は春休みを使ってイギリスに短期語学研修に行ってきた。この約2週間の慣れない地での生活は、本当に不安だらけだったが、帰って来てみると本当に行つて良かったと思つた。

まず、私がイギリスへ行つて思ったことは、英語を自由に話せるようになったという点だ。ユメタンの講演で学園に来て下さったキムタツ先生が、「本当に英語ができる人というのは、偏差値が高い人ではなく、自由に英語を話せる人だ」とおっしゃっていた。実際に海外に行つてみて、そのことを実感した。それと同時に、私も英語ができる人になりたと思つた。また、コミュ



短期語学研修を終えて

高二 岡本 章良

今回僕は初めて海外でのホームステイを経験した。勢いで行ってしまった部分も少々あったので、ホストファミリーに会ったときは不安でいっぱいだった。今思えば数えるときりがないが、ホストファミリーはとても親切に迎えてくれた。はじめの2、3日はまだ慣れず、不安と疲れが少しあったが、その期間は街並みやバスの利用方法など、いくつもの新しい発見があった時でもあった。

イギリスの英語は、僕がいつも学校で学んでいる英語とは少し発音が違ったので、会話をするのにはとても苦労した。研修の目的である英語の学習については終わった今思うと何も新しいことは学んではないような気がする。何か新しい単語をいくつも覚えたわけでも、新しい文法を学んだわけでもない。行くときは2週間滞在すれば何か新しい単語を学べるような気がしていたが、実際は知っている単語しか聞き取れなかった。新しい英語を身につけるのではなく、今持っている自分の力をいかにして使うか、その方法を学んだことこそが、今回の一番の



成果だと思つた。

最初の頃は、ホストファミリーとの会話さえもぎこちないものだったが、徐々に自然に英語が出てくるようになった。上手になつたとホ

ストファミリーに言われた時の達成感は、今まで感じたことのないようなものだった。ただ一つ後悔していることは、リスニングだ。スタディーセンターの先生やホストファミリーと話す時は、ゆっくりと話してくれるので聞き取ることができたが、他の人の日常会話やテレビのニュースなどは、間の単語が少々聞き取れる程度で、正確に全てを聞き取ることができなかった。次にどこか英語圏の国へ行く時は、すべて聞き取れるようにしたい。

僕が今回この研修に参加した理由はいくつかあるが、その一つの目的が自信をつけることだった。中学校1年生から今まで英語を学んできたが、それがどのよ

ニケーション力の大切さを学ぶことができた。ホストファミリーや英語クラスの先生など、誰と話すにもコミュニケーション力は必要だ。しかし、私は英語で会話できるほどの英語力もないので、初めはとても困つた。言いたいことを伝えたくても発音が悪く聞き取ってもらえないことも多々あった。でも、そんな時は、ジェスチャーなどを使って必死に伝えようとすると、相手も聞こうとしてくれるので、なんとか伝わった。言つたことが伝わった時や会話できた時は、本当に嬉しかった。

イギリスでの生活は、自分にとって本当にためになった。事前学習や英語クラスを通じて、イギリスの文化や習慣について、とても詳しくなった。今回のイギリス短期語学研修で学んだすべてのことを、今後に活かしていきたい。それだけでなく、私を温かく迎えてくれ、約2週間お世話をしてくださったホストファミリーへの感謝や、お金を出してくれた親への感謝を決して忘れてはいけないと思つた。これを機に、もっと英語力をつけたい。

うに役に立つのか知る機会はあるけれども、実感することはなかった。今回の研修ではそれを実感し、名前も知らなかったような所で、たった2週間だけれど自分の力で生活したということが、これからの学校生活や私生活での何よりの自信になると思つたのだ。そしてそれは達成することができた。これからはこの貴重な2週間で培った経験を活かしていきたい。



高一 学習合宿



一組 瀬本 可南子



学習合宿の目的の一つである、親睦を深めるということが私は一番で来たと思います。高校に入学し、新しいクラスになると、親しい友人はあまりいませんでした。もちろん仲の良い子もいましたが、深く関わったことのない人が多くて最初はとまどいばかりで、中三に戻りたいと何度も思いました。しかし、この学習合宿で、バスと一緒に乗ったり、バーベキューをしたり、お

風呂に入ったたり、たくさんのことを共にするうちに、お互いが打ち解けあい、良い関係になっていきました。帰り道、くたくたになっていて、向こうでは勉強の時間が多かったな、何をしに行ったのだろうと思っていました。しかし、今考えると親睦を深めることもできましたが、クラスになじんできたなどということや、クラスに雰囲気が出てきた実感があります。この合宿では目に見えない大きな変化を私にも、クラスにもさせてくれました。高校生になり本格的に勉強をしていく中で、くじけそうになつたとき、やはり友達は大切な存在になるだろうと思います。この合宿で学んだことをいつまでも大切に、これから三年間の高校生活の支えとして頑張りたいです。

五組 原田 拓郎

学習合宿を終えてたくさんのことを学ぶことができた。六時間のゼミでは、金光学園の勉強の仕方や個々の教科の勉強の仕方についてわかった。特に、定金先生の講演を聞いて



で、どんな分野に進んでも対応できる基礎知識を身に付けておくことが大切だということなど、高校で勉強する意味について学ぶことができた。このことから、やはり中学校と高校とでは、勉強に対する姿勢が違って、高校の方が積極的に勉強をしなければならぬと感じた。そ

のためにこれからは、自分から勉強をして予習↓授業↓復習のサイクルをしつかりとしていきたい。定金先生の講演を聞いてとてもためになった。

勉強以外の面でも速やかに行動することや自分が使ったものは、最後まで自分で責任を持って処理することや人の話を静かに集中して聞くことなど、当たり前のマナーなども改めて理解することができた。

親睦を深めることもよくできたと思う。僕は、高校から入ってきて慣れない部分もあったけど、同じ中学校から入ってきた人たちや卓球部の人、同じクラスの人や他のクラスの人ももしかると話をして親睦を深めることができたと思う。特にウォークラリーやバーベキューやレクリエーションなどでは、本当にいろいろな人と話をする事ができて、楽しく過ごせた。

この合宿で学んだことを学園生活に生かしていきたい。これからの学園生活をみんなで団結して、心をひとつにして頑張っていきたい。

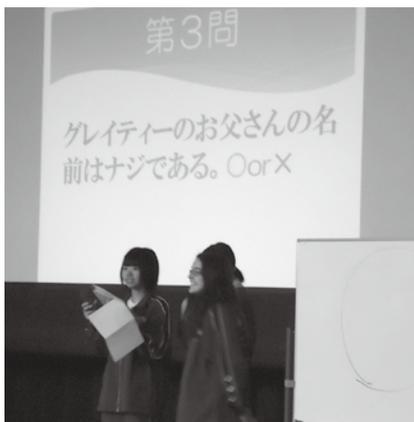


がないと気付いた。嫌々授業を受けるのではなく、自分から積極的に受けるのが大切だ。そうすること、理解も深まり、勉強が面白く感じると思う。不思議

二組 谷村 和哉

高校生活がスタートして約二週間、新しいクラス、新しい仲間と一緒に楽しい高校生活を送っていきたくて思った。入校時学習合宿は、そのような高校生活を送るための第一歩だと考えていた。この合宿では、新しい仲間とコミュニケーションをとる、仲を深めること、授業を自分のものにできるように積極的に取り組む、というのが多くの目標だった。

二日間過ごして学んだことは、時間のけじめをつけること、授業をいかに自分のものにするかということだ。ただ先生の言っていることを聞いていても意味



議なもので、そういった時はなぜか時間がすぐに経ってしまう。そして自然と学力もついてくる。勉強が苦痛ではなく、いい方向へいい方向へ転がっていくはずだ。しかし、そうするためには、時間にはじめをつけることが大切だ。遊ぶときはしっかり遊ぶ、部活をするときはしっかり楽しむ。別に勉強のことを忘れてしまっても構わないと思う。その代わりに、勉強するときは他のことにとらわれず、集中してやる。これからは、時間にはじめをつけた学習をしていきたいと思う。

中学生になって



「仲間と共に」

三組 渡邊 七海

私は四月七日に、金光学園の中学生になりました。不安な気持ちがあったけど、それ以上に中学校生活がとても楽しかったです。

私は、中学生になってがんばりたいこ

とが三つあります。

一つ目は、あいさつです。これは、三つの中でも特にならばいいです。小学校では、相手があいさつをすると私もするかんじだったり、声小さくて相手に届かないことがあったので、中学校では積極的に挨拶をしたいと思います。そして、気持ちのいい朝になるようにしたいと思います。

二つ目は、勉強です。中学校は、小学校より覚える内容が多くて難しいと思うので、学校でだけではなくて、家でもしっかり予習や復習をしたいと思います。分らないことがあったら、先生に聞いたり、自分で調べたり、スクーリングで教えてもらった「学び合い」をしたいと思います。一年後には、八日の入学式でもらった十四冊の教科書が全て自分の頭に入っていればいいと思います。

三つ目は、友達づくりです。私は、この学園に知り合いがあまりいないので、この一年間で、友達の輪を広げていきたいです。そして、出会えた仲間といろいろな思い出をつくりたいです。

入学式当日は、胸の中が不安ときん張でいっぱいだったけど、こうして作文を書いている今は、優しい先生や先輩い

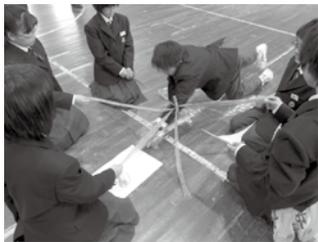
方とめぐり会えて、共に時間を過ごす百八十七人も人と出会えて、「あつ学園っていいんだな、友達っていいんだな」と思っています。

これからもきつとたくさんのかべが待っていると思います。でも、共に時間を過ごす仲間と一つ一つ乗りこえていき、友達や私達を支えてくれている人、そして自分を大切にし、感謝の気持ちを忘れずにいたいです。「人を大切に、自分を大切に、物を大切に」

「二人では生きていけない」

四組 光畑 慶亮

一年四組二十一番。金光学園の生徒になれました。僕が金光学園を選んだのはオープンスクールの時に習った、学校の合言葉がすごく心にひびいたからです。「人を大切に、自分を大切に」物をも大切に」とも簡単な言葉だけど、自分



それができているかと考えた時、すごく難しく思えました。

僕は将来、政治家になりたいです。争い事が無く、世界中の人々が幸せに暮らせる世の中をつくりたいです。周りの国から尊敬される強い国をつくりたいです。日本に産まれた人々の、一生が終わる時日本人で良かったとほこりが持てるような国をつくりたいと考えています。その基本を金光学園で学びたいです。世界中の人々が「人を大切に、自分を大切に物を大切に」と思えたら僕のつくりたい世の中になると思うからです。

新しい友達もたくさん作りたいたいです。いろいろな人といろんな話をしたり、いろいろな事を教えてもらいたいです。僕はワンピースという漫画が大好きです。その漫画の主人公のルフィが言った言葉があります。「俺は一人では生きていけない自信がある」という言葉です。僕もその通りだと思えます。楽しい時には一緒に笑って、苦しい時には一緒に歯をくいしばってがんばっていきける。そんな本当の仲間を作りたいたいです。僕の目標は、毎朝大きな声であいさつをする」「三年間休まない」の二つです。こんな僕ですが仲

良くしてください。ゆっくり時間をかけて本当の仲間になってください。よろしくお願いします。



「自覚と誇りをもって」

五組 難波 花音

私は、中学生になって学年目標にある「当たり前前」の事を当たり前にしよう」ということを教室のなかでなく、通学するとき利用するバスや電車の中でも、大きな声を出さないことや、運転中に席をたたないことや、本当に当たり前前のこと

新入生歓迎会



「楽しかった歓迎会」

一組 梅村 美稀

私たちの新入生の言葉の後に、先輩方が「いつでも困った時は、言ってくれ」と言われているのが、心に残りました。入学する前に、オープンスクールに行き、部活動体験をしました。その時に、部活について丁寧に教えてくださった先

輩の姿が見えたので、今まで不安だった気持ちが一気になくなりました。今日の会で改めて、先輩方の優しさを知りました。入学式の時は、緊張して何も考えられなかったけど、今日は、緊張せずに見る事ができました。改めて、自分も金光学園の生徒になったことを実感してうれしく思いました。

家に帰って、生徒会通信を詳しく読んでみると、私たちが乗っていたひな壇は、いろいろな先輩方が組み立ててくれた事を知りました。

オープンスクールで顔を知っている先輩も顔は知らないけどがんばって土台を組み立ててくれた先輩達の中でこれから生活していくのだと思うと、うれしいし、胸がドキドキします。

部活動、行事などもわかりやすく、劇や言葉で説明してくれて、どの部活も楽しそうだなと思ったし、行事も色々な行事があることを知り、胸が高鳴っています。

私は今日、一日でたくさん頼れる先輩を見つけた事ができたり、たくさん金光学園のことを知ることができました。これから、困った事がでてくるかもしれない

ませんが、先輩が教えてくれた事などを生かしてがんばりたいです。そして、困った時には、先輩達を頼っていきたいです。新入生歓迎会は、みんなががんばれたという実感があつたと思うし、先輩達の様子も見られたので良かったです。



「金光学園の一員に」

二組 荻野 理彩

初めて先輩方の前に出たこの会は、吹奏楽団のすばらしい演奏ではじまりました。体育館に入場する前からいっ

だった緊張感も先輩方の面白さや頼りがいのありそうな雰囲気での間にかなくなってしまう。幾度も打ち合わせや練習をしてくださったと思われる各学年の出し物では「スゴイ」としか言いようのない一体感を味わいました。

さらに強く印象に残ったのは部活動紹介です。本当にどの部活に入るかまよってしまうほどでした。楽しさと期待が胸いっぱいにくらみ、ついつい笑いだしたりもしました。入学してからの数日間で一番笑顔だったのではないかと自分自身ですら感じています。中でも、茶道部の珍しさ、テニス部の元気の良さ、ダンス部の明るさに興味がわいてきました。一日入部や部活動見学のときに行きたいと思えました。新入生歓迎会では、歓迎していただいたことの感謝の気持ちでいっぱいでした。明るく元気、ユーモアや頼りがいのある先輩方と同じ金光学園の一員になれたことを誇りに思います。これからどんどん成長を遂げていけるよう日々努力します。どうぞよろしくお願

中! 入校時 合宿



「協力が一番大事」

三組 塚岡 麻果

私がこの合宿で学んだことは、たくさんあります。

まず一つ目は、みんなと協力することの大切さです。班でも、クラスでも、学年でも、まずは協力することが一番大事なんだと思いました。なぜなら、協力がないと問題も解けないし、大縄跳びもタイミング良く跳べないからです。中一全体がちゃんと並んで『めいそう』しないと、バランスがくずれてしまうからで

す。先生方にもめいわくをかけるし、私たち一人でも協力できなければ協力したとは言えないからです。私は、実行委員なので少々おくれることがありました。バツと見ると、中一のほとんどがピタッと動きを止め、静かにめいそうをしているのを見ると、『急ぐ』という気持ちが高まりました。だから、私は、協力は大切だと、改めて思いました。

二つ目は、責任を自分一人がかかえないことです。私は実行委員長だったので、委員の中で一番頑張らなければならぬという、責任感をずっとかかえていました。なので、実行委員の皆がしていることを早くおわらせて、来週実行することを考えたりしていました。だから、少し疲れがでて、頭が痛くなったり、早く寝ることが多くなったりしました。学校でも、体ちょうが悪くなったりしました。すると、ある先生が「あまり、責任をかかえないでね。一緒に頑張ろう。」と言ってくれました。その言葉を聞いたとたん、涙があふれ出てきました。人間一人では生きていけない。皆が居るから生きていける。私は、委員長という責任を一人がかかえていました。他の委員の

誰の力もかりず。だから、疲れが出たり体ちようをこわしたりしてしまいました。私は、その翌日から他の委員の人と一緒に協力してみました。そうしたら、前になかった笑顔を入校時合宿に出すことが出来ました。

この二つの事を学びました。私はこれから、色々な困難がまちうけているでしょう。その時は、この二つを思い出して頑張ろうと思います。それと、『人を大切に 自分を大切に 物を大切に』を胸にこれから先も、前進していこうと思います。

「実行委員の思い」

四組 西山 実来

私は、入校時合宿で実行委員をした。初めは何も考えてはいなかったが、初日からとてもすごかった。担当の部分やゲームなどはもちろん、役割の分担



やセリフを短時間で決めていったのである。正直、早すぎてあまりついていくことができなかった。そんな時、同じ実行委員の人がくわしく教えてくれた。その時、私は改めて実行委員の大変さを知った。

何日か実行委員会が続き、本番に近づいてきたころ、実行委員は仕上げの段階に入っていた。みんなでセリフを練習し、次の準備をする位置を確認していた。私は、大勢の前で言うセリフがあった。大勢の前で話すのが苦手な私は、とても不安でいっぱいだった。「間違えたらどうしよう」とか、「上手に話せなかったらどうしよう」などと不安と恐怖がいつたりきたりしていた。そんな時、同じ実行委員の友達が進んでくれたのだ。「あんなに練習したんだからきつと成功するよ。自分を信じて。だいじょうぶだよ。」その言葉が不安でいっぱいだった私を一瞬で勇気づけてくれた。

そして、本番当日。友達に言われた言葉を心の中にしまつて、勇気を出してセリフを言った。すると、最後までしっかりと言うことができたのである。その時、私はすぐにでも友達にお礼が言いたいほ

中3 沖縄修学旅行



「伝える」

一組 山口 璃菜

「めんそーれ!」

飛行機を降りた私達を迎えてくれたのは、この言葉と体中に絡みついてくるような湿気だった。四月下旬になった今でも、薄手のコートが欲しくなるような岡山とは大違いだ。すぐに羽織っていたパーカーを脱いでしまいたくなる。「修学旅行」なんて素敵な響きだろ

う!聞いただけでウキウキしてくる。がらごろとキヤリーバックをひこずっている間も、飛行機に乗っている間も、必要以上にニヤニヤしていたのは私だけではないはずだ(と信じた)。

青い空に青い海の沖縄だが、かつてそこは赤い血で染まった戦場であったということも忘れてはならない。平和学習日である初日、私達は「ガマ」に入った。楽しい思い出がいっぱいの修学旅行だったが、私はこの時の記憶が一番強い。今日はガマに入ったことについて話したいと思う。

沖縄は昔、サンゴ礁が隆起してできた島である。そのためいくつもの洞窟、「ガマ」ができており、沖縄の人々は、そのガマに避難して暮らしていたという。私達は事前学習として、ガマのことも調べてきていたのだが、どれもこれも非常にむごたらしい話ばかりだったので、正直ガマに入りたくないなと思っていた。事実から目を背けたかったのではなく、数え切れないほどの人が、モノのように切り捨てられてきたその場所に立ち入ることが、単純に恐ろしかったのだ。軍手とヘルメットを身につけた私達は、

ど、うれしさと感謝の気持ちでいっぱいだった。

この入校時合宿実行委員会を通して、励まし合ったり、協力しあったりすることがとても多かった。だから、とても良い入校時合宿ができたと思う。これからもいろいろな人と協力したり励まし合ったりしていきたいと思う。



恐る恐るガマの中に入る。懐中電灯の明かりだけでは心細く、思わず友達の手を握ると、友達の手は汗ばんでいた。天井から落ちてくるしずくが肩にあたり、「ねえねえ」と呼び止められているように、振り返ることができなかった。ガマの奥に進んでいくにつれて、みんなの口数は減り、最後にはしずくが落ちる音と足音しかしなくなった。およそ三百メートルの距離だったが、もつともつと長く感じた。二度とここから出ることができないのではないかと、という考えが何度も頭をよぎった。やっとな、やっとな陽の光が見えてきたときは、思わず「ホッ」とため息もれた。もうしずくの音は聞こえなかった。

思い出した。

「ここに人が住んでいたのか」「ここで人が亡くなったのか」

ゾツとした。振り返って見たときには、

修学旅行短歌コンクール

第一席

美ら海ではしゃいで濡らすワンピース
水と一緒に夏がしみこむ

一組 山口 璃菜

生い茂った緑で、もう出口は見えなかった。

私も両親も、戦争を体験したことがない。おじいちゃんもおばあちゃんも、みんな元気に生きている。何が言いたいかというと、私が人の死に触れたことがないということだ。飼っていた動物が死ん



でしまったことはある。いくら突ついても動かず、自らの意思を持たなくなつた死体は、もはや抜け殻としか言いようがなかった。人形以上に、彼らはどこかが「カラッポ」になっていた。その時の気持ちは今でも鮮明に覚えている。発する言葉もなく、ただただ泣くばかりだった。おそらく身近な人間が死ぬということとは、もつと大きな衝撃を私にもたらすのではないだろうか。死体の中に生まれた「カラッポ」が、私の中にも入ってくる。またゾツとした。私達は想像することしかできない。私達は聞くことしかできない。見ることはできない。知らせなくてはならない。同じ過ちを起こさぬよう。尊い命を失わぬよう。そう強く感じた。先ほど述べたように、私はまだ人の死を体験したことがない。しかし、このガマに入ったことで、今までより「死」というものを知った。ヒタヒタと迫ってくるようなそれは、確実に私の心のどこかをとらえた。もう決して目はそらさない。私達は伝えられた。沖縄の人々から。沖縄の自然から。今度は私達が伝える番だ。これが私の修学旅行だ。忘れてはならない。

「生きる」ことの大切さ

二組 向井 里奈

「来た人から座っていけよ。」

守分先生のかけ声から、待ちに待った修学旅行が始まりました。悲しくも天気は曇り。飛行機は少し揺れていました。ちよつと残念と思っていました。が、やはりワクワクが勝ちました。

「あー今日はガマに行くんだー！」戦争の辛さを映画で観ていたので、少し足取りが重くなりました。このガマで沢山の人が亡くなり、いくつもの涙が流れました。そんな所に軽い気持ちで入れません。心は「ジーン」とする様でした。友達が死んでいくのを隣で見なければならぬ状況に遭遇した事が一度もないので、どれだけ悲しいか、どんなに苦しいか分かりませんでした。ただ理解しようとしなければいけな

修学旅行短歌コンクール

第一席

ひめゆりの笑みをなくした顔写真
胸を突き刺す戦の怖さ

四組 細川 典子

いのだと思いました。

今、中学生や高校生でひどいじめがあります。それで自殺する人がいます。本当に苦しくて苦しくて辛く思います。なかなか相談する人がいなくて、どうしたらいいのか分からない人もいます。しかし、自らの命を絶つというのは、本当にだめだと思います。戦争で生きたくても生きられなかった人。家族のほとんどが亡くなり、自分が助かっても嬉しくない人。友達が次々と死んでいく姿を、ただ見るだけで何もできなかった人。何が何だか分からずに、死んでゆく赤ちゃん。

その全ての人々が欲しかった命を、自らの手で絶つというのは、許せないなと思います。それと同時に、いじめが憎いです。いじめをする人が憎いです。いじめとは、世界で一番くだらないことだと思います。

今回の沖縄修学旅行。ただ楽しかっただけのものではなく、平和を考え、命の大切さを学んだと思います。そして、今の私達に何が出来るかという、今、生きていくことを嬉しく思うことだと思います。生きていく幸せを感じられたら、



いじめや自ら命を絶つような人はいなくなると思います。平和を学んだ私達の中で、いじめは起こらないと思います。亡くなった方々へ、今の日本を好きになつてもらえるよう、小さな心遣いを大切にしていきたいです。

「見えない真実を持つ沖縄」

三組 辻 怜菜

「地を見て下さい。二十五万人の血で染まったこの土も忘れず見て下さい。」那覇教会の林先生のおっしゃった言葉が私の胸にささった。私はうかれていた。ここは空も海も美しい沖縄。でも見えない真実が秘められていることを忘れていた。周りを見ても、六十八年前のあとかたは無い。しかし今でも、たくさんさんの遺骨が見つかるという。そう、ここは沖縄。唯一地上戦が行われた恐ろしい場所でもあるのだ。

心を入れ替えた後、私達はガマに入った。三十数個の光が行き来しているが、それでも一寸先は闇の中だった。奥に進むと、少し大きめの、電灯さえつけられなかった部屋があった。ここは動けない負傷兵たちの最後の場所だという。口を閉じ、三秒だけ懐中電灯を消した。真っ暗になった。近くにいるはずの、友達の姿も声もなく、一人取り残された気がした。心細くなって、涙が出そうになった。死にかけて、一番家族や戦友の顔が浮かぶ時にこんな部屋に閉じ込めなくても良

いの、と思った。死ぬ前にやりかけた事がたくさんあったはずなのに。水も飲みたかったろう。おにぎり一つでも食べたかったろう。ガマの外で新鮮な空気を吸い、太陽の光を浴びたかったろう。でもそれが許されずに、悲鳴とうなり声をあげ、愛する人の名をガマの天井にこだまさせながら亡くなったのだろう。ぐっと胸が締め付けられた。また、危険な重労働をさせられたひめゆりのみなさんも、全てのことにおびえて過ごす、ひどい人生を送ったのだろう。やはり私達は、幸せなのだと思った。小さな幸せは、決して当たり前ではない。戦争を終わらせたのは、天皇でも国内外の軍人でもない。それは、命。亡くなった多くの人を含める動物たちの命の上に、私達は生きている。アメリカ軍基地はまだあるけれど、今ある幸せを、幸せと感じ、平和を握りしめて生きていくべきだと、ガマの

第二席
最終日天気快晴むし暑い
のどはカラカラ財布カラカラ
心
五組 吉岡



中でそうささやかれた気がした。亡くなった命を無駄にしてはいけない。私達がこれからの日本を背負う世代。語り部さんがいなくなっても、戦争の恐ろしさを、むごたらしさを、伝えていかなければならないと、改めて強く思った。ガマだけでなく、美しい沖縄も体験することができた。透き通った海も見ることが出来た。しかし、沖縄には見えない真実がある。

「産んでくれてありがとう」

四組 山本 佳歩
私は、三泊四日の沖縄旅行で、たくさん思い出ができ、たくさん体験をした。たくさんのお話を学びました。

その中で特に心に残っている事は、ガマの中でのガイドさんの話でした。戦争によって、たくさんの人々が亡くなったアブリラガマ。その中に入った瞬間、ぞっとしました。映画でガマを見ていたとはいえど、本物は予想以上に不穏な雰囲気が立ちこめていました。

まず最初に目にしたのは、今に残る、当時使われていた容器の残骸でした。ぐちゃぐちゃになって、最初、どんな形をしていたのか分からなくなっていて、それらは戦争に使われた兵器の数々のすさまじい威力が目に見えて分かる物でした。その後、歩いて行く所どころに、「破傷風患者」、「重症患者」などと書かれた看板がたくさん立っていて、なぜだかすごく不気味でした。今思えばきっとそこでもだえ苦しんでいた人達のことを考えていたからだと思います。死にたくても死ねない生き地獄に立たされて、きつと



想像もつかないくらい、苦しかったんだと思います。

そして最後にガマの一番奥で、ガイドさんが、生還した人の話をしてくれました。その後、ガイドさんは私達に大切なことを教えてくれました。「自分を産んでくれた両親に感謝をしてください。そ

のためには、親孝行をしてください。そして帰ったらすぐに、皆さんにできる親孝行があります。何事もなく無事で、安全に帰る事です。帰ったらまず両親にこう言っておあげてください。産んでくれてありがとう。」この言葉を聞いて、改めて考えました。その通りだ、帰ったらまず親に、ありがとうと言おう。代わりもない尊い命を与えてくれたのは、他でもない親なんだ、と。そして、そうやって命を大切にするという事を後世に伝えられたら、きつと戦争はなくなるだろう、と思いました。

今、日本では、自殺とか殺人とか、そういう悲しい事が増えています。うらみ合い、ねたみ合い、そういう気持ち募り募って戦争が起きるんだと思います。それもきつと「ありがとう」という気持ちを忘れて、悪い事ばかり考えちゃうからだと思います。だから、平和な世界を作るためには、「ありがとう」という気持ちを忘れてはいけないんだと思いました。平和な世界を作るために、私はまず、自分のできる小さなことを見つけて、それを実行していこうと思います。ガイドさんが言った「産んでくれてありがとう」

第三席
修学旅行短歌コンクール
時を超え今なお残る守礼門
魅惑の紅と優美な姿
一組 山本 美那子

「本当の沖縄」

五組 岡野 敢太
修学旅行を終えて、自分が高校生になるという気持ちになったことと、本当の沖縄を感じる事ができたような気がします。

そんな修学旅行先、沖縄での現地見学と安里要江さんによる特別平和講演は事前学習をして戦争について思っていた以上に心が痛みました。三日間に及ぶ平和学習で、先生方や戦争を体験した安里さん達が何を僕たちに伝えたかったのか分かった気がしました。一日目に行った平和資料館のガラス板の下にあった不発弾を見た時、本当にここで戦争が行われていたんだと感じ、心が痛みました。当時、



使用していた品や戦没者の名前が刻まれた石碑を見学しました。その石碑の数が多すぎ、驚きと共に悲惨さを感じ、本当に涙が出そうになりました。また改めて、沖縄戦がどういったものだったかを感じさせられました。魂魄の塔では平和宣言

をしました。五組の平和宣言しか聞いていませんが各クラス、全ての平和宣言は大きく見ると世界中の願いだと思いう気がしました。

その後に行った糸数壕では当時の避難生活の姿がそのままあり、時間が止まっているようでした。懐中電灯を持って進みましたが、ライトを消すと真っ暗で大変だったことも分かりました。ガイドさんは必死というか丁寧に僕たちに伝えてくれました。「戦争のない世界を作ってほしい」「沖縄の事を下級生に話して忘れないでいて」ということでした。だから僕はその思いを大切にすると決めました。そして安里さんの講演は本当に戦争の恐ろしさを感じるお話でした。安里さんの周囲で一緒に行動していた家族が十一人も亡くなったと聞き驚きました。安里さんは雨のように降る爆弾や大変様と東シナ海の艦砲射撃の中を必死に

第三席
修学旅行短歌コンクール
沖縄の夕日が沈む美ら海に
沈まないのは俺らの笑顔
一組 平本 晋二郎

生き抜かれました。話したくない思い出を、僕たちに話して下さるのは、自分が体験したことを二度と繰り返してほしくない、戦争を体験してほしくない僕たちに伝えたくらいだと思います。

この四日間で色々な所へ行きましたが、今度は沖縄戦に関係のある所だけを見学するためにプライベートで行ってみたい

「伝える義務」

六組 阪本 結衣

私はこの沖縄修学旅行でたくさん学びました。私がまず学んだことの一つは「平和」です。戦争という悲惨なことが沖縄



した。平和の礎では、亡くなった方々みんなの名前が書いてあって、その人の数が多すぎて絶対に読み切れない程でした。魂魄の塔でたくさんのお墓みたいなものがあった、どちらも戦争の悲惨さを物語っていました。私は少し悲しくなりました。ガマでは真っ暗で、歩きづらくて、とても怖かったです。でも当時の人々にとっては、このガマこそ地上より安全だったのです。ライトを消して暗闇体験をした時、こんな所で生活するなんてありえないと思いました。この暗闇が人々を守ったのだ、本当に戦争というのは悲惨なんだと思いました。安里要江さんのお話を聞きました。本当に戦争というのが恐ろしく感じて、砲弾から逃げている話を聞くと涙が出てくるほど悲しいものでした。安里さんは最後に「戦争は絶対してはいけないし、でもこの事実をあなたたちが後輩に伝えていってほ

第二席
修学旅行短歌コンクール
シーサーを作ったけれどヘタクソで
できた置物近所の子猫
六組 廣井 馨

しい」と言っていました。私は、この事実を聞いて終わるだけでなく、安里さんの言う通り後輩に伝える義務があると思います。そしてこの事を一生忘れず、平和についてしっかりと考えなくてはなりません。平和とは口だけというのは簡単だけど、とても難しい事だと思いました。さらに私は、沖縄という地の良さを学びました。おきなわワールドではエイサーや植物園みたいなもので、沖縄の伝統的な文化などをたくさん学びました。鍾乳洞はとても綺麗で楽しかったです。首里城では、沖縄の歴史も知って、城の中では琉球文化も



知ることができ、結構貴重な体験でした。首里城自体が華やかで綺麗でした。美ら海水族館は館内がとても広くて珍しい生き物ばかりでした。特に有名なジンベイザメはとても大きいです。そして沖縄はなんといっても海です。やっぱり本当に綺麗で透き通っています。私は足ぐらいしかつかっていませんが、こらへんの海とはちがって本当に魅力的で、もう一回見たいと思います。

そして団体行動を送る厳しさを知りました。まだクラス替えしたばかりであり相手の事が分からないまま、旅行に行ったので、クラスメイトの色々な面が見えました。でもまだまだ皆の事を知らない事がたくさんあります。クラス目標とともに協力や団結をしてこれからの行事を頑張りたいと思います。

大佐山 中2 教育キャンプ



感謝

一組 塩谷 紀和

僕はこのキャンプは様々な人の支えがあったからこそとても楽しいキャンプになったと思います。

例えば、身近なところからだと、先生、大佐山キャンプ場の方、バスの運転手もつと言とうと僕たちが登山した大山。僕はこの大山から様々なことを学びました。大自然の厳しさ、この学年の集団として

の強さ、あとはたくさんの方の支えがあった。この大山に登れるということ。自然の厳しさとは僕は正直、内心では簡単に登れると思っていました。しかしそれは間違いで大きな声で友達と話していたのはほんの少しの間でした。そして少し頂上まで行けるのかなと思いましたが、でもそこで發揮されたのはこの学年の集団としての強さでした。多分、自分一人では大山を途中で諦めていたと思います。それは自分の周りの人が頑張っているのに自分だけ諦めるのはダメだと自分に言い聞かせながら登りました。でも僕は登っているときにふと思いました。それは誰がこの大山の頂上までのルートを考えてあの何段もある階段を作ったのだろうか。ましてやトラックが通れない山の上で材料はどうして持ってきたのだろうか。たった一回の登山だけでこんなに疲れるのに工事の方々は何倍、何十倍も大変なことをしてあの頂上までの設備を築きあげたのだなと思います、会ったこともない人だけで自分たちが今この大山に登れることに感謝の気持ちでいっぱいになり、工事の方々を考えると少し疲れがとれたような気がしました。

このキャンプで多くのことを学び、多くの人に助けられました。この三日間の晴れも二年という集団の強さと思い、そういう集団の中にあることを幸せに思います。でも自分はその集団の役に立っただろうか、全体の時間を狂わせたりしてしまいました。そこを課題としたいと思います。そしてこのキャンプはたくさんさんの野球部の人がいい仕事をしていただいたのに、自分は何もできなかったけど、いつかは野球部としてこの学年を引っ張っていいと思います。

お世話になったたくさんの方にお礼を言いたい。バスの運転手さん、キャンプ場の方々、大山ガイドの方、林先生、野外活動の先生方、そして何より、六



人の助手の方。たくさんの方の手で、このキャンプが充実したものになったと思います。本当にありがとうございます。学んだことを忘れずに、これからの学校生活に活かしたいと思います。本当にいい思い出になりました。

大佐山教育キャンプを終えて

二組 黒川 拓馬

朝、目が覚めてすぐに窓を開けた。晴れていてうれしかった。母に「三日間、お風呂に入れないからシャワーを浴びていったら？」と言われて、なるほどと思い、シャワーを浴びてすっきりとした気持ちで準備をした。

バスに乗って大佐山キャンプ場に到着くと、息をつく暇もなく開村式があり、お弁当を食べ、テント設置でした。夕食準備では、カレーの中にトマトを入れることになり、少し不安でしたが、食べてみると意外においしくてびっくりしました。やっぱり、みんなで作ってみんなが食べる、これこそキャンプの良いところだなあと改めて思いました。

二年生になってまださこちなかったク



ラスメイトともたくさん話せるようになり、うれしかったです。

キャンプファイヤーも楽しかったし、寝袋で寝られるか心配しながらも、ぐっすりとテントで眠れてよかったです。

いよいよ登山。ほくは一木一石運動の実行委員なので、つい見栄を張って石を十個も持って登ったので、重くてきつかったです。

上りでは、あまり気付きませんでした。下りでは石が落ちてくるのがよく分

かってこの活動の意味が理解できました。たくさんの方に一つでも石を持って登ってほしいと本当に思いました。

頂上に着くと、その眺めは素晴らしくて声にできませんでした。吹いてくる風が心地よくて、とても気持ちよかったです。

下山してから昼食まで、すぐバーベキューの用意にとりかかりました。食べたばかりで、食べられるのかなあと思いつながら、肉を焦がしたりして失敗しながらのバーベキューは、ものすごくおいしかったです。二日目の夜はさすがに疲れたのか、余りよく眠れませんでした。

三日目の野外活動では、第一希望のそば打ちができなくて、木工体験になり不満でしたが、副校長先生のキャンプの前日に言われた言葉を思い出し、全力で楽しむことができました。

帰りに副校長先生に言われた九十五点は自分では良くできていたと思っただけに残念でした。次の機会には必ず百点が取れるように頑張りたいと思います。

ものすごく疲れたけれど、とても心に残るキャンプでした。

教育キャンプから学んだこと

三組 若狭ひとみ

私は今回のキャンプが人生初でした。だから、今までに無い経験をすることが出来ました。その中で、心に残ったことが二つあります。それは、キャンプファイヤーと大山登山です。

キャンプファイヤーは、保育園の時にした以来でも懐かしく思えました。保育園より本格的でも迫力がありました。スタンツでは私のクラスの三組は、ゴールデンボンバーの「女々しくて」を踊りました。ダンスの練習時には、たくさん汗をかくほど頑張りました。だからその成果が出たのか本番ではうまく踊れた気がしました。人前で踊るのは、恥ずかしかっただけ楽しめたので良い思い出が出来ました。他のクラスのスタンツがおもしろく、とても盛り上がりました。スタンツが終わると、トーチサービスが行われました。トーチサービスはとても神圣だと聞き、一言も喋りませんでした。自分のトーチに火が灯ったとき、火のありがたみを感じました。みんなのトーチ



に火が灯り一斉に空高く上げた時、二百四の火が集まりとても感動しました。私はキャンプファイヤーに一生懸命に取り組んだことで、

友達ともっと仲良くなれたり、三組の思い出が増えて嬉しく思いました。

大山登山をして一番思ったことは、とてもえらかったということです。山に登る時、友達と一緒に歌を歌えたほど余裕があったのが、下山するときには歌う力がなくなるくらい、疲れていました。大山登山をした日の天気は快晴でも汗をかきました。頂上に着くと、涼しく、また絶景でした。とても澄み渡っていて、日本海が見えるほどでした。私は、達成感でいっぱいになりました。また、大山の頂上で友達と大きな声で叫びました。とても気持ち良かったです。もう少し

居たかった頂上を後にして、下山しているとき、足が棒のような感覚になりました。少しかかとを浮かせると、小刻みに足が震えていてびっくりしました。しかし私は、どんなに痛くてもリタイアはしたく無いと思っていたので、下山完了したときはとても嬉しかったです。おかげで、翌日から太ももが筋肉痛でも痛かったです。正直、もう大山に登りたくありません。しかし、この大山登山で自然の偉大さを学ぶことが出来たことに感謝したいです。

この三日間、本当にいろいろな事を学びました。その中で辛いことなどもあったけど、それを経験したことで、ひとつ成長できたと思います。どんないろいろなことを経験して、成長していきたいです。今回キャンプを楽しく学べたことが一番大切だと思いました。

三日間快晴のキャンプ

四組 菊池 果南

五月二十二日、六時十五分。携帯のアラームに起こされ、起床。窓からの光は昨日より強い気がした。リビングに行き、

天気予報を見るとやはり昨日よりも暑いと気象予報士が言っていた。顔を洗い寝ぼけた顔を起し、いつもとは違う服に着替えた。リュックを背負って駅に行った。金光学園の二年生の姿を見つけては、どんな服だろうと確認した。学校に着いたらバスが並んでいた。バスに荷物を入れて出発式をした。助手の先生も紹介されバスに乗り込んだ。バスの中はとてもおもしろかった。キャンプ場に到着して開村式をした。そして、自分が寝るテントの準備をした。私たちのところは、建ててあったので、他を手伝った。初めてのテントはすごく緊張と楽しみにあふれていた。

一日目のメインは、キャンプファイヤーだ。四組は一番最後で緊張した。どのクラスもおもしろく作られていた。それを見ている間、私たちは「大丈夫」「もう、なりきろ



う」「プライドは捨てよう」などと言っていた。皆でそうやって励まし合ったのは初めてでうれしかった。出番になり、思い切り踊り終わると、すごく達成感に満ちた。四組で良かったと思った。そして、初めての寝袋はとても寒かった。寒さで眠れなかった。そこで、家のふとんのありがたみに気づいた。

二日目は一日目と違って寒すぎて起きた。だが、寝ぼけた顔は一緒だった。この日は、大山だった。自分の足をたたき起こして、登山を始めた。思っていたよりも遠く感じられた。でも、少し体力がついたかな?と思う。

三日目、この日は野外活動だ。私は、そば打ちに友達と希望した。案外難しくて驚いた。そばはとても硬くて、そば職人の苦労が分かった気がした。自分で食べてみると、とてもおいしく感じた。そば打ちにしておかかった。

このキャンプで、学んだこと、それは自然というものを感じることはとてもよいことだということ。最近では、電気があり、すべてそれで片付けてしまうので、電気の大切さが分かった。このような体験も必要である。



最後に、私はすごい雨女だ。先生の中にも雨男がいると聞き、正直あせったが、今回は雨女の負けだ。うれしくもあり、悔しくもある。でも、いいキャンプになってよかった。

友達の大切さを感じたキャンプ

五組 宮崎 有沙

私は大佐山教育キャンプを終えて家に帰った。とてもさみしく悲しい気持ちになった。それほど、皆の存在が大きかった。



たのだろう。たしかに、たくさんの友達に支えられたり、一緒に楽しんだり、協力し合えた。そのような出来事が三つある。

一つ目は、一日目のキャンプファイヤーだ。エールマスターの人たち、他のクラスの人たち、おもしろい劇や楽しい出し物をしてくれた。いつしか周りは笑顔であふれていて、その光景を見ていて幸せになった。三部の二百四の炎が灯された時、この学年が一つになったように思えた。

二つ目は、二日目の大山登山だ。私は、大山をととても軽く見ていた。一合目くらいのところで、「これなら楽に登れそうじゃな」と余裕をこいていた。しばらく登っていくと、自分がバカバカしく思えてきた。頂上に近づくほど、足がとても疲れ、手も足も使って四足の状態に登った。本当に疲れて止まりかけようとした時、前にいた友達が手をさしのべてくれて、「大丈夫？もうすぐだ。一緒にがんばろう！」と言ってくれた。その瞬間、私は「よし、がんばって頂上に行くぞー」と思い、足を動かした。そして頂上まで行けた。今思えば、こんなにも

友達の存在が支えになって、いることを感じた。下りは何度もこけてしまった。その時もたくさんの友達が心配してくれて、痛みもすぐに飛んでいった。

三つ目は、



二日目の用具返納と星座観測だ。この時、用具返納が合格できている班が少なく、流れは全員で星座観測をした後、自由参加の観測で、一・二組、三・四組、五・六組の順番だった。私たちの班は、「五・六組になるまでに用具返納を合格させて、皆で見に行くぞ」と話していた。不合格だった金網と飯ごうを皆で洗った。無事合格をもらい、皆で走って場所に行った。土星は輝いていた。

友達の大切さを改めて感じるキャンプだった。これからも皆の存在を忘れずに、協力し合い、何事も乗り越えていきたい。

大佐山教育キャンプに行って

六組 三宅 悠希

五月二十二日から二十四日まで、私がとても楽しみにしていた二泊三日の「大佐山教育キャンプ」がありました。このキャンプを通して私は、大自然のもとでその厳しさと素晴らしさを体験し、規律ある共同生活で友情を深めていきたいと思いました。また、副校長先生のおっしゃっていた「ピンチはチャンス」や「文句を言わない」も頭の中に入れて頑張りました。

第一日目はとっても天気の良い日でした。キャンプ場に着くとすぐ、テントを班のみんなで作りました。それが終わるとカレー作りが始まりました。今まで一人で料理なんて滅多に作ったことのない私にとって、カレー作りは大変難しいものでした。でも、家で何度も練習し、できるようなまで頑張りました。おかげで良いカレーができました。その夜、キャンプファイヤーがありました。どのクラスのスタンツもそれぞれの組の個性が出ていて面白かったです。とてもよい会になりました。

第二日目

の登山の日も良い日でした。朝四時三〇分に起きました。眠たいなど関係なく、とても楽しみでした。上り始めてから一



時間経った頃には、少しずつ疲れが出てきました。でも、「もういやだ」とか「帰りたい」とか、頑張る気持ちの無くなる言葉は言わないように友達と頑張り、頂上まで登り切りました。頂上の景色はとてもきれいでした。天気が良いおかげで遠くの方まで山が見えました。副校長先生が「登山はチームプレー」と言った意味がやっと分かりました。もし、大山に私一人だけが登っていたとしても、最後まで登れないと思います。励まして登るからできるのだと思いました。その夜、待ちに待ったバーベキューです。疲れすぎていつもよりは食欲があり

ませんでした。他の班と仲良く食べました。私はその後にあつた用具返納が大変でした。なかなか合格できませんでした。でも、みんなですすめてこすって、黒いすがすがしくつかなくなるまで頑張りました。おかげで予定時間は過ぎましたが合格できました。

第三日目の野外活動では、私はそば打ちを体験しました。初めて作るそばは、とてもおいしかったです。食べ物の大切さを改めて学ぶことができました。そして、自分たちの作ったそばはとてもおいしかったです。

この大佐山教育キャンプを通して、集団生活の厳しさを学びました。一人が遅れると全体が遅れてしまいます。自分の勝手な判断は、したらいけないと思いました。あと、集合時間を厳守することも必要だと思いました。責任を持って活動をすることも必要だと思いました。

このキャンプは私たちにとってとても良い体験ができました。これからの生活につなげていくかは自分たち次第なので、みんなで協力して頑張って行こうと思います。

探究

授業報告



中三探究

○発想力育成実習 エッグドロップ
発想力を育成する実習として、エッグドロップを行いました。エッグドロップとは、紙で衝撃緩衝装置をつくり、中に卵をひとつ入れ、高いところからいかに割れずに落下させることができるかを競うものです。



たくさんの班が、独創性にあふれた装置を作り上げ、卵を衝撃から守ることに

成功しました。また、ユーモアあふれるプレゼンテーションが続き、笑い心地よい緊張感が交じり合った時間となりました。

高一探究Ⅰ

○プレゼミ

本格的なゼミを始めるにあたって、自分の興味ある分野に分かれ、研究につなげる準備を行います。分野ごとのテーマは、源氏物語の面白さ、外国語の文化、人生設計とお金、自分の住むまちの歴史、面積を測る、温



度計の作成、微生物です。調査方法を学び、自分で仮説を立てて実際に実験しています。また、失敗から学ぶことの大切さを実感しています。

○統一出張

六月二十日、興味ある分野を選んで、外部講師を招いての校内研修や、大学や植物園、日本銀行などに訪問してそれぞれの視野を広げました。数学ではハノイの塔についてデイスカッション形式で実習を行いました。また、日本銀行では日銀の役割や岡山県の経済状況を学び、一億円の重さを体験しました。



高二探究Ⅱ

文系は日本語・日本文学、英語・英文学、法律、歴史の四つのゼミ、理系は天文、物理、化学、生物、川、数学、情報

スポーツ科学の八つのゼミに分かれ、個人やグループで研究を開始しました。六月に中間発表を行い、今後は研究を進めつつ、論文や大判ポスターを作成します。授業担当の先生より、「生徒同士で議論できるように」「自分達で考え、説明を考えたり、計画を立てて行動するなど頑張りが見られる。」

○講演会（中三・高一・保護者）



五月九日に
K. I. T. 虎
ノ門大学院

三谷宏治先生
をお招きし
て、グループ
ワークを通し
て、「決める
力」と「伝え
る力」につい
て講演して頂
きました。自分
で決めること
の大切さや
決定方法のポ
イントなどを
学びました。

内容は、緊急状況下で提示された物品を持ち出す優先順位を決め、正解との誤差を得点化するというグループワークで

した。結果、個人で考えたことよりもグループで話し合った方が生き残る確率が上がったという意見が多数出ました。また決定方法のポイントとして、多くの決定事項のうち、まず決めなければならないことは、「大戦略」。その後、置かれた状況から「中目標を定めて、必要な物品を選択する」といった論理立てたもの考え方、「決めることは捨てること」と腹を据えて小さなことから決める訓練を積み重ねることの大切さも学びました。

○探究Ⅱ課題研究中間発表会（高一・高二）

高二文系は六月三日、高二理系は六月五日に大学の先生を助言者としてお迎えして三月以降の研究の報告会を行いました。高

一も両日参加し、ゼミ選びの参考にしました。生徒の感想より、「早口になってしまったので自分の言葉



対象者に研究の目的・効果・不利益などを説明し、同意したうえで研究を実施しなければならぬことが分かった、「たたくさんの後輩に自分のゼミを選んでほしい」

で丁寧に「伝える」ということをしたい」「的確なアドバイスを頂いたので参考にしていきたい」「高一の後輩の前で発表したのでもう一年がたったのかと思っただ」「実験



ある日のホームルーム



中学一年五組

今回は、四月十日の三・四限に、中学一年五組の学級開きの様子を取材させていただきました。まだ入学して二日目のこの日、各クラスで、お互いを知り、友達作りの場として、この学級開きは行われました。



まだ肌寒かったところで、五組の学級開きは小体育館の中で行われていました。そこでまず、最初に行われたのはストレッチ。クラス全員で輪になり、全体体の伸びをしたり、横に腕を伸ばして届くかどうか試してみたりすることで、体を温めながら和やかな雰囲気になってい



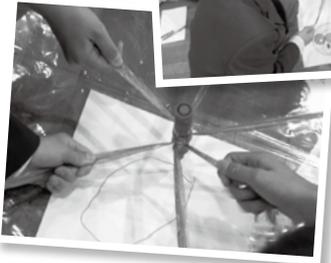
ました。ストレッチが終わって始まったのは「名前ビンゴ」。相手に名前を書いてもらい用紙を埋めていきます。この用紙は男女ともにお互いに聞き合わなければ埋まらない数となっていました。この名前ビンゴは、まだ話したことのない人や異性にも声をかけられるチャンスで必死にその用紙を埋めようと色々な人に声をかけていました。「書いて書いて！」と走り回る生徒がいる一方、なかなか用紙が埋まらずに固まってしまっている生徒もいました。全体的には、とても盛り上がりつつ楽しんでいるようでした。ただ、まだ名前と顔が一致せず、誰に書いても



に丸を付けていきま。それと同時に、呼ばれた人は、自己紹介用紙をみんなに見せながら、自己紹介をしていきました。またその裏で、実は班決めも密かに

行われていたのです。番号が呼ばれた順に座席を埋めていきます。つまりくじ順で班が決まっていたのです。名前ビンゴが終わり、担任から新しい班を告げられました。生徒はいつものように驚き、入学してすぐの班替えにわくわくしていました。まだ名前を覚えていないし、今日はじめて話したという人とも同じ班になり、改めて自己紹介。まずは班員から仲良くなっていくでしょう。

そして次に行われたのが、班別ゲーム



でした。一本のペンにひもを人数分つけ、みんなで引っ張りながら絵を描いていくというものでした。班員皆で協力をしながら、各班でアイデアを出し合いながら取り組んでいました。班長も決まってお、さっそく班長の仕事は、ペンを支えてみんなの紐の支持をすることでした。円を描くことも難しいゲームでしたが、その難しさが生徒たちにやる気と面白さを与えていたように思います。

初めのお題は、「アンパンマン」。始め

るときは、初めてのことでどうなるのかみんなわくわくそわそわしていました。仕上がりを見ると、生徒たちは自分たちで協力して書き上げた絵にとっても満足し、楽しそうにしていました。驚いたのは、各班で絵の描き方に特徴があることです。紐を長めにもってみんなひっぱりあっている班もあれば、紐を短めに持って書きやすく工夫している班もありました。また一人が短めに紐をもって絵をかき、他の班員は紐をしっかりとひっぱり支えるというような工夫をしている班も見られました。最後に最も難しいお題で「平川先生の顔」がだされましたが、それにも楽しんでわいわいしながらそれぞれの

工夫で絵を仕上げていっていました。

これからたくさんのが中学生生活で待ち受けている一年生ですが、個性を大事にし、また一人一人の工夫を生かしてこの日のようにクラス全員で協力して日々を送ってほしいと感じました。球技大会、体育会、ほつま祭、様々な行事がこれから控えています。一人一人が輝き、クラスで団結して活躍してくれることを楽しみにしていきたいと思っています。



中一音楽発表会

三月十五日(金)

ほつま体育館

『みんなの歌声届けまSHOW』

この音楽発表会は例年では2月中旬に行われるのですが、昨年度はインフルエンザの流行に伴う学級閉鎖のため、一ヶ月延期となりました。そのため、本来ならば記事も昨年度の3月号に掲載されるべきところがこの度の掲載となりました。なお、クラスは昨年度のもので

本番に強いクラスを実感!

一組 岡邊 一真

ほくが音楽発表会を終えて思ったことは四つあります。

まず一つ目は一組ははじめがつくようになったということ。男子は初め『道』に決まった時に『小さな恋の歌』が歌いたいと言っていたけど、練習するときには『道』を頑張って歌っていました。一学期の初めの頃は、授業などで



はじめがあまりついていまして、でも、今では以前に比べてとてもけじめがつかないように感じました。

次に、

二つ目は団結力がついたということです。みんなが歌が決まってきたから、音楽の授業の練習や放課後の練習の時にふざけている人がいたら、「はやくやろ」や「ちゃんやろ」と声をかけていました。注意をされた人

はすぐその注意を聞いたらなおしてちゃんとしていたので、それも良かったと思います。

その次に、三つ目は協調性がついたと思います。みんなで大きな声を出して協力して合唱をしていました。練習をいやという男子もいたけど、歌うときにはちゃんとみんなで伴奏を聞きながら声をそろえて歌っていました。

その次に、四つ目は本番に強いということ。ほくは正直本番はどうなるのかと不安でした。でも本番ではみんな大きな声でしっかりと歌っていたので本番にとても強いと思いました。

ほくは音楽発表会を行って様々な力がついたと思います。このついた力を中二でも活かせたらいいと思います。

本気で取り組む大切さ

二組 名村 理瑚

私たち一年にとって、この音楽発表会というものはどれだけ大切なものであつたか、忘れることはないだろう。このクラスで、この歌で歌えるのも最後。クラスで協力する、作り上げるのもこれで最

後。決して「後悔」はしたくなかった。そのために二組は学級併載になりながらも、一人は指揮の練習をしたり、ピアノの練習をしたり。それぞれ努力をして挑んだ発表会。入校時合宿が最初の協力をした行事。岡先生からくれた評価は今でも覚えている。男と女のパートがとつてもきれいなハーモニーになっているとのこと。二組は「栄光の架橋」という音程もリズムも難しい中、精一杯頑張った。

今の自分たちに合っている歌だなと思つた。私たちの歌声を聞いて「泣きそう」。そう言ってくれた友達がいた。本当にうれしかった。



本気で取り組む大切さが、改めて分かったよ。うな気がした。二組で歌えるのも最後。途中、嫌になった練習も面倒くさかった。

時期も忘れることができた。ある意味二組で学べたこともあった。けんかも、楽しいこともこの二組だからこそできたことなのだと思ふ。もう少し思い出を大切にできるといいなあと思つた。

「二組も最後か」。その一言で何故か、さみしくなってきた。オトシモノを私にしていたのだろうか。ともかく、残り二組で過ごせる時間を大切にしたい。

「負けたくない」という強い思いが生んだハーモニー

三組 山本 真由

三月十五日、ほつま体育館で音楽発表会があった。みんなで一つのハーモニーを練り広げていく。いきなり不安と心配におそれながらも、最後までクラスみんなで決めた「愛を込めて花束を」を一生懸命歌った。たぶんなぜか負けたくないという思いでいっぱいになったのだと思ふ。

私はコーラス部に入部しているの、一回、3組のコーラス三人で前に立つたことがある。その時は、声を出さなかつたり私語が多かつたり、自分でもどうす

放課後での練習や音楽の授業の時、だんだん一つのまとまりができたことがとてもうれしかった。私たちがたくさん練習している分、他のクラスも練習をしている。そのことを思いながら放課後の練習をした。

本番の日、やはりあの時の私に当てはまる言葉は「緊張」だと思ふ。しかし私は、他の人より前に立つて歌うということがよくあるので緊張がすぐにほじけた。

一組の



「道」、二組の「栄光の架橋」、三組の「愛を込めて花束を」、四組の「チェリー」、五組の「いつだって僕らは」、六組の「風になる」。どのクラスもとても練習していることがよく分かった。三組は「ハートフル賞」をいただいた。最後の参観日でもあったこの日、とてもよく終わることができた。これからも頑張っていきたい。

みんなの力で作り上げる 音楽発表会

四組 田中 雅夫

三月十五日に音楽発表会がありました。ぼくは中学になって初めてのことでした。ぼくたち四組は四番目に歌いました。四組は「チェリー」という歌を歌い、歌の途中で踊りをつけました。

今回の音楽発表会は一ヶ月くらい遅れてやりました。だから普通より多く練習をすることができました。練習ではみんな踊りをするときや並び方が分からなかったときがありました。しかも、踊りは本番の一日前に決まったので覚えるのが辛かったです。でも本番では、みんな

できていたので良かったと思います。ぼくが一番いいなと思ったクラスは五組です。理由は、歌のサビの時に踊りがとてもあっていいたし、踊っているときも歌を歌う声小さくなくても聞こえやすい見えていて楽しくなったからです。音楽発表会には関係ないけど、その音楽発表会ができるのは影の力があってこそあるとぼくは思いました。今回は、野球部が手伝ったけど今後また行事があるときには、影の力があってこそできると思うので、準備して下さった人に感謝していきたいです。



今回の音楽発表会はとてもよかったです。四組の明るい性格と「やればできる」ということを、あともう少しの日々の時間でもっとできるよ

う頑張っていきたいです。また、あともう少しの日々を楽しく過ごしたいです。

みんなの絆が一つになった

五組 山口 美可

一ヶ月遅れた音楽発表会になってしまったけど、私にとってはクラスのみんなや中一みんなの絆が一つになったのでよかったと思いました。その中で特に絆が一つになったと思ったところが二つあります。

一つ目は、クラス合唱の時です。みんなまで歌った「いつだって僕らは」は、とても元気な曲で、五組に本当にびったりな曲だと今でも思っています。しかし、いつも練習が良かったと言えない日もありました。練習している時に隣の人と話をしたり、自己中心的なことをしている人もいました。代表の人が指示をしているのに動かなかった自分も情けなかったと思います。しかし、それを毎回気をつけていくうちに、どんどん上手くなっていき、本番では成功し、副校長先生にパフォーマンス賞をもらったのでとてもうれしかったです。この時、絆が一つになっ



たと思いましたが、二つ目は、全体合唱です。『空も飛べるはず』『そのままの君で』を歌いました。学級閉鎖の関係で一ヶ月延びて、歌詞も忘れて覚え直すのが大変でした。しかし、予行練習では、女子の声がとてもきれいで支えられているみたいでした。本番でもうまくいき、先生に鳥肌を立てることができたのでうれしかったです。

このように、この一年間本当にいろいろなことがあったけど、成功したのはみんなの絆が一つになったからだと思います。これからずっと絆が必要になると思うので、一歩一歩頑張っていきたいです。

先生も一緒に作り上げた！

六組 赤城 圭佑

ぼくは、この音楽発表会を通して思ったことは、自分は一年六組で良かったなあと思いました。他の組が嫌なのではなく、六組が良すぎたと思います。それは、六組でいろいろなことを学び体験したからです。

六組で夏季球技大会で優勝したり、体育会では応援の部で優勝、ほつま祭では賞はもらえませんが、皆で大阪の日新のカップラーメン工場へ行ったりと、とても良いことばかりでした。

音楽発表会は、初めはとても面倒くさくて音楽の時間は友達としゃべったり歌を歌わずにいました。しかし、ある音楽の時間に岡先生が「面倒くさいならやらなくて良いけど、この音楽発表会がこの組で作上げる最後のものだよ」と言われてから、とてもやる気が出ました。ぼくはその後はしっかりと歌っていきました。そしたら、ぼくたちが歌っているのを見て、堤先生も一緒に歌うようになりました。堤先生はぼくたちと一緒に歌う

ために歌詞を印刷して配ったり、聞いて覚えたりということをして、この組で作る最後のものを堤先生も手伝ってくれていると思うと、とても嬉しかったです。

本番はいきなり横に堤先生が来てびっくりしたけど、みんなで心一つにして男子と女子の歌声を届けることができました。と思います。

この経験を生かして二年生の学園生活を過ごしていきたいと思います。



おふいすべが

「アキラさんとまこと君

ふたりのオーケストラ」

◆二〇一三年五月三十日(木) 於・ほつま体育館

今までの一番の「ふるさと」

中一 茅野亜衣子

五・六時間目にはほつま体育館で初めての芸術鑑賞がありました。初めてなのでとても楽しみでした。体育館に入って間もなく二人が登場され「テレビで見た人だ〜!!!」とびっくりしました。音楽の演奏が始まって、静かに聞きました。私が特に印象に残ったのは、四曲目の「あなたがたごさ」と七曲目(メドレー)の「岡野貞一の四季」という曲です。「あなたがたごさ」では、平原まことさんが、曲の途中におもしろいメロディを入れていて、それがとてもおもしろいので、とても印象に残っています。

「岡野貞一の四季」は私も小学校の時に歌った「ふるさと」を宮川さんがピアノで演奏されました。とてもきれいな音色で、今までに聞いた「ふるさと」の曲の中で一番いいなと思いました。「日本に生まれてきて良かったなあ」と改めて思われるほど、メドレーの五曲(春が来た・春の小川・朧月夜・もみじ・ふるさと)はよく四季が表れていました。私は、今まであまり音楽に興味がありませんでしたが、今日の演奏を聴いて「音楽はすごいなあ」と感じました。そして、演奏してくださった宮川さんと平原さんが、とても楽しそうに演奏されていたのを見て、音楽に興味をもつことができました。今日のこの体験を忘れずに、音楽



の学習もがんばっていきなさいです。

まことさんのようなサクソ奏者に

中二 岡邊 一真

まず僕が一番思ったことは、まことさんのサクソのすごさです。一息の中で音色を変えたり、アドリブソロでの堂々とした演奏はとても素晴らしいです。運指の早さやグリッサンドのなめらかさ、音量の大きさ、音量の変化の大きさ、舌つきの早さなどたくさんあります。見習うことがありました。自分の普段の演奏や練習と比べると、一番舌つきの早さに違いがありました。また、その他の面でも自分と



はかけ離れた技を持たれていて、自分もあんな風になりたいと思いました。曲では少し早めの、のれる曲やゆつくりと落ち着いた曲など、吹き方、弾き方をすぐに切り変えて一つの楽器で様々な音色を出されていたのでとても感動しました。自分の知っている曲、知らない曲があったけどその曲に引き込まれる感じが時間を忘れてしまいました。一部が終わった時にはもうこんなに時間がたったのかと思います、どれほど素晴らしい演奏か再確認できました。二部では自分の演奏しているアルトサクソが出てきたのでとても楽しみにになりました。実際にアルトサクソで演奏した曲は少なかつたのですが、その中にもたくさん学べるがありました。また、自分

はピアノを弾けないので弾けるようになりたいと思いました。個人的な事ですが、レッスンに来ていただきたいと思いました。今回のようなことはめったにないことだと思っているので、とても嬉しかったです。いつかまことさんのようなサクソ奏者になれるよう日々練習を頑張っています。

心地よい音色

中三 藤岡 祥之

今回の芸術鑑賞の「アキラさんとまこと君ふたりのオーケストラ」は、すごく面白かったです。二人だけの演奏でしたが、その演奏力はすごく、何十人もいるようでした。何曲か、アキラさんが少々コントをやっていたので、すごく面白かったです。アキラさんは僕が小さい頃見ていたNHK教育の『クインテット』で何度も見たことがあり、前から面白い人だと思っていて、実際見てもすごく面白くて良い人だと思いました。面白いだけなく、まことさんの演奏も、良い音色で感動しました。サクソを僕は初めて聞きましたが、まことさんが演奏して

いたせいか、音色が心地良く聞こえました。様々な曲を二人で演奏していて、本当にすごい人達だなと思いました。今回の芸術鑑賞は、非常に良かったです。今回の芸術鑑賞も期待しています。

風と音楽

高一 丸山 由莉子

私は今年度の芸術鑑賞が、あの誰もが知っているNHK教育テレビ「クインテット」の宮川彬良さんと平原綾香さんの父、平原まことさんと聞いてびっくりしました。他の人もきっとそうだと思います。

当日。それは夢のような時間でした。私は、初めて聴くサクソフォンの音色にとても感動しました。実を言うと、音楽鑑賞はあまり好きではないのですが、平原さんのサクソフォンは終わりがなく、滑らかに続いて、とても透き通った美しいものでした。宮川さんがおっしゃったように本当に「風のよう」でした。曲自体は全く知りませんでしたが、誰でも心が和らぐ、癒される曲だなと思いました。また、宮川さんの演奏も素晴

らしかったです。幼い頃に見た「クインテット」を弾かれた時は、周りが歓声を上げて楽しかったです。生であの楽しいピアノが聴けるなんて思いもしなかったので幸せでした。「マツケンサンバII」の作曲もされていたとは知らなかったのですね、それも生で聴けて嬉しかったです。そして、「あんたがたどこさ」の隠された意味を知り、日本古謡も奥が深く、広いものだと思います。宮川さんのピアノを弾きながらのジェスチャーもとてもわかりやすくみんなを楽しませてくれました。ただの日本に古くからある曲なのに、演奏する人によってこんなに印象が変わると思いますでした。二人の演奏は私たちが二度と聴くことができないかもしれない貴重なものでした。

期待を上回るオーケストラ

高二 佐藤 敬太

私は昨日初めて芸術鑑賞があると知り、正直あまり期待していませんでした。しかし、良い意味で見事に期待を裏切られました。



ました。

童謡をジャズ調にアレンジされていたり、笑いを取り入れていたり、聞いていてまったく飽きることがありませんでした。今までの厳格なイメージだったオーケストラという分野が、ふたりのオーケストラのおかげで馴染みやすく、それについて奥深いものになったような気がしました。

今日は本当に、貴重な体験をさせてもらえたことを光栄に思いました。

「胸を打つ演奏」

高三 佐藤 宏

平原さんのサクソスは、言葉では表現できないような心に伝わってくるものがありました。一つ一つの音の芯がしっかりとっていて太い音であったし、抑揚があり、抑えるところでは音がとても繊細でしたが、それでもやはり力強いという一見矛盾するようなことが平原さんのサクソスにはありました。要所で混ぜてくるビブラートは、アマチュアではとてもじゃないが出せないようなきめ細やかな振動で自分の耳を夢中にさせました。こんな素晴らしいサクソスを聴ける機会は滅多にないので、今日は自分にとって、とてもプラスになる体験となりました。



高三人権講演 「私の歩んだ道」

岡山言学校 竹内 昌彦先生

当たり前という幸せ



一組女子

竹内先生の話聞いて、改めて親の大切さを感じました。私の親は竹内先生の話でいうと『いい親』だと思います。気づいた時にはそばにいて支えてくれていました。でも、それは当たり前前のことではなく、私はとても恵まれているんだというところに先生の話で気づかされました。細かいところまで話を聞いてきたり、うっとうしいと感じることもあるけれど、それも全部私を思っているからなんだなと思いました。これから勉強を頑張るって大学に行き、人々を助けられる『いい知識』を身に付けることで、大好

きな両親に恩返しをしたいと思います。今日は素敵な講演をありがとうございました。

感謝の気持ち

五組男子

今回、この講演を聞いて自分に足りないもの、今何ができるかを考えさせられました。分かったことは、すべての人に感謝の気持ちを忘れないこと、そして、困っている人の味方になることでした。竹内先生の講演は、自分の中に響きまわして、もう受験生なので、塾や学校に通わしてくれている親に感謝し、また学校の先生にも感謝をしたいと思います。悔いのないように頑張りたいと思います。

竹内先生のお話を聞いて

四組女子

二時間という時間がとても早く感じました。思わず涙が出ました。今の自分を竹内先生の話にあてはめてみました。自分はとても幸せだなと感じ、また、もし自分の目が見えなかったらこんなにも前向きにはなれないだろうなと思いました。いつも笑っている人にも、どんなに憧れ

自分だけの人生ではなく・・・

六組男子

今日の人権講演を聞いて、いろいろな衝撃を受けました。目が見えないことはとても不便だと思っていたし、正直不幸だなと思っていました。でも、その人はその人で幸せなことをたくさん見つけているんだなと思いました。辛いことも沢山経験しているのに、あんなに幸せだと見える人は、あまりいないと思いました。それもメンタル面で強くなりたいたいと思いました。自分だけの人生ではなく、人のために少しでも使える人生を送りたいです。



生徒会活動

《高校生徒会》

4月20日(土)、生徒会役員選挙が行われ、生徒会長に二年四組の田中敦望くんが、副会長に二年六組の萩谷昇平くん、一年一組の木下豪くんがそれぞれ承認された。4月23日(火)には、晴天の下、高校三年生、二年生の春季球技大会が開催された。ソフトボール、ドッジボール、フットサル、テニスボールの4種目でそれぞれ熱戦が繰り広げられ、三年三組・四組・六組(同率)、二年三組が総合優勝を果たした。4月27日(土)、中高三役事務局合同交流会を実施した。中高の枠を越え、生徒会活動の中心を担う執行部として親睦を深めつつ、公約の実現に向けて議論を行った。

5月24日(金)、第一回生徒会総会が行われた。今年度の基本方針や予算について審議され、すべて原案通りに承認された。運営は円滑に進み、舞台で発言し

た執行部、各種専門委員長、学年代表者会議議長らはいずれも堂々とした態度で発表を行った。その他、9月に開催されるほつま祭や体育会に向けて、各クラス、実行委員会等で準備が始まっている。

《中学生徒会》

四月十七日に新入生歓迎会をほつま体育館で開催した。一年生は新入生あいさつと呼びかけて元気に入学後の決意を示した。二年は「空も飛べるはず」を元氣いっぱい歌い、一年生にエールを送った。三年は「大きなカブ」をもとにした劇で学園生活を紹介し歓迎、最後に「涙そうそう」を歌った。恒例の部活動紹介では各部の工夫を凝らした勧誘に一年生は楽しみながら関心を寄せていた。

四月三十日と五月二日の一日入部では、一年生は各部を回り、多くの者が入部し、元気に活動している。五月は委員会活動や部活動委員会が始動し、今年度の活動方針や予算を作成した。事務局では総会に向けてクラス討議資料を作成し、評議員会に提出した。各クラスで活発な討議が行われ、それを基に各種委員会で論議された。また、ほつま祭や体育

会の実行委員会が発足された。六月四日には生徒会総会が開かれた。今年のスローガンは「Do your best」一人一人が創る学園」は「ほつま祭や体育会などの大きな行事はもちろん、普段の生活においても、何事も一生懸命に頑張ることが大切である。勉強や部活動も一生懸命がんばる。そうすれば必ず努力は報われ、自分の力になり、金光学園中学校の輝く未来を創り上げていくことができる。それぞれがベストを尽くして、みんなで協力して輝ける学園をつくらう」という願いを込めていると会長の陳君から説明され、基本方針と共に承認された。今年度の活動計画・予算・運営など評議員や事務局の動きは頼もしかった。

委員会でも積極的な活動を始めた。評議員会では障害者の福祉活動へ支援のため「愛の募金」に取り組み、総額六万九千円余りが集まった。保健委員会は健康観察簿の取り組みやヒマワリの種植えとそのため草抜き、生活委員会では服装指導とあいさつ運動に取り組み、図書委員会では本の紹介の通信発行や読書の呼びかけなどを行った。学習委員会では全校漢字テストの第一回を六月三日

に(第二回は六月十七日に実施予定)実施した。その結果、第一回の第一位は一年二組であった。

《部活動》

中・高新聞部 中学一年生三名の新入部員を迎え、計七名で今年度をスタートした。五月に新任教員の紹介新聞を、六月に教育実習生の紹介新聞を発行した。

天文気象部 中学一年生三名の新入部員を迎え、今年度の活動をスタートした。四月、地域の小学生を対象に四月観望会を行い、その中でスペクトルの観察など分光器の作成実習を行った。また、天文台では、太陽の観測なども行った。五月、夜間観測を行い、月や惑星の観測・撮影を行った。六月の夜間観測は、雨天のため中止になった。

日常的には、昼間の太陽観測や三月に美星で撮影したM67のデータ解析を進めて、日々活動をしてきた。

生物部 中学一年生・高校一年生の新入部員を迎え、川や山に生物の採集により活気がでてきた。ほつま祭で何を展示するかについて話し合った。今年各学年で展示内容を変える予定。それぞれ採集

活動をしたり、種芋・アサガオの種を植えたり、コケの研究をすすめたり、生物の飼育をしたりしている。

電気科学部 新入部員を迎え、九月の「仁科ロボコン」に向けてロボットの設計・作製に入ろうとしている。また、ほつま祭での展示、中学生は十一月に行われる「創造アイデアロボットコンテスト」への参加もあり、忙しくなる二学期に向けて準備を始めた。

美術部 四月に新入部員を迎え、現在はほつま祭の展示に向けて活動している。「動」をテーマに四つのグループに分かれ、みんなで作品を仕上げていく。個人の作品にも取り組んでいる。

高校は六月一日に倉敷芸術科学大学で高校生美術コンクールが開催され、学園からは九名の生徒が参加した。結果は、静物デッサンで一年水川みらい・二年藤田莉緒が金賞、三年川之上佳里が銀賞。また、キャラクター部門で一年廣江典子・二年高木菜穂が銀賞を受賞した。

中・高書道部 中・高で現在十九名の部員が活動している。成田山競書大会では中高あわせて2名が特選、6作品が秀作という好結果。今後も大会があるので部

員一同精進していきたい。

茶道部 今年も、十数名の中一新入部員が加わり、多くの仲間が増えた。昨年同様、みんな熱心に碧水庵にて部活動に励んでいる。これからいろんな茶会に参加していきたい。

音楽部吹奏楽団 四月八日に行われた入学式では「ヨークシャーバラード」「G線上のアリア」「ファンファーレ・マーチ&セレブレーション」を演奏した。中学生は、新入生歓迎会で部活動紹介として「I can't turn you loose」を演奏した。四月十四日、金光公民館で「たんぽぽまつり」が開催され、「野に咲く花のように」「Sir Duke」「愛をありがとう」を演奏した。また、金光中学校との合同で「オーメンズ・オブ・ラブ」を演奏した。四月二十七日に開かれたやつなみ保護者会では、「My heart will go on」「Sir Duke」を演奏し、同日午後からは、「楽寿祭」にて演奏をさせていただいた。五月五日には、里庄総合文化ホールフロイデにて「スプリングコンサート2013」を開催し、このコンサートをもって現高校三年生が引退した。以降、高校二年生以下、七十一名で活動をスタートさせることと

なった。六月二日「吹奏楽祭」が倉敷市民会館にて開催され、「Make her mine」「岡山県高等学校吹奏楽連盟の歌」を演奏した。六月八日、金光教本部にて「金光ミュージックフェスタ」に参加、「ワイルドアットハート」「それでも生きてゆく(合唱)」「Make her mine」「SORAN」を演奏。翌日九日、金光教独立記念祭に参加し、「今月今日で一心に頼め」「神人の栄光」「SORAN」を演奏。六月一六日、里庄総合文化ホールフロイデにて行われた「浅口音楽フェスティバル」に参加し、「ワイルドアットハート」「それでも生きてゆく(合唱)」「Make her mine」を演奏した。八月二十一日に里庄総合文化ホールフロイデにて、九月一日にふくやま芸術文化ホールリーデンドローズにて、第四十一回定期演奏会を開催予定。

音楽部コーラス 三月一日(金)に高校卒業式の第二部に出演した。卒業する高三の部員とともに「Hey!和」を歌った。共に歌える最後のステージでもあり、とても感動的な合唱となった。

三月二十七日(水)～二十八日(木)にかけ、京都府城陽市で春合宿を行った。初日は作曲家で合唱指導もされている北

川昇氏に、ご本人作曲の曲を中心に指導をしてもらった。夕方から交流校でもある、西城陽高等学校合唱部の定期演奏会に行き、大きな刺激を受けた。二日目は声楽家の今井順子氏に発声面から曲の指導を丁寧にしていただいた。わずかな時間であったが、学ぶことの多い、充実した合宿となった。

四月十四日(日)に浅口市民会館金光でたんぼぼまつりが開かれ、ステージ演奏に参加した。春休み明けで練習期間が短かったが、多くの曲をじっくりと歌うことができた。

【曲目】「フニクリフニクラ」「サボテンの花」「歩く」「Diamonds」「ふるさと」五月一日(水)のお昼休憩に、中学音楽室で新入生歓迎のミニコンサートを行った。様々な学年が応援も含め来てくれて、いい発表会となった。ちなみに六月一日現在、新入部員は中一が八人、中二が二人、高一が二人、高三が一人と各学年にまたがっているものの、多彩なメンバーが集まり、今後が楽しみである。

六月一日(土)の午後から保護者向けの練習見学会と保護者会を行い、四十名以上の方が参加された。サマーコンサート

トに向けて主に説明をし、活気のある会となった。

六月八日(土)に高梁総合文化会館で岡山県高等学校合唱祭が開催された。午前中は合唱講習会で、岡山城東高等学校の森野啓司先生によって「スピッツメドレー」の練習が行われた。午後から合唱祭が始まり、参加十四校それぞれが個性を光らせるとても良い合唱祭となった。また中一の初ステージでもあったが、みんな笑顔で一生涯懸命に歌うことができた。

【曲目】「歩く」「Spring of life」合唱曲「スピッツメドレー」全体合唱「大地讃頌」

英語部 部員は現在、高校二年生8名男子3名、女子5名)。活動形態は週1回の個人練習。15分～20分のレッスンの中で、英語の自然な音声やイントネーション、強勢やリズムを習得できるようにそれぞれが頑張っている。

写真部 ほつまつ祭に向け各自作品を撮っている。

中放送部 中学一年生二名を加え現在、八名で活動している。新入生歓迎会・生徒会総会・夏季球技大会では音響・司会

を行った。また、六月十五日(土)に岡山市立中央公民館で行われた、第三十回NHK杯全国中学校放送コンテスト岡山県予選会に、中一山名有菜・岡本圭織が朗読部門に出場し、中二植田七菜子・横山美希がアナウンス部門に出場した。

高放送部 高校一年生を加え現在、十名で活動している。四月十四日(日)、市民会館金光にて第十六回たんぼぼまつりに司会・音響係として参加した。六月には第五十回岡山県高等学校放送コンテスト兼第六十回NHK杯全国高校放送コンテスト岡山県予選の決勝大会が就実高校で開催された。アナウンス部門に高三吉澤あさひと高二平松佳乃子が朗読部門に高三樋上愛美と高二田辺恭子が参加した。田辺は惜しくも次点だった。

囲碁将棋部 五月六日、山陽新聞社(岡山市)で行われた高等学校将棋県大会男子個人戦Aブロックにおいて、高二、羽仁豊くんが玉島高校三年原田健史くんに勝って見事に優勝を飾った。羽仁くんは七月三十一日から八月一日に長崎県で開催される全国総合文化祭に出場する予定。

科学部 新入生5名を迎え、7月の川教

室の準備や夏合宿の計画、地元小学生に向けての科学実験など、日々実験のスキルのアップを目指して活動中。

軽音楽部 部員は現在24名。活動形態は週1回各バンドで練習している。今年度のほつまつ祭に向け積極的に頑張っている。

文芸部 新入部員7名を迎え、総勢15名で今年度の活動をスタート。まずは習作集「初夏」を作成し、部員同士で互いの作品に対する批評を行った。今年度は水曜日を活動日とし、様々な企画を考えた。これまでにはないほど活発に活動している。ほつまつ祭で販売する文芸誌「楳柵火」に乞うご期待。

ダンス部 平成二十五年度岡山県高等学校総合文化祭ダンス発表会が、六月二十二日倉敷市民会館で開催された。本校から高校二年生四名が「百華涼蘭」のように華やかに涼しげに」というタイトルで、リズム系のダンス作品を発表した。

中・高陸上競技部 岡山県中学校陸上競技選手権大会

中三眞田剛寛が男子400mで優勝・200mで3位に入賞した。

*400mで全国大会の参加標準記録を突破し、8月末に瑞穂陸上競技場(愛知)で行われる全国中学校陸上競技大会に参加が決定した。

高校陸上競技部 岡山県高校総体高三加藤佳祐が男子ハンマー投げで3位、高二原真奈美が400mハードルで優勝・400mで4位、高一清水沙紀が5000m競歩で6位、大久保咲紀が400m・400mハードルで共に7位に入賞した。

加藤佳祐と徳原真奈美が中国大会(6月21日～23日岡山)に出場。

ラグビー部 4月に行われた第56回中国高等学校ラグビーフットボール大会岡山県予選会で1回戦を岡山工業に36対0で勝ち、準決勝で玉島高校に7対43で敗れたが、3位決定戦で関西高校に24対17で勝ち、県予選3位で40年ぶりの中国大会出場を決めた。

5月3、4日には美作で強化練習会に参加。チーム力をさらに高めて11日、12日の中国大会に挑んだ。山口県で行われた中国大会はCブロックに参加、11日は広島県代表の美鈴が丘高校に12対44で敗れ、翌日の3位決定戦にまわり、12日

は鳥取県代表の米子合同に22対19で勝利し、中国大会で1勝することができた。

6月1、2日には岡山県総合体育大会Aブロックに参加し、1回戦は倉敷工業に7対41、3位決定戦は関西高校に10対29で敗れ、Aブロック4位の結果となった。翌週の7人制大会では、1回戦は朝日高校に40対7、2回戦を岡山工業に34対7で勝ちましたが、準決勝は倉敷工業に5対26、3位決定戦は関西高校に17対22で敗れ、15人制同様、4位に終わった。

この県総体を最後として3年生(男子10人、女子2人)は部活動を引退し、受験体制に入ります。今後は新チーム(男子17人、女子4人)での新たなスタートとなる。

中ソフトテニス部 中学男子ソフトテニス部は、3年生21名、2年生10名、1年生17名の総勢48名で新年度のスタートを切った。「先手必勝」をモットーに、県大会での勝利を目指して活動している。5月3日(金)井原中学生招待ソフトテニス大会に4ペアが出場し、三宅・石原、浅野・岡野ペアが二回戦敗退、土屋・桑田、黒川・竹内ペアがベスト16であった。6月8日(土)の備西支部ソフトテニス

研修会に4ペアが出場し、浅野・岡野ペアが初戦敗退、三宅・石原、池元・竹内ペアがベスト16、土屋・桑田がベスト4に入り、地区大会団体戦の第二シードを獲得した。今後も日々精進し、心身を鍛えていきたい。

高男子ソフトテニス部 4月20日(土)21日(日)、春季高等学校ソフトテニス選手権大会が水島緑地福田公園テニスコートでおこなわれた。出場した3ペアのうち、塚岡・福武組は初戦を勝ち進んだが2回戦で敗退した。

5月3日(金祝)には全日本・中国高等学校ソフトテニス選手権大会の備西地区予選会(個人)が井原市営テニスコートでおこなわれた。竹内・小野組が準優勝を飾ったのに続いて、村山・安原組が第5位、服部・藤井聖組が第8位、塚岡・福武組はベスト12となり、備西地区では二番目に多い4ペアが県予選会への出場権を獲得した。5月6日(月祝)には同じく井原市営テニスコートにて備西地区高等学校対抗ソフトテニス大会がおこなわれた。各校のAチームが出場する1部トーナメントでは2回戦で矢掛高校に3対0で勝利し、準決勝では笠岡商業高校

を3対0で破って玉島高校との決勝に臨んだが、0対3で敗れて準優勝となった。各校Bチームが出場した2部トーナメントでは第3位、また各校のCチーム以下が出場する3部トーナメントでも第3位という結果に終わった。

そして6月1日(土)2日(日)、全日本・中国高等学校ソフトテニス選手権大会の岡山県予選会(団体)が水島緑地福田公園テニスコートでおこなわれた。1回戦は岡山工業高校に2対1で勝利、2回戦は瀬戸南高校に3対0で勝利し、ベスト8をかけて岡山芳泉高校と対戦したが、0対3で敗れてベスト16で大会を終えた。続いて8日(土)に浦安総合公園テニスコートでおこなわれた同大会の岡山県予選会(個人)には4ペアが出場し、そのうち塚岡・福武組と竹内・小野組は1回戦を突破したが、2回戦で敗退した。この大会で3年生は引退となるため、これからは新チームで中国大会出場を目指し、夏の間に技術を向上させて心身ともに強さを身につけ、秋の大会に臨んでいきたい。

高女子ソフトテニス部 4月20日(土)に行われた岡山県春季高等学校ソフトテ

ニス大会では、3ペア出場したが、いずれも初戦敗退した。5月3日(金)に行われた全日本・中国高等学校ソフトテニス選手権大会個人戦の地区予選会では、藤井・尾藤ペアは初戦突破し、二回戦目は敗れたが、敗者復活戦で勝利し、地区でベスト12位になることができた。同時に、県大会の出場権を獲得することができた。5月6日(月)に行われた備西地区高等学校対抗ソフトテニス大会団体戦では、初戦笠岡高校に勝利したが、二回戦目に玉島高校に敗れ、一部トーナメントベスト4になった。6月1日(土)に行われた団体戦岡山県予選会では、初戦敗退した。個人戦では、一回戦目は、津山高校と当たったが、勝利した。二回戦目は、玉島高校と当たり、残念ながら敗れてしまった。

中卓球部 3月17日に岡山県団体総合卓球選手権大会に出場した。女子団体予選リーグで大森クラブに2-3、玉野光南高に3-1、笠岡高に3-1、山陽女子高Aに0-3となり、3位トーナメント準決勝でしらゝくに2-3で敗れた。

3月20日に笠岡市卓球選手権大会(団体の部)に参加した。男子団体予選リ

グで木之子C3-0で勝ち、連島南Aに1-3で敗れて予選敗退した。女子団体はオープン参加で新田Bと玉島西と対戦した。4月7日にチェリーカップに参加した。中学男子団体では予選リーグで操山Cに2-0で勝ち、河北Aに0-2で敗れ、決勝トーナメントで金光ジュニアクラブに0-2で敗れた。中学女子団体では予選リーグで瀬戸内スポ少Bに2-1で勝ち、関西ジュニアに2-0で勝ち、決勝トーナメントで社スポ少に2-0で勝ち、社クラブに0-2で敗れたがベスト8に入った。

4月14日に笠岡市卓球選手権大会(個人の部)に参加した。男子個人では唐川(L2)がベスト64に入った。女子個人では内山(L2)がベスト8、西岡(L2)がベスト32、難波もなみ(L3)と難波楓(L3)と中務(L2)と藤澤(L2)がベスト64に入った。

4月29日に福山市オープン卓球選手権大会に出場した。男子個人では1位トーナメントで石井(L2)と唐川がベスト32に入った。女子個人では1位トーナメントで難波楓と内山がベスト8、西岡と中

務がベスト16、難波もなみがベスト32に入った。3位トーナメントで東(L2)が優勝した。

5月3、4日に近府県卓球選手権大会に参加した。男子団体では予選リーグで鳥取県選抜に0-3で負け、旭東に3-2で勝ち、2位トーナメント1回戦でD・ドウリームに0-3で敗れた。女子団体では予選リーグで西大寺に3-1で勝ち、岩岡(兵庫)に0-3で敗れ、2位トーナメント1回戦で平田仲良しくラブに2-3で敗れた。男子個人では奥村(L3)が3回戦に進出した。女子個人では内山がベスト32(5回戦進出)に入り、難波もなみと西岡が3回戦に進出した。

6月8、9日に備西支部合同練習会に出場した。男子団体では決勝で金光に2-1で敗れ、準優勝であった。女子団体では決勝で鴨方に3-0で勝ち、優勝した。男子個人ではベスト4に奥村と唐川、ベスト8に榊原(L3)、ベスト16に石井が入った。女子個人では内山が優勝、西岡が準優勝、工藤と難波もなみがベスト4、中務と東と藤澤がベスト8、難波楓がベスト16に入った。

高卓球部 3月17日に岡山県団体総合卓

球選手権大会に出場した。男子団体予選リーグで教友会に1-3、OKTに2-3、ねや卓球クラブに1-3となり、続く4位トーナメントで灘崎中に3-2、大森クラブに3-0、ホープス選抜に3-1、ユースリゲインに3-2で勝ち、優勝した。

3月20日に笠岡市卓球選手権大会(団体の部)に参加した。男子団体予選リーグで金光学園Aは井原Bに3-0、岡山東商Aに3-1で勝ち、予選1位。金光学園Bは岡山東商Dに3-0で勝ち、OKTBに2-3で敗れ、予選2位。金光学園Cは笠岡商Aに3-1で勝ち、倉敷天城Aに0-3で敗れ、予選2位。金光学園Dはオープン参加であった。続く決勝トーナメント1回戦で金光学園Aは教友会に1-3で敗れた。

3月24日(26日)に全国高校選抜卓球大会(北海道札幌市)に西岡(U2)が岡山県代表で出場した。男子シングルス予選リーグで、滝川(北海道)に2-3で敗れ、京都学園(京都)に2-3で敗れ、佐賀商業(佐賀)に3-2で勝ち、予選3位であった。

4月7日にチェリィカップに参加し

団体では1回戦で松江商業(鳥根)に1-3で敗れた。男子ダブルスでは西岡・藤澤組が1回戦で広島商業(広島)に2-3で敗れた。男子シングルスでは西岡が1回戦で鳥取敬愛(鳥取)に3-2で勝ち、2回戦で野田学園(山口)に0-3で敗れた。

中野球部 4月29日から5月4日にかけて矢掛球場やどんぐり球場などで行われた笠岡東ライオンズクラブ杯に初出場しました。二回戦、井原中学校に3対0で勝利し、三回戦、金浦中学校に7対0の5回コールドで勝利した。準決勝、笠岡東中学校を3対2の逆転サヨナラで勝利し、決勝は木之子中学校を3対0で下した。大会の最優秀選手賞を、井原中学校並びに木之子中学校相手にノーヒットノーランを達成した三年四組の宮崎光くんが獲得した。また、6月8日・9日に行われたシード決め大会では、二回戦、美星中学校を13対0の5回コールドで下したが、シード獲得をかけた試合で里庄中学校に1対1。特別延長の末0対1で敗れた。現在、チームの課題をしっかりと見据え、個々にさらにレベルアップをし、部員62人全員で夏の総体を戦う。目

た。男子団体では金光学園Aは予選リーグで倉敷青陵Cに3-0で勝ち、鳥取敬愛Cに3-1で勝ち、決勝トーナメントで倉敷天城Bに3-1で勝ち、興譲館に3-1で勝ち、準決勝で鳥取敬愛Aに0-3で敗れたが3位に入賞した。金光学園Bは予選リーグで笠岡高に3-0で勝ち、倉敷天城Cに3-0で勝ち、鳥取敬愛Aに0-3で敗れ、決勝トーナメントで倉敷天城Aに0-3で敗れた。金光学園Cは予選リーグで原田卓球に0-3で敗れ、倉敷天城Aに0-3で敗れた。女子団体では予選リーグで倉敷青陵Aに1-3で敗れ、鳥取敬愛Cに2-3で敗れた。

4月14日に笠岡市卓球選手権大会(個人の部)に参加した。一般男子個人で西岡がベスト8に入った。一般女子個人で遠藤(U2)がベスト32に入った。

4月28日に近府県卓球選手権大会(一般の部)に出場し、男子個人で西岡が3回戦に進出した。

5月5、6日に全国中国高校卓球選手権大会岡山県予選会に出場した。男子ダブルスで西岡・藤澤(U2)組がベスト8に入り、中国大会出場を決めた。中原

標は、まずは4年ぶりの県大会出場。さらには、中国大会・全国大会を目指して活動している。

高野球部 3月30日から始まった春季県大会西部地区予選において、初戦の玉野商業に10対0、二戦目の高梁日新戦も4対1、三戦目の玉野高校戦も3対1で勝利し、県大会出場を決めた。迎えた県大会は、一回戦で岡山芳泉に5対1で敗れてしまい、夏の大会のシード権を獲得することができなかった。第95回全国高等学校野球選手権岡山大会は7月13日より開幕。

中サッカー部 夏の県大会に向けて、3年生を中心に毎日頑張って練習している。新入部員一年生を迎え、43名の部員で県大会出場を目標に努力をしている。

4月13日練習試合。対福山市立立中学校1-3負け、対福山市立立中学校1-1引き分け。4月29日練習試合。対連島中学校1-0勝利、対連島南中学校0-2負け。5月3日・4日倉敷招待サッカー大会。対多津美中学校3-1勝利。対高松中学校3-0勝利、対高陽中学校1-1引き分け、対玉島東中学校3-1勝利、対竜操中学校1-2負け、対牛窓中学

(U3)・井上全峰(U2)組がベスト16に入った。男子シングルスでは西岡がベスト16に入り、中国大会出場を決めた。藤澤がベスト32、井上全悠(U3)と平岡(U2)と中嶋(U1)がベスト64に入った。女子シングルスでは小見山(U1)がベスト64に入った。

6月1、2日に岡山県高校総体に出場した。男子団体は1回戦で玉野に3-0で勝ち、2回戦で高梁城南に3-0で勝ち、3回戦で興陽に3-1で勝ち、準々決勝で水島工業に3-2で勝ち、準決勝で倉敷工業に0-3で敗れ、3位決定で倉敷天城に2-3で敗れたが、ベスト4に入り、中国大会出場を決めた。女子団体では1回戦で津山高専に3-2で勝ち、2回戦で津山に3-1で勝ち、準々決勝で就実(FC)に0-3で敗れ、5-8位決定で玉島商業に2-3、倉敷青陵に1-3、岡山操山に1-3で敗れ、8位で中国大会出場を決めた。

6月14、16日に中国高校卓球選手権大会(山口県山口市)に出場した。男子団体では2回戦で倉吉西(鳥取)に3-0で勝ち、3回戦で出雲北陵(鳥根)に0-3で敗れたがベスト16に入った。女子

校4-3勝利。6月2日練習試合。対岡山中学校7-0勝利、対岡山中学校6-2勝利。6月8日・9日支部大会。対高屋中学校4-1勝利、対笠岡東中学校0-0引き分け、対笠岡西中学校3-0勝利、対寄島中学校2-1勝利。



またこの日、保護者会より部旗を寄贈していただき、今後も感謝の気持ちを感じず活動していくことをチーム全員で誓った。

※支部大会一位で地区大会を迎えます。新チームは現在42試合中30勝6敗6分け(36得点35失点)。県大会出場を目標に頑張っていますので、応援よろしくお願いたします。

高サッカー部 3月22日・23日・24日に『第3回浅口カップ大会』が本校で行われた。交流戦では、笠岡工業と対戦し、0-0、FC倉工と対戦し、2-3、1-3だった。一次トーナメントでは、瀬

戸と対戦し、3-2、芳泉と対戦し、0-0、PK5-4だった。最終日には一位トーナメントに進み、松江商業と対戦し、0-2、倉敷工業と対戦し、0-0だった。その結果、第3位に入ることができた。4月7日には、『練習試合』を青少年研修広場にて、社会人チームと行った。25×5本で、2-5という結果だった。4月14日にも、操車場跡地Gにて、『練習試合』を行った。結果は、対アクトA(2-4)(80分)、対アクトB(1-3)(60分)、対アクトA(2-0)(60分)、対アクトB(2-4)(60分)だった。『県総体備中地区予選が』4月20日、山陽寄島Gにて行われた。おかやま山陽と対戦し、0-3で敗れた。『高円宮杯U-18サッカーリーグ2013OKAYAMA』が始まった。4月29日には、就実祇園Gにて、新見と対戦し、1-3、5月3日には、水島工業にて、就実と対戦し、5-0、5月4日には、就実祇園Gにて、和氣と対戦し、3-0という結果であった。リーグ一位を目指して奮闘中である。高校三年生にとって、全員そろって臨む最後の大会『備中支部総体備西大会二次リーグ』

が、5月11日・12日に、笠岡商業にて行われた。笠岡工業と対戦し、0-1で敗れたが、翌日の『2位トーナメント』では、龍谷と対戦し、1-1、PK5-4で勝利の上、高三最後の試合となる井原戦は1-0、勝利で終わることができた。サッカーも勉強もがんばり、優しくて仲が良くユーモアのある三年生たちを送る会を6月6日に開き、新旧の引き継ぎをした。新たな気持ちで新チームがスタートする。

中学柔道部 3月20日山口県で行われた岡山県強化遠征に江草ひな子が強化選手として参加した。5月3日には、岡山武道館で行われた強化練習会に参加し、他校の生徒と練習を行った。中二の江草ひな子は5月6日に磐梨武道館で行われた中学強化練習会に強化選手として参加した。

中学1年生3名が入部し練習に励んでいる。6月8日(土)に金光学園柔道場で行われた備西支部シード決めの合同練習会において、中二石井敦浩が、黒川拓馬がそれぞれ紅白戦において勝利した。

高校柔道部 3月26日27日に香川県高松市総合体育館で行われた和旗柔道大会男子

子団体戦に出場した。熊本県南筑高校・香川県高松商業と対戦したが、予選リーグで敗退した。

3月28日29日には広島県で行われた西日本錬成大会・3月30日31日に愛媛県で行われた国体強化錬成大会にそれぞれ参加し、他県の選手と団体試合を中心に練習を行った。

4月20日21日に岡山武道館で行われた中国高等学校柔道大会岡山県予選会において、男子団体1回戦では商大付属高に勝ち、2回戦では倉敷工業高に敗れた。敗者復活戦にまわり、一回戦倉敷鷲羽高に、2回戦玉野光南高校にそれぞれ勝ち、岡山工業高校に敗れたものの、5位入賞となった。個人戦で高3瀬尾光正が81kg級で第3位、高2石井誠一が73kg級ベスト8、高1姫路怜が100kg超級ベスト8であった。高3瀬尾は中国大会の出場権を得た。4月27日岡山武道館で行われた中高合同練習会に参加・5月3・4・5日に香川県立武道館で行われた春季合同練習会に参加し、練習を行った。

6月1日2日におこなわれた岡山県高校総合体育大会に出場し、男子団体は1回戦で岡山工業高校に1対4で敗れた。

個人戦では高3瀬尾光正がベスト16、高3村山晃三・若狭勇紀・小池裕介・高2石井誠一・西井孝輔が2回戦敗退であった。

6月8日9日に行われた、中国高等学校柔道大会に瀬尾光正が岡山県代表として出場し、山口県高川学園高校の松永選手と対戦した。前半は相手に攻められる場面が多かった。ゴールデンスコア(延長戦)に入ってから、得意の内股で見せ場を作るが、惜しくもポイントにならなかった。前半の流れを払拭する事ができず、3分の本戦と2分の延長戦の末、判定で敗れた。保護者や柔道部員をはじめ、岡山県選手団の多くの人から応援を受けた。

中剣道部 一年生の新入部員4名(男子2名、女子2名)が加わり、毎日元気に稽古に励んでいる。

高校剣道部 4月20日(土)・21日(日)、中国大会予選会が岡山市総合文化体育館で開催され、男子団体試合は岡山朝日高校に敗れる。女子個人試合は、日名(三年)、川崎貴乃(二年)が、男子個人試合は、松田(三年)、田村(二年)、文箭(一年)が出場。五名とも健闘したが、いず

れも一回戦敗退であった。

4月27日(土)、国体少年男子・女子予選会が笠岡総合体育館で開催され、男子の部では、川崎敦貴(三年)、田村が一回戦敗退。松田と文箭が二回戦敗退。女子の部では、日名と川崎がともに二回戦敗退であった。

5月11日(土)、第40回備中支部大会(県総体地区予選会)が倉敷商業高校体育館で開催され、男子団体、女子団体ともに一回戦敗退。男女とも敗者復活戦に臨んだが、いずれも二敗を喫し、県総体への出場権を逃した。

6月1日(土)・2日(日)、岡山県高校総体剣道競技が、川崎学園総合体育館で開催され、男子個人試合は、松田が一回戦敗退、川崎が二回戦敗退。女子個人試合は、日名、川崎が二回戦敗退であった。この大会をもって、高校三年生は引退となった。

中男子バスケットボール部 一年生十人を新たに加え、三年生まで総勢二十七人で日々練習に励んでいる。3月末には牛窓で行われた大会に合宿で参加し、チームの親睦を深め、試合経験を増やした。GWに行われた優勝大会では、4戦行い

一勝三敗でしたが、地区大会に向けて、気持ちを新たに日々練習に励んでいる。

中女子バスケットボール部 中学一年生十二名を新たに加え、総勢二十四名で日々練習に励んでいる。五月三日・四日に行われた備西優勝大会では、初日、玉島東中×○学園中、黒崎中×○学園中、学園中○×井原中結果、三勝し、1位通過で1位リーグに進むことができた。二日目1位リーグ戦。玉島北中14-23金光学園中、学園中30-27鴨方中、真備東中18-26学園中、結果3勝することができ、優勝することができた。

また、地区大会においては、第一シードをもらうことができた。

高バスケットボール部 5月4日に行われた備中支部総合体育大会(インターハイ予選)に出場。男子は、1回戦、倉敷高校と対戦し、4Qまでもつれる展開だったが、39-44で惜敗した。女子は、1回戦、おかやま山陽高校と対戦し、これも4Qまでもつれる大接戦だったが、42-44で惜敗した。この大会で三年生が引退し、一二年生の新チームとなった。現在、男子10人、女子6人で9月に行われる選抜大会予選に向けて、日々汗を流

している。

中男子バレーボール部 新中一の入部と同時に夏に向けて、日々精進している。中女子バレーボール部6月8・9日に行われた支部審判講習会兼シード決め会において、矢掛中、奇島中、笠岡東中と対戦し、惜しくも勝利することはできなかったが、リードする場面もあり、よく頑張った。地区大会に向けて、よい準備をして臨みたい。

高男子バレーボール部 新入部員4人を新たに加え、新年度をスタート。四月十九日・二十日に行われた中国大会予選では、岡山理科大学附属高校、岡山芳泉高校に勝ち、準決勝玉野光南高校に敗れ、三位決定戦へ。三位決定戦倉敷商c7大会への出場権を獲得した。五月一〇日・十一日・十二日に行われた第六十五回中国高等学校バレーボール選手権大会では、二回戦山口県第一代表高川学園高校に敗れた。六月八日・九日に行われた岡山県総合体育大会では三回戦井原高校、四回戦美作高校に勝ち、準決勝玉野光南高校に負け、第三位という成績で終わった。全国大会を目標にこれからもがんばりたい。

高女子バレーボール部 現在3名で頑張っています。

少林寺拳法部 新入部員を迎え、日々練習に励んでいる。6月1日(土) 関西高校で行われた高校総体にて、男子単独演武の部にて、高三丸山が第3位、高一中野が第6位。男子団体演武の部にて第2位。丸山と団体演武が中国高校生大会への出場を得た。また、6月2日(日)に本校で行われた中学生大会にて、男子単独演武の部にて、中一佐藤が予選を通過し、本選へ出場。

6月16日に山口農業高校で行われた、中国高校少林寺拳法大会に出場した。男子単独演武の部で出場した高3の丸山聖は、決勝に進出し第6位に入った。また、女子単独演武の部に出場した高1の豊田真以も健闘したものの、あと1点及ばず、決勝進出はならなかった。また、男子単独演武(高1山中、中野、紺藤、三宅、藤原、永井)も決勝には届かなかった。**木綿崎ボランティアクラブ** 2名の新入部員を迎え、校内の清掃を中心に精力的に活動している。また、浅口市が夏に毎年開催する「夏のボランティア」へ参加する予定。部員を中心に、校内にボラン

ティアの風を起こしていきたい。**花道同好会** 毎週火曜日宗教教室で稽古しています。

社会問題研究同好会 新入部員2名を迎え、総勢6名の会員で活動している。今年度は三年生の大西寿弥が岡山県の事務局長、井上雄太が事務局次長を務めることになった。5月3日(金)にはスプリングセミナーに3名が参加した。6月16日(日)には高社研備中地区集会に5名が参加し、レポートを二本発表した。**家庭科同好会** 高校1年の新入部員2名(女子)でスタート。まずは刺繍に取り組んでいく予定です。

バドミントン同好会 高校1年の新入部員1名を迎え、今年もわきあいあいと練習している。念願かなって、7月に初めての公式試合に出場することが決定。まずは一勝をめざしてがんばりたい。

会報

総会 4月27日(土)1限目、授業参観、2限目、学級会、3・4限目、ほつま体育館において、25年度総会と記念講演会が行われた。総会では、各専門部からの会務報告の後、24年度会計決算が承認された。その後、役員改選が行われ、会長に中谷庄吾氏、副会長に往田啓介氏、小川恭史氏、楠戸敦子氏に、監事に中嶋麻偉子氏、宮口智子氏が選任された。

総会後、記念講演が行われ、講師の井上直文氏(金光教石巻教会会長)により、「大地震 大津波に出遇って」の演題で講演が行われた。平成23年3月11日、午後2時46分、未曾有の大地震と津波が起きた。先生の教会も大変な被災を受けたが、その時の壮絶な様子を淡々とお話された。「私たち人間が大自然の恩恵を受け、大震災を、どのように受け止めさせていたのだらよいのか、いまだに私の大きな課題となっている。」とはなされました。なお、この講演の内容は、教養シリーズ

42号として、9月に発刊されます。

第1回全役員会・評議員会 5月17日(木) 今回、役員会開催に先立って昨年リニューアルになった食堂の試食会を開き、約85名の方が参加された。その後アンケートに答えていただいたが、概ね好評であった。第1回の全役員会では、年間予定等について報告があり、また、各専門部の役員決定や活動方針が検討された。第1回の評議員会では、《指導部》部長に平谷由美子氏、副部長に森本淳子氏、《教養部》部長に安原芳里氏、副部長に仙谷正恵氏、《庶務部》部長に、川崎裕子氏、副部長に相原朱美氏がそれぞれ選任された。その後、平成25年度の予算案が提出され承認された。

第2回評議員会 6月7日(木) 内容は、研修会等の参加者決定、地区会開催に関する事、友愛セールに関する事、オープンスクールの協力について、各専門部の活動内容の検討等々について協議した。

- 諸会合**
- 5月11日 浅口里庄高P連総会 里庄福祉会館(往田副会長、佐藤副校長)
 - 5月24日 備西地区高P連春季総会 矢掛文化センター(中谷会長)

○5月30日 保護者会等会長会議 おかやまマルバク(中谷会長)

○6月5日 県幼少中指導者人権教育研修会 浅口市中央公民館(森本・岡本・浅井指導部員)

○6月19日 県高P連総会 ヒュアリテイまきび(中谷会長、佐藤副校長)

○6月20日 玉島署管内子どもを守る母の会総会 玉島警察署(平松玉島西区評議員)

○6月20日 県広域特別補導協議会笠岡支部総会 笠岡市教育委員会(小川副会長 佐藤副校長)

○6月24日 浅口里庄母親委員会第1回研修会 里庄町立図書館(楠戸副会長、宮口監事)

○6月28日 県青少年育成県民会議総会岡山天神文化プラザ(佐藤副校長)

○7月3日 県幼少中指導者研修会 ライフパーク倉敷(安原・小山・山中・谷・仙谷教養部員)

7月6日 「社会を明るくする運動」浅口推進大会(中嶋監事 滝口・田中・高橋・岡本浅口市地区役員)

○7月12日 中四国高P連島根大会 島根県民会館(中谷会長 往田・小川・楠戸副会長 中嶋・宮口監事 佐藤副校長)

金光学園やつなみ保護者会 会長就任挨拶

拝啓 金光学園やつなみ保護者会の皆様方におかれましては、時下ますます清祥のこととお慶び申し上げます。また平素より当会の活動に対しまして深いご理解と多大なるご協力をいただき、心から御礼申し上げます。

私は平成25年度保護者会の会長を仰せつかりました中谷と申します。学園の出身者でもなく、また関西出身者という地元の間でもない私に、歴史ある学園の保護者会会長という大役が務まるのか、という思いもありましたが、推薦していただいた方々のご期待に応えられるように、精一杯努力させていただきます。

さて、私事ですが3年前からある大学の社会人講師を年に一度だけさせていただいております。70人ぐらいの学生を相手に話をするのですが、最初の講義の時に何を話そうか、と迷った末に講義の冒頭に10分ほど今の学生について自分が感じる良い点、という話を話しました。その後は様々なテーマについて話しました。講義の後で全員からレポートを提出してもらおうのですが、その中の多くの方が大体次のようなことを書いていました。

私達の世代はやる気がないとか、根性がない、とか言うことを言われることはあっても褒められるようなことは言ってもらったことがこれまで一度もなかったのだ、今日中谷さんのお話を聞いて私達はもう少し自信を持つていいんだな、と思えました。本当に有難うございました。

私はこのコメントを読んで今の若い世代の方々から元気を奪っているのは実は自分達の世代ではないか、と彼らに対してとても



金光学園やつなみ保護者会
会長 中谷 庄吾

申し訳ない気持ちになりました。私達が若い時でもよく人生の先輩方から「今時の若い人は」という言葉をよく聞きましたが、それほど自分達の世代に対しての否定的な見方はなかった、と思います。でも今の若い世代の多くの方は自信を失っているのではないか、そんな気がいたしました。そして私達の世代がもっと積極的に宝の原石を磨くための努力をしなければならぬ、という思いを強くいたしました。私達保護者は先生方と共に金光学園生という原石を光り輝く宝石へ磨いていく大きな責任を担っていると思います。また生徒達はその可能性を秘めていると思います。一方で学園を取り巻く環境を見れば、外部を見れば少子高齢化の進展に伴う私学間競争の激化、国の私学助成に対する抑制的な態度や、内部的には校舎の老朽化問題への対応等、困難な問題を数多く抱えております。これらの問題の解決には学園だけでは解決が難しいこともあります。学園が保護者と学園生の皆さんにとって素晴らしい学び舎となるように、今こそ学園と保護者会の連携を更に深める必要があると思います。1年という短い任期ではありますが、少しでも皆様のお力になれるよう力を尽くす所存でございます。是非とも友愛セールのご理解とご協力を賜ります様お願い申し上げます。

敬 具

「友愛セール」ご協力をお願い!

9月15日(日)開催

拝啓 保護者の皆様におかれましては、日頃よりやつなみ保護者会の活動に多大なるご理解とご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

さて、本年度もやつなみ保護者会主催の「友愛セール」をほつま祭の2日目の、9月15日(日)に開催させていただきます。今年も多くの保護者の方々にご協力いただいております手作り品や、各ご家庭から提供いただいております多くの物品の販売と共に、同窓生が経営、あるいは近隣にある企業様にご協力いただき、食料品等の販売も行う予定ですので、何卒沢山お買い上げいただきますようお願い申し上げます。

毎年このセールの収益を子ども達が少しでも良い環境で過ごせるようにするために、役立てていただいております。近年では記念講堂の改修や、新しい下足箱の設置等に活用させていただきました。そして手作り会や講習会においては、お忙しい中にもかかわらず多くの保護者の方々が献身的に作業に励んでいただいております。その中で保護者同士の交流が深まり、絆が生まれる場となっております。

是非とも友愛セールの趣旨をご理解いただき、皆様方の温かいご支援を賜ります様心からお願い申し上げます。

敬 具

金光学園やつなみ保護者会
会長 中谷 庄吾

平成24年度 収支決算

金光学園やつなみ保護者会

I. 一般会計

収入の部 (単位: 円)				
科目	予算額	決算額	差異	摘要
1 会費	6,494,400	6,562,400	△ 68,000	月額 P@400、T@400
2 繰越金	1,025,602	1,025,602	0	
3 寄付金	20,000	20,000	0	大祭直会
4 雑収入	150,000	160,456	△ 10,456	預金利息、やつなみ増刷補助、笠岡補導センター補助他
合計	7,690,002	7,768,458	△ 78,456	

支出の部

科目	予算額	決算額	差異	摘要
1 指導部費	605,000	576,475	28,525	
A 地区会費	400,000	373,475	26,525	27 地区
B 生活指導費	5,000	3,000	2,000	広域補導
C 通信連絡費	200,000	200,000	0	家庭連絡電話料
2 教養部費	3,530,000	3,221,118	308,882	
A 機関誌費	2,800,000	2,609,800	190,200	やつなみ233号～235号
B 教養費	730,000	611,318	118,682	
(1) 研修費	400,000	275,258	124,742	総会講演・研修旅行
(2) 教養費	240,000	246,060	△ 6,060	教養シリーズ
(3) 講習会費	90,000	90,000	0	やつなみサークル補助
3 庶務部費	2,560,600	1,840,184	720,416	
A 負担金	450,000	390,210	59,790	私中高父母の会負担金、他
B 名簿刊行費	285,600	285,600	0	学園名簿
C 慶弔費	500,000	365,000	135,000	卒業式、弔慰、饗別
D 会議費	325,000	182,532	142,468	総会、評議員会、役員会
E 旅費	150,000	82,460	67,540	私中高P連総会、大祭湯茶接待、他
F 事務費	150,000	106,100	43,900	諸消耗品代等
G 特別委員会費	600,000	363,617	236,383	中国地区私中高父母の会等
H 雑費	100,000	64,665	35,335	文化祭プログラム、ポスター、他
4 予備費	994,402	0	994,402	
合計	7,690,002	5,637,777	2,052,225	

1. 一般会計

収入総額	7,768,458
支出総額	5,637,777
差引剰余金	2,130,681 円

◎剰余金処分 一般会計剰余金 2,130,681円は、次年度一般会計に繰り越す。

II. 特別会計

収入の部 (単位: 円)				
科目	予算額	決算額	差異	摘要
1 特別会費	8,985,600	8,984,400	1,200	月額 P@600
2 繰越金	1,425,898	1,425,898	0	
3 雑収入	0	0	0	
合計	10,411,498	10,410,298	1,200	

平成24年度決算の概要

学校法人金光学園

平成24年度の決算が、5月24日に開かれた法人評議員会ならびに理事会で承認されました。
学校法人会計の計算書類は、資金繰りの状態を示す「資金収支計算書」、経営状態を示す「消費収支計算書」、財産状態を示す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第47条及び学校法人会計基準第4号に定められた規則に基づき作成したものが、以下の「財務三表」です。

資金収支計算書

収入の部		支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
学生生徒等納付金収入	566,051	人件費支出	897,118
手数料収入	7,030	教育研究経費支出	91,621
寄付金収入	72,267	管理経費支出	30,127
補助金収入	351,282	借入金等利息支出	766
資産運用収入	4,863	借入金等返済支出	123,590
事業収入	2,034	施設関係支出	11,554
雑収入	76,095	設備関係支出	5,463
借入金等収入	110,000	資産運用支出	68,079
前受金収入	52,370	その他の支出	48,764
その他の収入	89,858	資金支出調整勘定	△ 4,449
資金収入調整勘定	△ 56,588	次年度繰越支払資金	62,237
前年度繰越支払資金	59,608		
収入の部合計	1,334,870	支出の部合計	1,334,870

消費収支計算書

消費収入の部		消費支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
学生生徒等納付金	566,051	人件費	911,995
手数料	7,030	教育研究経費	147,886
寄付金	72,430	管理経費	31,696
補助金	351,282	借入金等利息	766
資産運用収入	4,863	資産処分差額	2,215
事業収入	2,034		
雑収入	76,371	消費支出の部合計	1,094,558
帰属収入合計	1,080,061	当年度消費支出超過額	△ 36,567
基本金組入額合計	△ 22,070	前年度繰越消費支出超過額	△ 1,535,295
消費収入の部合計	1,057,991	翌年度繰越消費支出超過額	△ 1,571,862

貸借対照表

平成25年3月31日

資産の部		負債の部	
科目	本年度末	科目	本年度末
固定資産	1,654,590	固定負債	134,209
有形固定資産	1,489,571	流動負債	125,565
その他の固定資産	165,019	負債の部合計	259,774
流動資産	108,845	基本金の部合計	3,075,523
資産の部合計	1,763,435	消費収支差額の部	
		科目	本年度末
		翌年度繰越消費支出超過額	△ 1,571,862
		消費収支差額の部合計	△ 1,571,862
		科目	本年度末
		負債の部、基本金の部 及び消費収支差額の部合計	1,763,435

科 目	H25予算額	H24予算額	H24決算額	摘 要
B 名簿刊行費	271,950	285,600	285,600	学園名簿
C 慶弔費	500,000	500,000	365,000	卒業式、弔慰、餞別
D 会議費	250,000	325,000	182,532	総会、評議員会、役員会、食堂試食
E 旅費	150,000	150,000	82,460	私中高P連総会、他
F 事務費	150,000	150,000	106,100	諸消耗品代等
G 特別委員会費	500,000	600,000	363,617	中国地区私中高父母の会等
H 雑費	100,000	100,000	64,665	文化祭プログラム・ポスター、他
4 予備費	1,679,131	994,402	0	
合 計	8,201,081	7,690,002	5,637,777	

Ⅱ. 特別会計

収入の部 (単位：円)

科 目	H25予算額	H24予算額	H24決算額	摘 要
1 特別会費	9,906,000	8,985,600	8,984,400	月額@650
2 繰越金	2,107,774	1,425,898	1,425,898	
合 計	12,013,774	10,411,498	10,410,298	

支出の部

科 目	H25予算額	H24予算額	H24決算額	摘 要
1 教育後援費	12,013,774	10,411,498	8,302,524	健康センター掛金、事業積立会計への積立、生使用コピー機、生徒会派遣費補助等

Ⅲ. 事業積立会計

収入の部 (単位：円)

科 目	H25予算額	H24予算額	H24決算額	摘 要
1 積立金	4,000,000	3,500,000	3,500,000	事業積立会計への積立（特別会計より）
2 繰越金	7,000,000	3,500,000	3,500,000	
合 計	11,000,000	7,000,000	7,000,000	

支出の部

科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要
1 教育後援費	10,411,498	8,302,524	2,108,974	健康センター掛金、事業積立会計への積立、生使用コピー機、生徒会派遣費補助等

《教育後援費の内訳》

※日本スポーツ振興センター共済掛金	1,228,240	円
※高校図書室コインコピー機リース料	11,970	円
※補習手当補助	170,000	円
※野球応援貸切バス代	46,100	円
※ピアノ移動代（記念講堂へ）	29,400	円
※高P連賠償責任補償制度加入掛金	374,700	円
※生徒会派遣費補助	2,809,814	円
※メール配信システム利用料（H25年4月より運用）	132,300	円
※事業積立会計への積立	3,500,000	円
	8,302,524	円

◎剰余金処分 特別会計剰余金 2,107,774円は、次年度特別会計に繰り越す。

Ⅲ. 事業積立会計

収入の部 (単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要
1 積立金	3,500,000	3,500,000	0	事業積立会計への積立（特別会計より）
2 繰越金	3,500,000	3,500,000	0	
合 計	7,000,000	7,000,000	0	

◎ 剰余金処分

事業積立会計剰余金 7,000,000円は、次年度事業積立会計に繰り越す。

平成25年度 予算

金光学園やつなみ保護者会

Ⅰ. 一般会計

収入の部 (単位：円)

科 目	H25予算額	H24予算額	H24決算額	摘 要
1 会 費	5,900,400	6,494,400	6,562,400	月額 P@350、T@400
2 繰越金	2,130,681	1,025,602	1,025,602	
3 寄付金	20,000	20,000	20,000	大祭直会
4 雑収入	150,000	150,000	160,456	預金利息、やつなみ増刷補助、笠岡補導センター補助他
合 計	8,201,081	7,690,002	7,768,458	

支出の部

科 目	H25予算額	H24予算額	H24決算額	摘 要
1 指導部費	605,000	605,000	576,475	
A 地区会費	400,000	400,000	373,475	27地区
B 生活指導費	5,000	5,000	3,000	広域補導
C 通信連絡費	200,000	200,000	200,000	家庭連絡電話料
2 教養部費	3,545,000	3,530,000	3,221,118	
A 機関誌費	2,800,000	2,800,000	2,609,800	やつなみ236号～238号
B 教養費	745,000	730,000	611,318	
(1) 研修費	400,000	400,000	275,258	PTA総会講演・研修旅行
(2) 教養費	255,000	240,000	246,060	教養シリーズ
(3) 講習会費	90,000	90,000	90,000	やつなみサークル補助
3 庶務部費	2,371,950	2,560,600	1,840,184	
A 負担金	450,000	450,000	390,210	私中高父母の会負担金、他

一日入学のお知らせ

七月二十八日(日)開催

今年も充実した楽しい内容で金光学園「1日入学」が行われます。ぜひ、お知り合いなどにご案内くださいますようお願いいたします。(ポスター、チラシがあります。お申し出いただければ、生徒便でお届けいたします。)

学校説明会

学校紹介と26年度入学についてご説明いたします。学校説明会①・②は同じ内容で行います。どちらかにご参加ください。中学生対象の説明会は、生徒・保護者の両方が対象です。

探究クラス研究発表

探究クラス生徒による研究発表をプレゼンテーションで行います。中学生と小・中の保護者ならどなたでも参加できます。(途中での入退場もできます。)

*一日入学スケジュール

	小学生対象	4歳~小4対象	中学生対象
8:40~	受付 (ほつま体育館下)		
9:10~9:20	オープニングセレモニー (ほつま体育館)		
9:20~9:40	オリエンテーション		
9:55~10:45	楽しい授業体験	学校説明会① (保護者対象) 探究クラス研究発表	チャレンジコーナー 授業体験 学校説明会① (生徒・保護者対象) 探究クラス研究発表
11:00~12:00	部活動体験 チャレンジ	学校説明会② (保護者対象) 探究クラス研究発表	キッズプレイコーナー 部活動体験 学校説明会② (生徒・保護者対象) 探究クラス研究発表
12:00~	個別相談コーナー (希望者のみ) 食堂体験 (希望者のみ、当日食堂を利用できます。)		

※PTAによる、お茶サービスや「何でも相談コーナー」もあります。

【学校・入試説明会】

月日	会場	内容及び時間帯	申込
6月15日(土)	福山 ローズコム (市立図書館) 中会議室	学校説明会 (14:00~16:00)	不要
6月22日(土)	井原 地場産業振興センター 経営研修室		
6月22日(土)	金光学園 (授業公開)	授業公開 (8:45~自由参観) 学校説明会 (10:00~12:00)	不要
6月29日(土)	倉敷 ライフパーク 中ホール	学校説明会 (14:00~16:00)	不要
7月6日(土)	岡山 ピュアリティまきび 中会議室		
7月28日(日)	金光学園	オープンスクールPART I 「一日入学」下記参照	必要
9月28日(土)	福山 ローズコム(市立図書館) 大会議室		
10月5日(土)	倉敷 ライフパーク 中ホール	入試説明会 (14:00~16:00) (個別相談会)	不要
10月12日(土)	岡山 ピュアリティまきび 中会議室 井原 地場産業振興センター 経営研修室		
10月27日(日)	金光学園 ※地域会場 (模擬テストのみ) 岡山総合福祉会館、福山商工会議所	中学入試模擬テスト (9:00~12:30) 中学入試説明会 (13:30~15:00) 個別相談会 (15:00~16:00)	必要 不要 不要
11月3日(日)	金光学園 ※地域会場 (模擬テストのみ) 岡山総合福祉会館、福山商工会議所	高校入試模擬テスト (9:00~12:45) 高校入試説明会 (13:30~15:00) 個別相談会 (15:00~16:00)	必要 不要 不要
11月16日(土)	金光学園	入試説明・相談会 (14:00~16:00)	不要

【オープンスクール PART I・II・III】

対象	行事	日時	場所	内容	申込
小中	PART I 一日入学	7月28日(日) 8:40~12:00	金光学園	授業・部活動体験 学校・入試説明会 探究クラス研究発表 個別相談会	必要
小中	PART II 文化祭見学	9月14・15日(土・日) 10:00~14:00	金光学園	見学とスタンプラリー 個別相談会	不要
小	PART III 中学体育会見学	10月5日(土) ※雨天顺延 9:00~15:00	金光学園 グラウンド	参加種目もあります	不要

詳細は金光学園ホームページをご覧ください。

H26 (2014) 年度の中・高校募集用の「学校案内」ができています。自由に配布できるように用意しています。ご協力いただける方は、ご連絡ください。

HPにも掲載していますので、ご覧ください。

<http://www.konkougakuen.net>



以上 よろしくお願いたします。

【授業体験】 9:55~10:45

チャレンジコーナーとキッズプレイコーナーのみ9:55~12:00

	教科	内容「タイトル」	対象
小学生対象	A 国語	これってなあに? ~伝えたい~	小5~6年
	B 社会	WFC「ワールド・フルーツ・クラシック」~日本の農業について~	小5~6年
	C 数学	魔法の数学は存在する?	小5~6年
	D 理科	光の色と不思議	小5~6年
	E 英語	Let's create in English	小5~6年
	F 技術	パソコンで作ろう ~楽しい暑中見舞い!~	小5~6年
	G 美術	手作りのポストカード	小5~6年
	H 家庭	手作りバフェを楽しもう!	小5~6年
	I① 体育(柔道)	七転八起 ~受け身をすれば大丈夫~	小5~6年
	I② 体育(剣道)	ようこそ剣道ワールドへ ~基本の体験編~	小5~6年
	J チャレンジコーナー	楽しい工作にチャレンジ (途中退場できます)	小1~4年
K キッズプレイコーナー	みんなで楽しく遊びましょう (途中退場できます)	4歳~小2年	

*教科によっては定員に限りがあります。先着順で定員になり次第、第2希望とさせていただきますので、お早めにお申し込みください。
*H家庭科授業体験は、乳製品など食物アレルギーの方はご注意ください。

	教科	内容「タイトル」	対象
中学生対象	L 国語	論理で謎解き! ~玉葱ジュースの謎~	中学生
	M 地歴	文明の誕生	
	N 数学	インド式計算にトライ ~これであなかも計算名人~	
	O 生物	解剖教室2013 ~ニボンのからだを調べてみよう~	
	P 化学	君も一日科学捜査官だ ~ニヒドリン反応~	
	Q 英語	ガンと上達 英会話 ~代名詞を使いこなそう!~	

【部活動体験】

11:00~12:00

①新聞部 ②天文気象部 ③生物部 (小学生のみ) ④電気科学部 ⑤書道部 ⑥茶道部 ⑦音楽部吹奏楽団 ⑧音楽部コーラス ⑨放送部 ⑩科学部 (小学生のみ) ⑪美術部 ⑫ラグビー部 (中学生のみ) ⑬ソフトテニス部 ⑭卓球部 ⑮野球部 ⑯サッカー部 (小学生のみ) ⑰柔道部 ⑱剣道部 ⑲バスケットボール部 ⑳バレーボール部 ㉑少林寺拳法部 ㉒ダンス部 (小学生のみ) ㉓陸上競技部

*小学5・6年生と中学生が対象です。
*運動部は運動ができる服装でお越しください。(例:野球は長スボン) ~授業後の着替え場所があります。
*道具類=野球部は帽子・グローブ、スパイクユニフォームもあればご持参ください。卓球/バレー/バスケット/ダンスは、体育館シューズをご持参ください。テニス・卓球はラケット、サッカーはスパイク、剣道は剣道用具等をお持ちでしたらご持参ください。書道は道具一式、紙をご持参ください。
*屋外スポーツは雨天の場合実施できないことがあります。また、上記以外の部活動は都合により出来ません。

学園だより

出校日・大祭奉仕 四月五日、在校生は出校し、新クラス発表の後、教室移動を行った。また、中二はこれに先立ち、本部祭場の清掃奉仕を行った。イギリスへの海外研修参加者が四日無事に帰金し、本部参拝を行った。

入学式 四月八日、中学は午前中に、高校は午後からほつま体育館で行い、それぞれ百八十七名、二百三十五名（留學生含む）の新入生が希望に胸を膨らませて入学した。

始業式 四月九日、中高合同で一学期始業式がほつま体育館で行われ、新任教員の紹介の後、校長式辞・高三の吉岡千智さんの歓迎の言葉・新入生の川本遙さんの挨拶があった。

◇新入生代表挨拶（中一 川本 遥）
柔らかな暖かな風に舞う桜とともに、私たち中学生百八十七名、高校生二百三十五名は、晴れてこの金光学園の門をく



ぐりました。

新しい友達、初めての先輩方や先生方。今までとは違った新しい学園生活には、不安な気持ちを抱く半面、どんなことが待っているのだろうという期待で心を弾ませていきます。本校は、私たちにとって、

自分で選択した進路であり、今後は、自己責任の自覚をより強くもち、自己の目標に向かって前進する覚悟です。
これからこの金光学園で学ぶ六年間、私たち新入生一同は共に成長し、助け合い励まし合いながら、良い影響を与えられる関係になるよう、努力していききたいと思えます。

合言葉である、「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」を心に刻み、伝統ある金光学園の生徒として誇りを持って実りある学園生活を送ることをここに誓います。

最後になりますが、校長先生をはじめ、先生方や先輩方には、いろいろとお世話になることと思います。どうぞ、私たち新入生をよろしくお願い致します。

新入生本部参拝 四月十一日、晴天に恵まれ中一と高一が金光教本部に参拝し、これからの学園生活の立ち行きをお願いした。その後、境内でクラス毎の記念写真を撮った。

◇お届け（高一 大久保 咲紀）
四月八日、中学校新入生百八十七名、高等学校新入生二百三十五名、合計四百二十二名は多くの方に祝福され、金光学



園に無事入学させて頂くことができました。どうぞ神様にお礼を申し上げて下さい。

私達は、自らの意思で勉強やスポーツに励むために金光学園に進学しました。それぞれの夢を実現させるために精進し、一日一日を大切に過ごして、充実した学園生活が送れるようにすることを誓います。この先、大きな壁にぶつかるとも

あると思いますが、先生方・家族・友人など多くの人に支えて頂きながら乗り越えていきたいと願っています。

また、四月十六・十七日には高校一年生が牛窓の研修センターで、十八・十九日には中学一年生が校内で入校時合宿を行います。全員が当初の目的を達成し、安全に過ごせるようお願いいたします。

◇教主金光様のおことば
皆さん、おめでとうございます。今日も明日もあさっても、みな、今日今日になります。どうぞ『お世話になるすべてに礼をいうところ』をもって、今をたいせつに、今申されました願いに添うて勉強を進められ、おかげをいただかれましよう、祈ってやみません。

なんでも相談室 毎週火曜日は午前十時から午後四時半まで、水曜日は午前十一時から午後三時まで、金曜日は午後一時から午後五時まで教育相談室・相談室で開設され、教育相談委員がカウンセリング・助言・支援を行っている。

街頭交通指導 四月五日から十六日まで教員が通学路に立ち、交通安全・交通マナーについての指導を行った。

検尿 四月十・十一日、中高全生徒を

対象に実施された。

学習合宿 四月十六・十七日、高一は牛窓研修センター「カリヨンハウス」で学習合宿を行い、高校生としての学習習慣を確立するための方法を学び、親睦も深めた。

交通安全教室 四月十九日、中一と高一は備前自動車教習所の先生に交通安全教室を実施していただき、交通マナーや交通法規について学んだ。

入校時合宿 四月十九・二十日、中一が校内で行い、金光教玉水教会控所に宿泊した。学園歌コンクール、町内クリーンオリエンテーリングや夜の集い（集団ゲーム・キャンドルサービス）などを通じ、親睦を深め、集団生活の規律を学んだ。

沖繩修学旅行 四月二十・二十一日、中三は沖繩を訪れた。語り部による戦争体験の話、平和集会や折り鶴献納などを通じ、平和について考えると同時に沖繩の歴史や自然について学習した。

全国学力・学習状況調査 四月二十四日に、中三は生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で、全国学力・学習状況調査を実施した。

総合健康診断 中学は四月二十六日に、

高校は二十五日に、身体測定と内科・歯科・視力・聴力(三年)の検診が行われた。
心電図 五月二日に中一を、一日に高一を対象に実施された。
胸部X線撮影 五月一日、高一を対象に実施された。

やつなみ保護者会総会 四月二十七日、一限に授業参観、二限に学級会、三・四限に総会と講演が行われた。講演は、金光教石巻教会長の井上直文先生の「大地震 大津波に遭遇って」であった。

人権講演 五月二日、高三は元県立岡山盲学校教頭の竹内昌彦先生から演題「私の歩んだ道」で講演を聴き、笑いあり涙ありの素晴らしいお話の中から今後の人生への示唆を受けた。

人権教育 中一は五月七日に、あだ名いじめ・携帯トラブルについてのアンケートをとり、その結果を通信にまとめ、十四日にはそれをもとに、今何ができるかをクラスで話し合った。

避難訓練 五月八日、全生徒・教職員を対象に、避難訓練を行った。
探究講演会 五月九日、中三・高一・保護者を対象に、金沢工業大学虎ノ門大学院の三谷宏治先生から「決める力」と

いう演題で講演が開催された。
ルーマニア大使館書記官来校 五月十四日、高一・高二の探究クラスおよび希望者を対象にEU(欧州連合)主催による講演が開催された。また、四月二十五日には講演会に先立ち、本校の安田先生からEUについての事前学習も実施された。

教育相談保護者会 五月十八日、七名の保護者が参加し、安原こずえ先生を講師に「思春期の心にちかづくために」という演題で話をうかがい交流が行われた。
教育実習 五月二十日から六月八日までの期間、卒業生十名が二週間ないし三週間の実習を行った。

教育キャンプ 五月二十二～二十四日、中二は第46回大佐山教育キャンプを行った。三日とも好天の下、充実したキャンプを体験した。二日目の夜は星座観測、三日目には六年ぶりに野外活動でパラグライダーの体験学習も行われ、初夏の大自然を満喫した。

芸術鑑賞 五月三十日、中学・高校合同で午後には、おふいすべがの『アキラさん』とまこと君 ふたりのオーケストラを鑑賞した。

て頂き、高一と高二は全員、高三の希望者を対象に大学の概要・学部学科や入試制度の説明をして頂き、相談にも乗って頂いた。
進路委員会 七月二日、高三学年団は学力の現状分析と今後の指導方針を検討した。

お祝い 横山教頭先生のご長男には三月三十日に、河田先生のご長男には五月二十六日にご結婚、高田先生には五月二十七日に次女がご誕生、お慶び申し上げます。

お悔やみ 角田先生の御尊父には四月二十六日にご逝去、謹んでお悔やみ申し上げます。

三月号訂正とお詫び 二ページの卒業式の概要の中の来賓祝辞(浅口市教育長 栗山康彦氏)を来賓祝辞(浅口市市長 栗山康彦氏)に、六十七ページお悔やみの中の山路先生の御母堂の三月五日を三月四日に訂正し、お詫びいたします。

喫煙防止指導 五月三十一日、世界喫煙デーに、中二は喫煙防止の指導を行った。タバコのリスクについて話を聞いた後、ビデオを観て感想を書いた。

性教育 中三は五月七日と十四日に、男女交際や性感染症・避妊について学習した。中二は五月二十八日に、ビデオを見てSEXについての正しい知識を学んだ。また、中二の生徒と保護者は六月十三日に、ウイメンズクリニックの上村茂仁先生から「恋をしなくてもいいけど、するならいい付き合いをしよう」という演題で講演を聴き、性感染症・避妊について学習した。

教科担当者会議 各学年において、日頃の授業の様子や中間テストの結果についての情報が交換され、個々のすぐれた点や改めたい点が指摘検討された。

塾対象学校説明会 六月六日、塾の先生を対象に学校説明会を行い、金光学園の学習や行事、部活動などについての現状を詳しく説明した。また、午前中には全学年・全クラスの授業を公開した。

耳鼻科検診 六月五日に中一、六日に高一を対象に実施された。
眼科検診 六月五日に中一と中三、六

表紙の言葉

中西 凱

僕は「兎も片耳垂るる大暑かな」という俳句を版画にしました。この版画では「大暑」というところに注目し、兎が目を細めたり地面にふせたりして人間のようになつてしまっているところを表現しました。また、兎以外があまり目立ってしまふことのないように人間に対して大きさを変えるということも気をつけました。

この版画で細い線や曲線を掘ることに苦勞し、少し失敗した所もありました。ですが、できあがった作品を見て版画の細かい線が掘った後にいろいろな表情として出ていたのでよかったです。

俳句を版画として表すことは初めてだったのでとてもよい経験になりました。今後は自分から進んで取り組み、色を淡くするなど今回の改善を次にしっかりといかしていきたいです。

教室の窓から

高校生活最大のイベント、修学旅行が終わった。生徒それぞれのあふれる笑顔を見てみると、この旅行は大成功だったと言えるだろう。修学旅行の詳細は次号の紀行文に譲るとして、旅行の引率をした私個人が感じたことを記したいと思う。

今回、シンガポール・マレーシアコースが初めて設けられ、私自身も初めてのシンガポール・マレーシアへの訪問だった。シンガポールでの滞在は刺激的なことばかりで、それもとても良い経験であったが、わずか一日とはいえ、マレーシアでの滞在はとて密度が高く、印象的なものであった。「プライ村」という小さな村で、生徒も教員もホームステイをして、家族の一員として迎えていただいた。お母さんの手作り料理の美味しさ、お父さんの優しい笑顔と心遣い、年甲斐もなく童心に返って、家族のあたたかさに包まれ、愛情に甘えた不思議な体験であった。「時間がゆつたりと流れる」という表現はよく聞く

が、家のテラスでのんびりとお茶をいただきながら話をしたり、近所の子供たちとボール遊びをしたり、ぶらぶらと散歩（マレー語では「ジャランジャラン」）をしたりしていると、本当に時間がゆつたり流れていると感じられた。

そんなマレーシアの柔らかい空気は言葉にも表れている気がする。マレー語で「ありがとう」は「テリマカシ」と言うが、こちらが「テリマカシ」と言うと、必ず相手は「サマサマー」とほほ笑みながら返してくれる。それは日本語で言う「どういたしまして」のような意味だが、その響きの優しさ！ 私はなんとなく、「サマサマー」に日本語の「おかげさま」のような響きを感じて、一層優しい気持ちになった。マレーシアでの生活は、時に不便を感じることもあるが、人々が互いに支え合って、にこやかに、あたたかく暮らしている。それはまさに「おかげさま」と互いを思いやり、感謝しながら暮らしている、もしかしたら現在の日本で失われつつあるものが、マレーシアには当たり前のように存在し、当たり前のように暮らしていることを表しているのかもしれない。そのことにとても心打たれた一日であった。

編集後記

今年の芸術鑑賞は、「アキラさんとまこと君二人のオーケストラ」のコンサートが実現しました。誰もが楽しめ親しみやすいと定評があった音楽会は決して前評判を裏切らなかった。到着後、お二人は荷物を持ってほつま体育館へ。宮川さんの「(体育館での演奏は)久しぶりだなあ」の第一声。ゲネプロの最中、体育館のステージ演奏ではピアノの音が十分に伝わらないので急遽フロアへピアノを移動させたいと…。その意図は生徒にできるだけ近いところで演奏したいということだった。叶わぬとなると、ステージぎりぎりまで出して二人の立ち位置を決める。僅か30センチ移動させただけで、音の響きが全く変わった。まさにその道のプロを感じた瞬間だった。生徒の感想文を是非一読いただきたい。

平成25年7月11日印刷
7月19日発行

編集者

金光学園やつなみ保護者会
やつなみ編集部

印刷所

倉敷市船穂町船穂二〇九五一―一
玉島活版所

発行所

浅口市金光町占見新田一三五〇
金光学園内
金光学園やつなみ保護者会



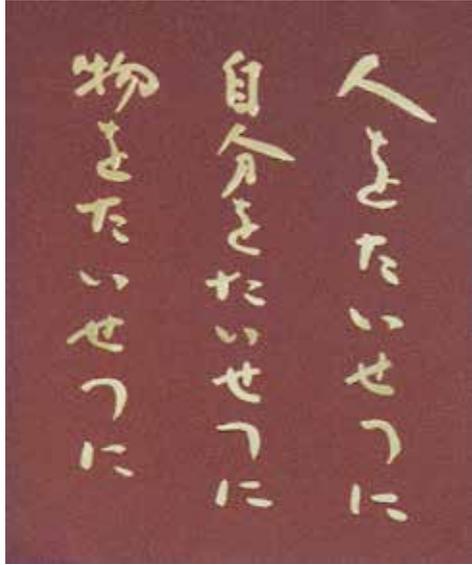
中3

沖繩
修学旅行



中2

大佐山
教育センター



◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

.....
◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

P T A機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<http://www.konkougakuen.net>

E-mail info@konkougakuen.net